

答申を踏まえた基本的な方向性に係る
市民検討会

令和8年3月

横浜市港湾局

目次

1	市民検討会の概要	1
(1)	市民検討会開催に至る経緯と目的.....	1
(2)	募集方法及び募集期間.....	3
(3)	実施体制.....	8
(4)	日程及び各回テーマ.....	9
(5)	市民検討会開催前・開催後の対応.....	11
2	市民検討会各回の記録	12
(1)	第1回 現地見学、印象・感想の共有.....	12
(2)	第2回 「緑・海辺」「インフラ構築と空間整備」.....	17
(3)	第3回 「イノベーション」「賑わい」.....	31
(4)	第4回 「市民が結ぶ新たなまちの環」.....	45
(5)	第5回 まとめ.....	65
3	総括（統括ファシリテーターによるまとめ）	80
(1)	第1回から第4回での議論の積み重ね状況.....	80
(2)	山下ふ頭のまちづくりで 大切に/重視/実現したいこと.....	88
4	参加者の感想	95
(1)	無作為抽出による抽出について.....	95
(2)	市民検討会の満足度について.....	96

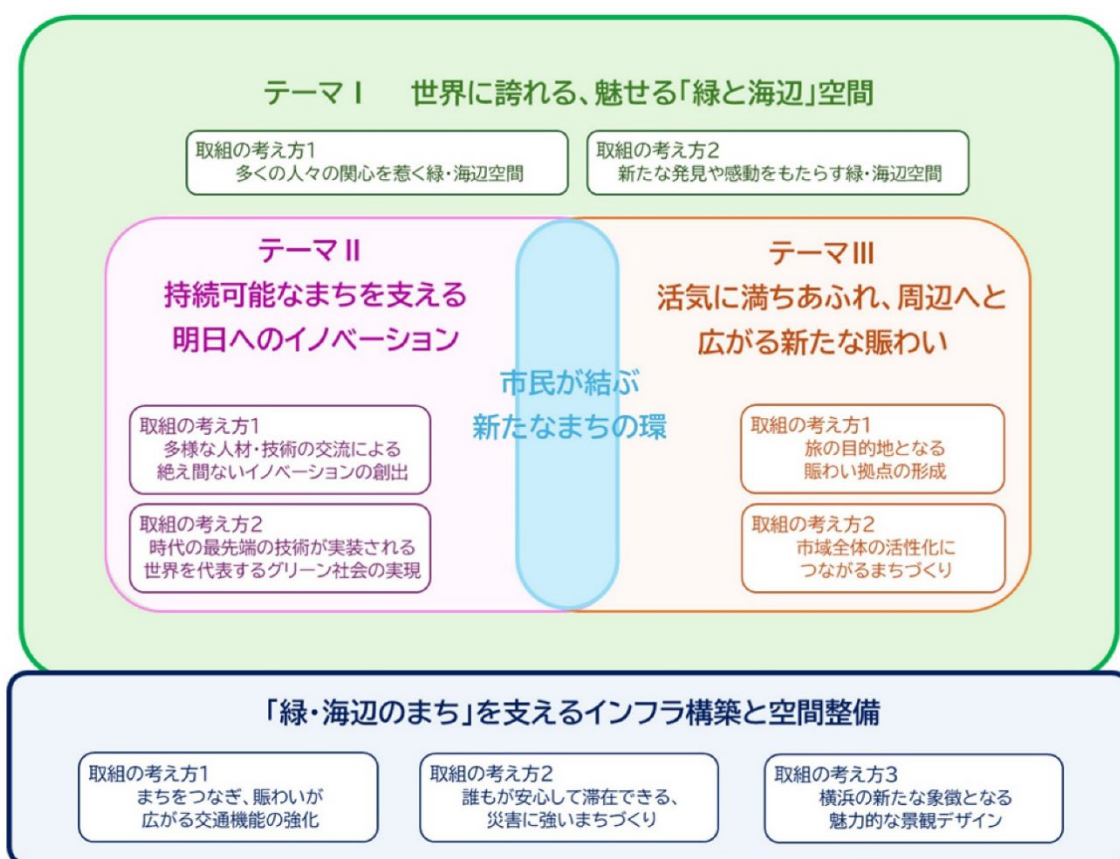
1 市民検討会の概要

(1) 市民検討会開催に至る経緯と目的

横浜市は山下ふ頭の再開発に向け、これまでに2回の市民意見募集や意見交換会を実施してきました。

これらを踏まえ、横浜市山下ふ頭再開発検討委員会（以下「検討委員会」という。）は「目指すべき姿」および「基盤・空間の考え方」を答申としてとりまとめました。

市は令和7年6月、この答申を踏まえて「山下ふ頭再開発 答申を踏まえた基本的な方向性」（以下「基本的な方向性」という。）を公表しました。基本的な方向性では、以下のように山下ふ頭の再開発のテーマを示しています。



検討委員会からの答申では、今後のまちづくりに向けて「引き続き多様な意見を問うプロセスを経ることが望ましい」との考えが示されています。市はこの考え方を踏まえ、市民意見募集を実施することに加え、同じメンバーが継続的に議論を深めていく場を設けることが重要と判断しました。そこで、幅広い世代の市民の方々が参加する市民検討会を開催し、皆様からご意見を伺うこととしました。

市民検討会のポイントは以下のとおりです。

【ポイント】

- ・幅広い世代の市民の皆様から対面で直接意見を伺います
- ・無作為抽出により、多様な市民の参加を促進し、世代を超えた議論の場を設けます
- ・複数回の議論を通じて新たな視点やアイデアをいただき、市民意見の深度化を図ります

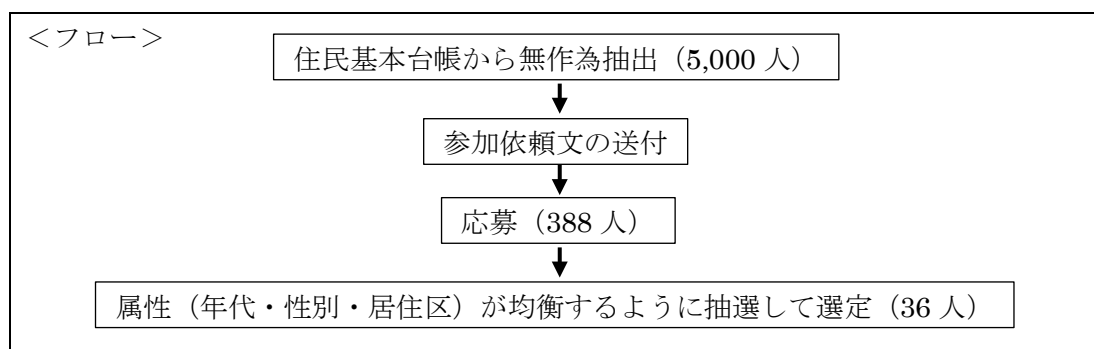
市民検討会では、無作為抽出の方法により、参加者を選定することとしました。参加者を無作為に選ぶことで、これまで市政に参加する機会が少なかった方にも参加の道を広げ、幅広い意見を伺うとともに、今後の市政への関心や参加につながることを期待しました。

特に大規模な土地である山下ふ頭の再開発では、「緑・海辺」空間、持続可能なまちを支えるイノベーション、周辺へと広がる新たな賑わい、市民が結ぶ新たなまちの環、それらを支えるインフラ・空間整備など、複数のテーマが密接に関係します。

このため、1回限りの意見交換ではなく、同じメンバーが繰り返し議論するプロセスを通じて、「基本的な方向性」の理解を深めながら、より具体的で実現性のある市民の意見を整理していくことを、本検討会の目的としました。

(2) 募集方法及び募集期間

市民検討会の参加候補者は、横浜市の住民基本台帳から無作為抽出し、そのうえで参加を依頼し、応募いただいた方の中から選出しました。



① 無作為抽出の方法

令和7年7月時点で市内在住の満16歳以上となる5,000名を抽出しました。抽出の状況は下表のとおりです。

図表 1-1 年代ごとの抽出状況

年代	横浜市の人口※	割合	無作為抽出	割合
16～19歳	131,488	4.0%	207	4.1%
20代	431,026	13.0%	680	13.6%
30代	428,742	13.0%	605	12.1%
40代	512,350	15.5%	786	15.7%
50代	620,915	18.8%	920	18.4%
60代	430,376	13.0%	697	13.9%
70代	409,511	12.4%	604	12.1%
80代～	341,819	10.3%	501	10.0%
総計	3,306,227	100.0%	5,000	100.0%

図表 1-2 性別ごとの抽出状況

性別	16歳以上の横浜市の人口※	割合	無作為抽出	割合
男性	1,628,296	49.2%	2,499	50.0%
女性	1,677,931	50.8%	2,501	50.0%
総計	3,306,227	100.0%	5,000	100.0%

図表 1-3 居住区ごとの抽出状況

区名	16歳以上の横浜市人口※	割合	無作為抽出	割合
鶴見区	260,289	7.9%	358	7.2%
神奈川区	218,539	6.6%	345	6.9%
西区	94,832	2.9%	159	3.2%
中区	140,045	4.2%	216	4.3%
南区	181,390	5.5%	269	5.4%
港南区	187,009	5.7%	278	5.6%
保土ヶ谷区	180,338	5.5%	258	5.2%
旭区	213,532	6.5%	310	6.2%
磯子区	146,130	4.4%	235	4.7%
金沢区	170,901	5.2%	269	5.4%
港北区	313,355	9.5%	447	8.9%
緑区	158,180	4.8%	241	4.8%
青葉区	267,240	8.1%	439	8.8%
都筑区	183,318	5.5%	255	5.1%
戸塚区	244,111	7.4%	401	8.0%
栄区	106,524	3.2%	149	3.0%
泉区	133,030	4.0%	178	3.6%
瀬谷区	107,464	3.3%	193	3.9%
総計	3,306,227	100.0%	5,000	100.0%

※横浜市の住民基本台帳に登録されている人口（令和7年3月末時点）

② 参加依頼

抽出した5,000人の市民に対して、参加依頼文を郵送しました。

③ 応募期間

応募期間は令和7年9月1日までとし、インターネット及びFAXにより応募を受け付けました。応諾いただいた388人の市民の中から、抽選により年代、性別、居住区の構成が均衡するよう配慮しつつ、36名を決定しました。

図表 1-4 送付した案内

参加者募集

**山下ふ頭の再開発について
市民検討会に参加しませんか？**

山下ふ頭の未来を考える市民検討会を開催します。
あなたのアイデアや想いが、より良い再開発に向けた原動力に！

この案内は、市民の中から無作為抽出された5,000人の方だけにお届けしています！

概要

●内容・開催日程(全5回にご参加いただけます)

第1回 現場見学・ガイダンス 9/27(土)	第2回～第4回 山下ふ頭再開発「答申を踏まえた基本的な方向性」等についてグループワーク 10/18(土)・11/8(土)・11/29(土)	第5回 まとめ 12/20(土)
------------------------------	---	------------------------

●会議時間: 9:00～12:00
●会場: 横浜市庁舎(中区本町6-50-10)
※進捗状況に応じて内容等に変更が生じる場合があります。

ご参加の方には、謝礼として各回5,000円分のQUOカードをお渡しします。

応募方法

参加を希望される方は、資料1「ご案内に関するQ&A」を確認いただき、次のいずれかの方法によりご応募ください。

- インターネット**
横浜市電子申請・届出サービスよりご応募ください。
URL: [\[URL\]](#)
- FAX (FAX番号:045-550-4961)**
資料2「山下ふ頭再開発 市民検討会応募用紙」に必要事項を記入の上、ご応募ください。
応募期限 9/1(月) 17時まで
※ご不明な点がございましたら、045-671-7314までお問い合わせください。

まちづくりに関する特別な知識は必要ありません。グループワークでは、ファシリテーターが話しやすい雰囲気になるよう、場のコーディネートを行いますので、お気軽にご応募ください。
※ファシリテーターとは、参加者の意見を引き出し、対話を促しながら、議論を円滑に進める進行役です。

【裏面あり】

参加者決定までの流れ

参加のお申込みをいただいた方の中から、応募状況に応じて、参加者を決定します。

無作為抽出

参加者決定

結果通知

住居基本台帳から5,000人の市民を無作為抽出し、このご案内を送付しています。

応募状況に応じて、抽選により参加者を決定します。

参加者が決まり次第、速やかにお知らせします。
※応募時に記入いただいたメールアドレス宛にお送りします。

山下ふ頭再開発「答申を踏まえた基本的な方向性」について

山下ふ頭の再開発に向けて、これまでに2度にわたり、市民意見募集や市民意見交換会等を実施してきました。その結果を踏まえ、「横浜市山下ふ頭再開発検討委員会」を開催し、まちづくりの方向性等について議論いただき、令和6年12月に答申を受領しました。この答申を踏まえ、令和7年6月に山下ふ頭再開発の基本的な方向性を取りまとめました。

市ホームページ等で山下ふ頭再開発「答申を踏まえた基本的な方向性」を公表しています。ぜひご覧ください。

閲覧ができる場所

- 市庁舎 3階(市民情報センター)
- 各区役所 区政推進課広報相談係
- 市ホームページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/yokohamako/kkikhon/keikaku/yamashita/jo/hokosei.html>

QRコード: ←説明動画もこちらからご覧いただけます

市民意見募集実施中(9/9(火)まで)
市民検討会にご応募いただけない方も、ぜひご意見を寄せてください。

問合せ先
横浜市港湾局山下ふ頭再開発調整課
(TEL)045-671-7314

資料1 ご案内に関するQ&A

<p>Q.なぜ私が選ばれたのでしょうか</p> <p>A. 横浜市民の中から、16歳以上の方5,000人を無作為(ランダム)に抽出して、このご案内をお送りしています。</p>	<p>Q.全ての回の会議に参加しないといけないのでしょうか</p> <p>A. 原則として全ての会議にご参加いただける方を募集しています。</p>
<p>Q.山下ふ頭について何も知らないのですが、応募をしても大丈夫でしょうか</p> <p>A. 各回の冒頭に説明を行いますのでご安心ください。</p>	<p>Q.急用などで参加できなくなった場合はどうすればよいでしょうか</p> <p>A. やむを得ずご欠席される場合は、事前にご連絡をお願いします。</p>
<p>Q.応募をしたら必ず参加できるのでしょうか</p> <p>A. 応募状況に応じて、抽選により参加者を決定します。 参加者が決まり次第、速やかにご連絡します。</p>	<p>Q.交通費は支給されますか</p> <p>A. 交通費は自己負担となります。参加者には謝礼として各回5,000円分のQUOカードをお渡しします。</p>
<p>Q.案内が届いていない人も応募することはできますか</p> <p>A. 応募いただけるのは、この案内が届いたご本人のみです。ご家族など、ご本人以外の方からの応募は認められません。また、代理等による参加もできません。</p>	<p>Q.車の行くことはできますか</p> <p>A. 市庁舎駐車場(最大179台)があります。なお、バイク及び自転車駐輪場もあります。</p>
<p>Q.保護者の同意書の提出は必要ですか</p> <p>A. 未成年の方は、応募にあたって保護者の同意を得ていただく必要があります。ただし、同意書等の書面の提出は不要です。</p>	<p>Q.参加者のプライバシーは守られますか</p> <p>A. 参加者の氏名が公開されることはありません。また、市のHPなどで会議の様子を公開する際にも、個人が特定されないよう配慮します。なお、報道機関の撮影が入る可能性があります。また、同様の配慮を行います。</p>
<p>Q.グループワークとはどのようなことをするのでしょうか</p> <p>A. グループに分かれて、山下ふ頭再開発の「答申を踏まえた基本的な方向性」等について、意見を言っていたいただく場です。各グループには進行役が割り当てられ、皆様が発言しやすい雰囲気づくりをお手伝いします。</p>	<p>Q.参加にあたって配慮してほしい事項があります</p> <p>A. 配慮が必要な方は、応募の際に配慮事項を記入いただくか、問合せ先にご相談ください。なお、内容によってはご要望にお応えできない場合もありますので、予めご了承ください。</p>

資料2 山下ふ頭再開発 市民検討会 応募用紙(FAX用)

【送付先】 FAX番号:045-550-4961

【応募期限】 令和7年9月1日(月) 17時 まで

到達確認のため、FAX送信後にこちらの電話番号(045-671-7314)までご一報ください。
開庁時間:平日 月曜日～金曜日(祝日を除く)、8:45～17:15

フリガナ	-----		
氏名			
住所	区		
性別	<input type="checkbox"/> 男	<input type="checkbox"/> 女	<input type="checkbox"/> その他
生年月日(年齢)	年	月	日 (歳)
連絡先	電話番号:	※日中に連絡のつく番号をご記入ください	
	メールアドレス:		
必要な配慮事項等			
確認事項	<p>下記をご確認いただき、□にチェックを入れて下さい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料1「ご案内に関するQ&A」を確認しました ・ 未成年の場合、保護者の同意を得ています ・ 横浜市職員ではありません ・ 暴力団関係者及び反社会的勢力に関わる者ではありません <p><input type="checkbox"/> 上記内容について、確認しました。</p>		

※応募用紙で収集した個人情報(「個人情報保護に関する法律」等に基づき適正に管理し、市民検討会に関する業務にのみ利用します。)

【問合せ先】
横浜市港湾局山下ふ頭再開発調整課
(TEL)045-671-7314 (FAX)045-550-4961
(E-mail)kw-yamashita@city.yokohama.lg.jp

図表 1-5 年代ごとの応募者・参加者の状況

年代	応募者	参加者
16～19 歳	24	1
20 代	45	5
30 代	47	6
40 代	61	6
50 代	90	6
60 代	59	6
70 代	43	4
80 代～	19	2
合計	388	36

図表 1-6 性別ごとの応募者・参加者の状況

性別	応募者	参加者
男性	184	18
女性	204	18
合計	388	36

図表 1-7 居住区ごとの応募者・参加者の状況

居住区	応募者	参加者
鶴見区	16	2
神奈川区	28	2
西区	16	2
中区	27	2
南区	22	2
港南区	26	2
保土ヶ谷区	22	2
旭区	21	2
磯子区	27	2
金沢区	20	2
港北区	35	2
緑区	17	2
青葉区	21	2
都筑区	28	2
戸塚区	33	2
栄区	11	2
泉区	12	2
瀬谷区	6	2
合計	388	36

(3) 実施体制

① 参加者

- ・ 36名の市民

② 主催

- ・ 横浜市

③ 事務局

- ・ 横浜市港湾局山下ふ頭再開発調整課
- ・ ファシリテーターを含む運営スタッフ

④ ファシリテーター

ファシリテーターは、以下の条件を満たす者とし、横浜市まちづくりコーディネーター登録者を中心に選任しました。

- ・ 多人数ワークショップの企画・運営に関わる業務経験があること
- ・ 横浜市内在住または在勤で、都心臨海部の状況に造詣があること

検討会の各グループには、これらの条件を満たすファシリテーターを配置し、参加者が安心して意見を出し合える場づくりと、各回の議論の進行・整理を担いました。

ファシリテーター（敬称略、()内は担当回）

- ・ 大木 淳（統括ファシリテーター：1～5回）
- ・ 岡村 竹史（1～5回）
- ・ 荒井 詩穂那（1～4回）
- ・ 竹迫 和代（1・2・4・5回）
- ・ 高橋 慧一（1・2・3・5回）
- ・ 小泉 瑛一（1～5回）
- ・ 實方 理佐（2～5回）
- ・ 宮野 健士郎（1・3・5回）

(4) 日程及び各回テーマ

「基本的な方向性」では、テーマⅠ 世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」空間、テーマⅡ 持続可能なまちを支える明日へのイノベーション、テーマⅢ 活気に満ちあふれ、周辺へと広がる新たな賑わい、市民が結ぶ新たなまちの環、「緑・海辺のまち」を支えるインフラ構築と空間整備といった複数のまちづくりのテーマと、その取組の考え方が示されています。

山下ふ頭という大きな土地を活用するには、これらのテーマを個別に検討するだけでなく、相互の関係性も踏まえて総合的に議論する必要があります。

このため、市民検討会では、「基本的な方向性」で示されたテーマⅠ～Ⅲ、「市民が結ぶ新たなまちの環」、「緑・海辺のまち」を支えるインフラ構築と空間整備を、5回に分けて段階的に取り上げる構成としました。同じメンバー・同じグループで5回にわたり継続的に参加いただき、毎回の議論を積み重ねながら、理解を深め、新たな気づきの共有を図ることとしました。

第1回では、現地見学を通じて山下ふ頭の広さや立地条件を体感していただくとともに、「基本的な方向性」の全体像を共有し、素朴な印象や期待・懸念を出し合うことを狙いとしました。

第2回では、「テーマⅠ 世界に誇れる、魅せる『緑と海辺』空間」と、これを支える「インフラ構築と空間整備」をあわせて取り上げ、緑・海辺の魅力づくりと、それを支える基盤・空間整備について議論しました。

第3回では、「テーマⅡ 持続可能なまちを支える明日へのイノベーション」と「テーマⅢ 活気に満ちあふれ、周辺へと広がる新たな賑わい」を扱い、新産業・新技術の導入や、にぎわいの創出・周辺地域への波及について検討しました。

第4回では、「市民が結ぶ新たなまちの環」を主な題材とし、市民活動やコミュニティ、周辺地区とのつながりのあり方など、市民が主体となってまちを結び付ける視点から議論しました。

第5回では、第1回から第4回までの議論を振り返り、テーマ間の関係性も踏まえながら、山下ふ頭全体として望ましい将来像や、市民が重視するまちづくりの方向性を整理することを目的としました。

また、市民検討会では、参加者36人を、各回とも6グループ(A～F)に分けて着席いただきました。年代・性別・居住区がそれぞれのグループ内で偏らないように配慮しています。第3回・第4回には、プログラムの一部として、世代別に分かれ、それぞれで議論のテーマを決め、意見交換を行いました。

各回のテーマを以下に示します。

開催日時	検討テーマ	参加人数
第1回 令和7年9月27日(土) 9:00~12:00	現地見学 山下ふ頭再開発『答申を踏まえた基本的な方向性』の説明等、グループワーク	31人
第2回 令和7年10月18日(土) 9:00~12:00	山下ふ頭再開発『答申を踏まえた基本的な方向性』についてグループワーク (テーマⅠ 世界に誇れる、魅せる『緑と海辺』空間、『緑・海辺のまち』を支えるインフラ構築と空間整備)	30人
第3回 令和7年11月8日(土) 9:00~12:00	山下ふ頭再開発『答申を踏まえた基本的な方向性』についてグループワーク (テーマⅡ 持続可能なまちを支える明日へのイノベーション、テーマⅢ 活気に満ちあふれ、周辺へと広がる新たな賑わい)、『緑・海辺のまち』を支えるインフラ構築と空間整備) 世代別に分かれての意見交換	29人
第4回 令和7年11月29日(土) 9:00~12:00	山下ふ頭再開発『答申を踏まえた基本的な方向性』についてグループワーク (市民が結ぶ新たなまちの環) 世代別に分かれての意見交換	27人
第5回 令和7年12月20日(土) 9:00~12:00	これまでの振り返り、まとめ についてのグループワーク (山下ふ頭のまちづくりで「大切にしたい」、「重視したい」、「実現したい」と考えることは何か。なぜ、そのように思ったのか。)	31人

(5) 市民検討会開催前・開催後の対応

市民検討会の開催にあたっては、参加者の皆さまが当日の議論に臨む前に必要な情報を把握できるよう、事前に関係資料、当日の次第、該当テーマに寄せられた市民意見の概要等を共有しました。これにより、参加者が検討会までに論点や前提条件を整理する時間を確保し、当日により深く充実した議論につながることを期待しました。

開催後は、各回で作成した模造紙や当日の写真等を横浜市ホームページで公表しました。検討会での議論内容やグループワークの成果を可視化して広く共有することで、参加していない市民の方にも検討状況を知っていただけるようにしました。

2 市民検討会各回の記録

(1) 第1回 現地見学、印象・感想の共有

① 日時・参加者数

- ・開催日時：令和7年9月27日（土） 9:00～12:00
- ・参加者数：31人

② プログラム

第1回は、「現地見学」と「基本的な方向性の説明・グループワーク」の二部構成で実施しました。詳細な時間割は下表プログラムのとおりです。

時間	行程
9:00～	開会
9:05～	マリンタワーから山下ふ頭全景の見学 山下ふ頭へ移動
9:30～	山下ふ頭内見学 市庁舎へ移動
10:30～	休憩
10:45～	「答申を踏まえた基本的な方向性」の説明等
11:00～	グループワーク
12:00	事務連絡・閉会

③ グループワークの構成・設問

第1回のグループワークでは、現地見学と全体説明を踏まえたうえで、次のような流れで意見共有を行いました。

- ・各参加者による自己紹介
- ・現地見学の感想・気づきの共有
- ・現時点で思い描く将来の山下ふ頭のイメージの発表

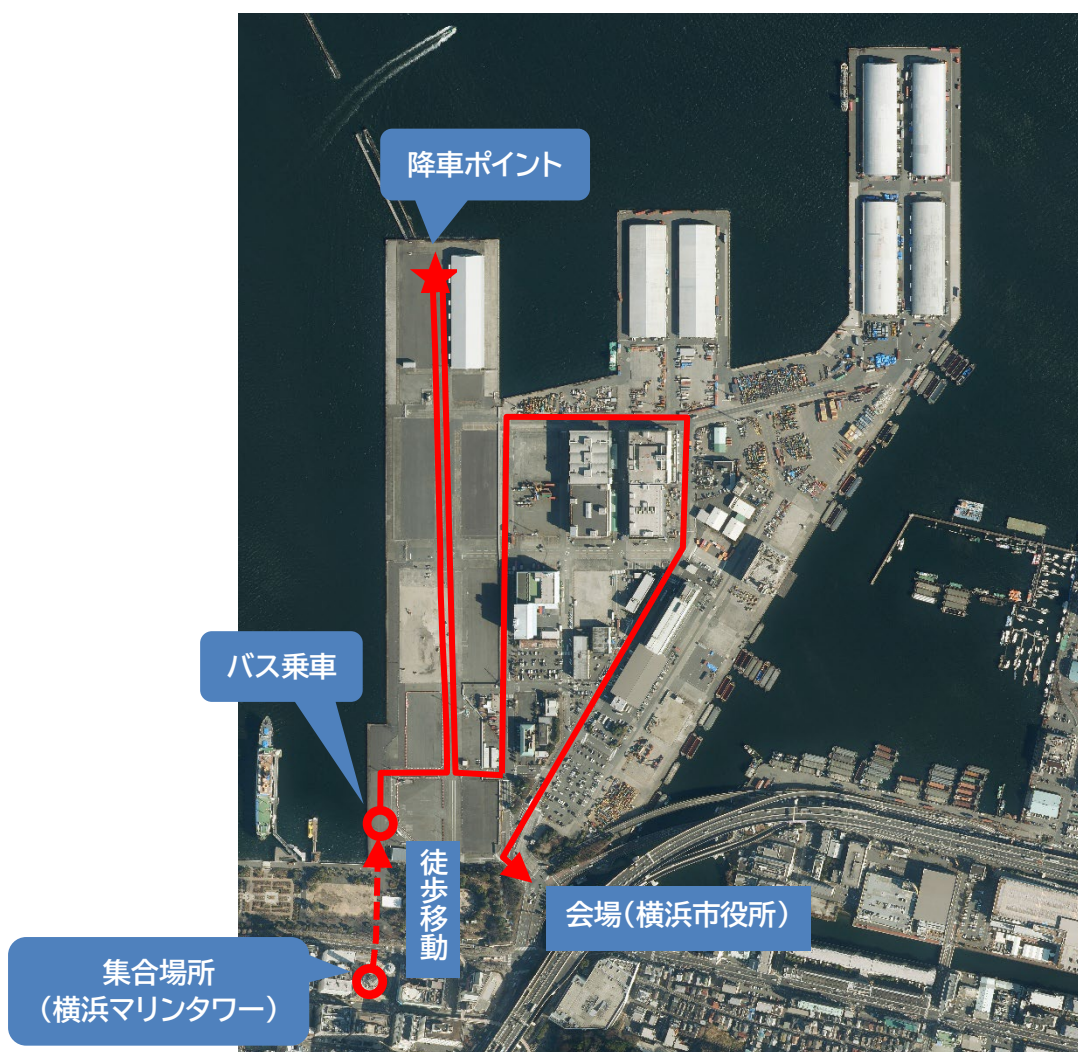
第1回は、主として個人の発表を中心とした構成としたことから、グループごとのプレゼンテーションは行っていません。第2回以降に向けて、参加者一人ひとりの第一印象や関心の方向性を把握することを重視しました。

④ 現地見学の様子

現地見学は、横浜マリニタワーにて、開催目的や当日の流れなどのオリエンテーションを行った後、展望フロアから、山下ふ頭全体と周辺市街地の位置関係を俯瞰する形で見学することから始めました。その後、山下ふ頭へ移動し、ふ頭内をバスで走行しながら主要な地点を見学しました。また、先端部付近等では降車し、横浜の街並みやベイブリッジ等を望む景観などを体感していただきました。

これにより、参加者に山下ふ頭のスケール感・水際線の長さ・都心臨海部との近接性などを実際に確認していただくことができました。現地見学のルートと様子は以下のとおりです。

<山下ふ頭内の見学のルート>



《現地見学の様子》

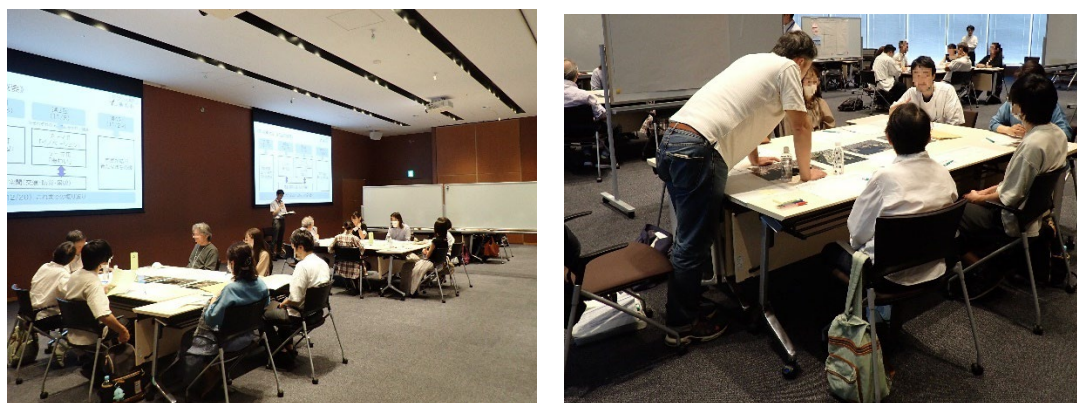


⑤ 基本的な方向性の説明・グループワーク

現地見学後は市庁舎に移動し、事務局から市民検討会の位置づけ、全5回の進め方、当日の流れ、各回テーマと今後の議論の組み立て方の説明を行いました。

その後、「基本的な方向性」についての説明動画を視聴し、理解を深めたうえで、年代・性別・居住区のバランスを考慮した6グループ（A～F）に分かれ、前述の③の流れでグループワークを行いました。

《基本的な方向性の説明・グループワークの様子》



参加者の印象・感想（概要）

A グループ

- ① 現地見学の感想
 - ・「横浜のシンボリックな施設が非常によく見え印象的だった」
- ② 10年後の姿（引用）
 - ・「市民と市外の人、両方の人が集まる場所に」
 - ・「食事や買い物、散策が出来る施設、高齢者にやさしいまちであってほしい」
- ③ 背景（引用）
 - ・「一時的なにぎわいではなく、地域に根づいた施設」
 - ・「近場で海、港、まちを楽しめる場所。家族で来る場所にしたい。」

B グループ

- ① 現地見学の感想
 - ・「空が広くて気持ちが良い」「港らしい迫力がある」
 - ・反面、「風が強い」「日差しが強く、滞在は厳しい」と環境条件を懸念。
- ② 10年後の姿（引用）
 - ・「海と緑を感じられる空間」
 - ・「観光だけでなく、日常的にも使われる場所」
- ③ 背景（引用）
 - ・「横浜らしさを次世代に残したい」
 - ・「環境に配慮した暮らしが重要になっていく」

C グループ

- ① 現地見学の感想
 - ・「都心に近いのに非日常的」「海がすごく近い」
 - ・「アクセスが悪い」「緑が少ない」という課題指摘。
- ② 10年後の姿（引用）
 - ・「子どもから大人まで使える場所」
 - ・「スポーツや文化を楽しめる拠点」
- ③ 背景（引用）
 - ・「市民が日常的に使える場所であってほしい」
 - ・「観光一辺倒にはしてほしくない」

D グループ

① 現地見学の感想

- ・「みなとみらいとは全く違う景色の良さ」
- ・「アクセスが悪い」「風が強くて波が高い」

② 10年後の姿（引用）

- ・「景色の良さは残したい」
- ・「イベントやコンサートが気軽にできる場所」

③ 背景（引用）

- ・「横浜駅に近い場所が多いが、ふ頭には行く理由がなかった」
- ・「アクセスを考え直す必要があると感じた」

E グループ

① 現地見学の感想

- ・「広い空間」「歴史的な雰囲気」
- ・一方で「コンクリートの空間が多い」「緑が少ない」。

② 10年後の姿（引用）

- ・「海を感じられる公共空間」
- ・「山下公園とつながる、多くの人を訪れる場所」

③ 背景（引用）

- ・「今後の人生を考えると、自然のある生活が大事」
- ・「横浜の良さは他県にはない」

F グループ

① 現地見学の感想

- ・「海が近い」「ベイブリッジがよく見える」
- ・「津波等の安全性は？」「風の強さが心配」。

② 10年後の姿（引用）

- ・「海と共存し、発電など環境配慮型の場所」
- ・「日常的に利用される海辺」

③ 背景（引用）

- ・「環境問題は避けて通れない」
- ・「次世代に残せる場所にしたい」

(2) 第2回 「緑・海辺」「インフラ構築と空間整備」

① 日時・参加者数

- ・開催日時：令和7年10月18日（土） 9:00～12:00
- ・参加者数：30人

② プログラム

第2回では、基本的な方向性の「テーマⅠ 世界に誇れる、魅せる『緑と海辺』空間」、「『緑・海辺のまち』を支えるインフラ構築と空間整備」に関するグループワークを行いました。

冒頭、事務局から「基本的な方向性」の該当テーマの説明と該当テーマに寄せられた市民意見募集の概要（AI でまとめた要旨）の紹介を行いました。その後、統括ファシリテーターから当日の流れを説明し、下表プログラムのとおりグループワークを行いました。

時間	行程
9:00～	開会 「答申を踏まえた基本的な方向性」の説明 等 ・ テーマⅠ「緑・海辺」 ・ 基盤・空間（交通・防災・景観）
9:20～	グループワーク (途中休憩)
11:30～	グループ発表
12:00	事務連絡・閉会

③ グループワークの構成・設問

第2回のグループワークは、あらかじめ用意したワークシートに沿って、次の設問で構成しました。

<p>① あなたがイメージする世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」とは？</p> <ul style="list-style-type: none">・「テーマⅠ」に対する感想、意見・第1回で挙げた“印象に残ったもの”との共通点や違い
<p>② 「緑と海辺」のイメージをグループで整理・共有</p> <ul style="list-style-type: none">・個々のイメージを出し合い、グループとしてのキーワード・方向性を整理
<p>③ 誰が・どのように利用するかを検討</p> <ul style="list-style-type: none">・近隣住民、通勤ワーカー、ビジネス客、観光客など、来街ターゲットの想定・「どこから来るか」「どのように利用するか」「その空間の意義・価値」について議論・利用する立場からその空間の意義、あり方の理由や根拠を考える
<p>④ 必要な基盤や機能は何かを検討</p> <ul style="list-style-type: none">・③の利用イメージを前提に、「インフラ構築と空間整備」に対する感想・意見グループとして重要だと考える視点を中心に整理（交通、防災、景観、その他）

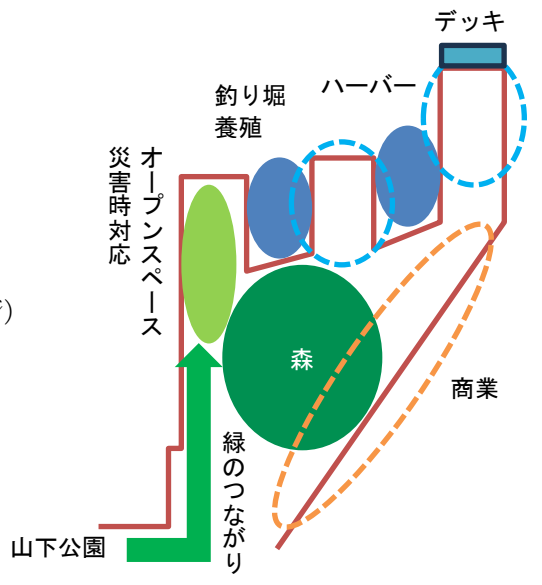
④ グループワークの成果

各グループの議論をファシリテーターが模造紙に整理し、発表を行いました。以下、グループごとの成果として、意見の概要とその場でまとめた模造紙は次のとおりです。

なお、意見の概要については、各グループを担当したファシリテーターが模造紙や議論内容をもとに整理したものです。

《発表の様子》



①あなたがイメージする世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」とは？	②グループとしての「緑と海辺」のイメージを整理・共有	③その場所を誰が？どのように利用する？	④その場合、必要な基盤や機能は何か？
<p>緑</p> <ul style="list-style-type: none"> ○こんもりとしたシンボルとなる森 <ul style="list-style-type: none"> ・山下公園からのつながりで緑は必要 →西側の岸壁沿いに緑をつなげる。そこからもっと緑を深くして森にする。海が見えることで特別感が生まれる。それくらいしないと、あそこまで行く意味がない ・遠景から眺めると、こんもりとした森に見えるように ・森で建物（集客施設）を隠す ・シンボルタワーはあっても良い ○自然の森 <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市にある事例のような近代的な緑では駄目 →四季が感じられるようにしたい（桜を植える等） →明治神宮のようなイメージ →そうすれば、小鳥等も自然と集まってくる ・長い時間をかけて市民が植樹することで、世代が繋がっていく ○オープンスペース <ul style="list-style-type: none"> ・西側の岸壁は大型船が着岸可能なので、災害時の海上物資輸送の拠点として活用するために、オープンスペースとする。平時はイベントスペースとして活用 ・NYのセントラルパークのイメージ ・横浜市がやっているガーデンフェスに活用できる場所 <p>海辺</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ハーバーエリア（中央と東側の突堤） <ul style="list-style-type: none"> ・中央と東側の突堤はハーバーエリアとする（ハウステンボスのイメージ） ・水上交通の拠点としても活用 ・東側の突堤の先端にデッキを新設し、ベイブリッジの景色を楽しむ ○突堤の間にある窪み（海） <ul style="list-style-type: none"> ・釣りを楽しむ（釣り堀等） ・養殖を行う（産業として） ・海の上をデッキにして突堤をつなげる。一部をガラスにして海の様子が見られるようにする ○東側 <ul style="list-style-type: none"> ・小さな店舗が集積する商業エリアとして、ガス灯等で水辺の景観を演出する ○親水空間 <ul style="list-style-type: none"> ・今は断崖となっているが、砂浜のようになだらかに海に接続できるような親水空間があると良い 		<ul style="list-style-type: none"> ○誰もが楽しめる <ul style="list-style-type: none"> ・ベースは市民 ・観光名所、ツアーに取り込む ・外国人も引き寄せる ・お金については検討課題（森の入園料の設定など） ○エリアごとの利用者 <ul style="list-style-type: none"> ・敷地が広いので、エリアの特徴に応じて利用者を設定する →アクセスの良い手前（南側）は市民 →奥側（海側）は観光客 <森> <ul style="list-style-type: none"> ・住民、ワーカーが心地良い、憩いの場 ・幼稚園、小中学校の学校行事とする（遠足等） ・市内の各種サークル団体が利用 ・観光目当てよりもしっかりと森にする ・市民が訪れる場所として、市の花であるバラや各区の花を植える <商業エリア（東側）> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客、休日のファミリーが楽しむ ・ガス灯の演出等で夜景を楽しむ →デートスポット →外国人は中華街、山下公園を巡って、ふ頭に来るのは夜かもしれない <ハーバーエリア（中央と東側の突堤）> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが楽しむ <デッキ（第3突堤）> <ul style="list-style-type: none"> ・非日常を味わう ・横浜の景色を楽しむ 	<p>交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふ頭までのアクセス <ul style="list-style-type: none"> <公共交通> <ul style="list-style-type: none"> ・水上バス→直行便と周遊便（他の施設を巡る） ・周回バス（新規） ・既存バスの延伸 ・ロープウェイ（景観に配慮） <マイカー> <ul style="list-style-type: none"> ・マイカー用の駐車場 ・ふ頭の入口が一箇所のため、車が集中する恐れがある ・なるべく公共交通を使うようにする（駐車料金の工夫等） ○ふ頭内の交通 <ul style="list-style-type: none"> ・電気自動車（バス）を巡回させる ・ロードトレイン（万博記念公園にある） <p>→横浜らしさ（鉄道発祥地）が出る</p> <p>防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西側の岸壁は大型船の着岸が可能なので、災害時の海上物資輸送の拠点として活用する →円滑な物資輸送のため西側はオープンスペースとする ・備蓄は地下に保管する ・防災が体験できる施設 ・災害時の避難インフォメーション <p>景観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物は森より高くしない（高層ビルはみなとみらいで十分） ・横浜らしさの演出（赤レンガ、ガス灯等） ・道路舗装もきちんとデザインする <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふ頭内の施設を案内する案内板（サイン）を充実する

①あなたがイメージする世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」とは？	②グループとしての「緑と海辺」のイメージを整理・共有	③その場所を誰が？どのように利用する？	④その場合、必要な基盤や機能は何か？
<p>○景観・シンボル性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山下公園～大栈橋～みなとみらいのビル群～ベイブリッジ～山下ふ頭とつながる水際線を意識していくことが大切。 ・イメージはオーストラリアのシドニーに近い。山下ふ頭には高い建物は不要。 ・シドニーのオペラハウスのように海からの視認性も意識された建築があるまち。 ・フランス山や港の見える丘公園からの景観も意識されている。 <p>○緑と建築の融合・体験できる自然</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただ自然を守るだけでなく、自然を楽しめる場所。 ・埋立地なのでみどりや育つのも限界があるのでは。であれば、建物にも緑があるとよい。 ・緑と一体になった建築。癒しや安らぎをもたらすためにも人工物の建築物と広場空間のバランスが大切。 ・緑を足したい。建物の壁面や屋根に緑化。イメージはシンガポール。 ・横浜の花であるバラを利用。 ・モエレ沼公園のように空間の中にアートが位置づけられている。 <p>○空間の連続性・回遊性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山下公園などとも連続した自然。山下公園から区切りなく山下ふ頭に入るとよい（物理的な分断だけでなく、雰囲気・テンションもギャップがない）。 ・山下公園で実施されているイベントとの連携も図れるとよい。 <p>○海との関係性・親水体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キラキラ光る海に白い砂浜と海。サップやカヌー、ヨットなどのマリンスポーツができる。 ・大人も楽しめるとよい。 ・船などで気軽に海に出られるようにしたい。 ・幅広い年齢層の人が利用できる親水施設がある（釣り堀など）。 ・憩いの場所でありながら非日常が体験できる。 ・サップは女性のイメージ。ここに来れば、周りを気にせずチャレンジできるような場所になるとよい。 ・多様なアクセスができる。 ・海からも陸からもアクセスができる <p>○健康やウェルビーイングをもたらす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランニングができる。 ・トライアスロンなど、海を活かした世界的イベント地として。（既にやっているが認知度が低い。もっとPRできるとよい） <p>○防災・多目的利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋立地としての安全性。東日本大震災では埋立地での液状化が深刻であった。 ・災害時は広くて平らなスペースがあることが貴重。平常時はライブができるようなオープンスペースであるとよい。 	<p>○キラキラ光る海</p> <p>→今の山下ふ頭からのイメージは黒い海。</p> <p>→海辺というと砂浜があるイメージが強いので、それよりはウォーターフロントの都市というイメージ（シドニーなど）。</p> <p>→キラキラ光る海を体験できるような周遊乗り物などがある（上から見渡せる）</p> <p>○大人も子供も“あそべる”。自分の“あそび”が見つかる。</p> <p>※enjoyよりはFUNのイメージ。</p> <p>○文化・芸術の発信地、体験地。</p> <p>→インバウンドを含め、外から多くの人々がここに集まる</p> <p>→ここに来ると国際的で感性も刺激されるような体験や教育が受けられる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常とイベント時とで利用者が異なる。 ・一体感がありながらもエリアで色分けできるとよい。 ・一日中楽しめる場所 <p>○日常</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い世代の市民が日常的に足を運ぶ場所 ・地元の市民が気軽に来て、文化や国際的視点を生活に取り入れられる ・近隣の人が散歩で利用 ・海が好きな人 ・観光客：リピーター ・新しいものが好きな方々 ・高齢者 <p>○イベント時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント時は国内外から人が集まる。 <p>（例）アート：瀬戸内芸術祭 コンサート：ウィーンやベルリンなど</p>	<p>○景観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市のシンボルをオブジェやアートとして整備 ・シンボリックな建築など ・横浜をイメージできる夜景や景観の連続性。横浜のイメージとして、MM21（商業）～臨海工業地帯の結節点であること。 <p>○交通</p> <p>【山下ふ頭までのいきやすさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電車一本で行けるとよい。 ・歩くのがつらい方のためにも乗り物があるとよい。 ・みなとみらいは、天気が悪い日にはいけない、億劫。天気に左右されず行きやすいとよい。 ・BRT（市民の健康にも寄与する仕掛けがあるとよい）。 <p>【多様なアクセス・回遊性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広いのでそれぞれのエリアへアクセスしやすいよう、入口も複数あるとよい。 ・海からのアクセスもあるとよい。移動もイベントになる。 ・周辺観光地からも行きやすいような目印（案内標識や道路への誘導サイン矢印など）があるとよい。 ・はじめて来た人からはアクセスしづらい場所を感じるため、案内ガイドなどを整備できるとよい。山下ふ頭内もガイドしてくれるとよい。 <p>【混雑対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車の混雑を避けるルートが必要。 <p>○防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの観光客などが来ることを想定すると、災害時も安心して滞在できることが重要。 <p>○その他</p> <p>【空間づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用途を固定化しないステージ ・まちを象徴するようなフォトスポット（雨の日に夜景で写真が撮れなくても代替えできるような） <p>【インバウンド・ユニバーサルデザイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド対応（言語、サイン、空港からのアクセス、横浜周遊ルートの整備など） ・バリアフリー（点字ブロックやフラットな地面など） ・ランナーにとっては、夏場のミストなどの暑さ対策や歩きやすい地面があるとよい。 <p>【ブランディング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食による吸引力は大きい。ホーカーズやラーメン博物館のような、食の名所スポットがあるとよい。 ・山下ふ頭発信の月替わりイベント。 ・注目度や認知度を上げていくには、ネーミングも重要になってくる。

①あなたがイメージする世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」とは？	②グループとしての「緑と海辺」のイメージを整理・共有	③その場所を誰が？どのように利用する？
<p><山下公園との連携や緑地・動線の一体的形成></p> <p>1. 「海辺の森」となるような唯一無二な緑のシンボルづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都会にいながらカブトムシ等の昆虫に触れることができ、ハチドリ等のめずらしい鳥がいるような「海辺の森」をつくる ・このあたりは根岸森林公園や三溪園くらいしか大きな公園がない。しかもこれらは点在していて一体的ではない。シンボリックな森のような緑がほしい ・大きな森をつくることで、ドンキなどのネオンが見えなくなるからよい ・マンションやデパート等にちょっとした緑化があるが、そういう人工的なものではなく、もっとダイナミックな緑化をしてほしい。（ラスベガスの球体ドーム、シンガポール 空港内の屋内緑化等すばらしい） <p>2. 緑と水辺の一体感がほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NYのセントラルパークは水辺から見えるビル群が素晴らしくいつまでも見ていたい光景 ・ストックホルムは、水辺と緑の一体感がどこも素晴らしい ・臨港パークから山下公園までの緑でつながる歩行空間を、山下埠頭の外周までつなげ、市民がランニングや散歩を楽しめるコースとして整備してほしい <p><市民が憩える公園や自然空間><多様な市民が安心して交流できる集いの場></p> <p>1. こどもが冒険できる場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの公園は、敷地内にこども用のハウスがいくつもあり、中で様々な体験（例えば鍛冶屋の仕事体験）ができる。こどもにとっての“まち”の営みが体験できるようになっている。そのような機能があるあそび場がつかれないか ・ストックホルムは公園にバイキングの復元が設置されており、こどもたちが多く集まっている。小さい頃から地域のシンボルに触れるようになっている ・日本の公園はどこも同じ様な遊具ばかりで個性がない（安全性重視）。もっと創造性を刺激するような公園が山下埠頭にできたらいい <p>2. おとなの向上心が刺激される場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッスルビーチ→こどもが公園で遊んでいる間、大人も楽しめる工夫があるといい ・マッスルビーチに設置した自転車を漕いで発電できるようにし、その電力を有効活用 ・広さがあるので多様な層が集い楽しめる場になってほしい <p>3. 隣接してオフィス機能を用意する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く人も、仕事途中で自然空間（公園）でリフレッシュして働けるウェルビーイングな環境があったらいい <p><最先端テクノロジーと自然環境の融合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来の水族館があってもいい（冊子 P28 にあるような） ・元々ある倉庫（4号上屋）を残す、あるいは移築して活用する。例えばプロジェクションマッピングを4号上屋で行う ・山下埠頭が発展していく様子を記録で残し、プロジェクションマッピングで紹介する <p><環境に優しい脱炭素・生物多様性重視のまちづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベニスのゴンドラのように、人力で動かす和船で環境に優しい乗り物を導入する ・和船で周遊できるといい <p><景観の保全></p> <ul style="list-style-type: none"> ・三方が海という空間的な広がりを活かす ・埠頭から見た眺望の良さを活かす、残す ・広くてきれいなのでインフィニティ的なものがあるといい 	<p>・観光客が中華街にきたついでに寄っていく</p> <p>・インバウンドがルールを守らずに来てもらっては困る。埠頭でのルールをきちんと定めて守ってもらうようにしたい</p> <p>・近隣住民が散歩に来る</p> <p>近隣住民も観光客もみんな来られる場</p> <p>ビジネスマン</p> <p>近隣住民も観光客もみんな来られる場 ↓（以降、同様）</p>	<p>交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元町中華街駅から地下通路ができないか ・近隣駅から循環バスのものを走らせる。料金は通常バスの料金程度に設定する ・路面電車の走っているまちの風景は素敵なので、いっそ路面電車を走らせる <p>防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山下埠頭は3.11の時に液状化はなかった（市職員より） ・3.11の時、津波被害は鎌倉まできている ・10年後は今よりAIも発達様々なデバイスが出ているだろう ・スターリンクの活用 ・ドローンの活用 <p>景観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観の高さ制限することと、もし津波がきた時に上に避難する必要性との兼ね合いはどうなるのか <p>その他</p>

① あなたがイメージする世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」とは？	②グループとしての「緑と海辺」のイメージを整理・共有	③その場所を誰が？どのように利用する？	④その場合、必要な基盤や機能は何か？
<p>○緑の連続性</p> <ul style="list-style-type: none"> 山下ふ頭に緑がないので、緑化のイメージがつかない 山下ふ頭へ向けた山下公園からの緑の連続性があると良い 山下公園の緑のある公園という要素が魅力である。そこからの緑の動線やオープンスペースなどの連続性など繋がりをつくる。 建物だけにならず、施設と緑がバランスよく構成されると良い <p>○海辺のロケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 海に近い立地の特性を活かしてほしい 水飛沫がかかるほどに海と近いことは魅力 海との近さが開放感にもつながっている 海と山下公園の緑に囲まれている立地なので、自然的な調和が必要 内港なので水に触れられると良い。砂浜のように水に触れられる場所がない ふ頭の先端の方では水に触れる体験ができると良い（釣りや水遊びなど） 周囲のロケーションなどを活かし、直線的でない計画になると良い。曲線的や立体的な計画で海と人が交差する計画 <p>○海辺に近いことによる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 津波による不安がある 埋立地であり海辺ということもあり、防災対策が必要に感じる 災害対策をどのレベルまで想定するか 海風が強く、日差しも強い。遮るものが少ないので長時間いると疲れる 塩害対策が必要 <p>○開放感のある敷地</p> <ul style="list-style-type: none"> 空に繋がるような景色。海と空を遮らないことによるふ頭の開放感は活かしてもらいたい 現地見学の際の第一印象はただただ広い空間と感じた 日を浴びられることは立地的な良さ。日影があるとゆったりできる <p>○横浜ならではの歴史文化と港町らしさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ふ頭の周りにある港町の歴史的な建物も活かしていきたい 横浜らしい開港の街を活かしたい。歴史を感じられるように。（ただの都会にある緑と海辺は他の場所でもできる。横浜だからできること） 近未来的なだけでなく、横浜の歴史を活かしたレトロとモダンが融合した都市空間としたい 赤レンガやみなとみらいなどの横浜の文化と連携した計画 <p>○多くの人アクセスできる</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状は交通経路が不便に感じる。ふ頭に車で来ようとすると渋滞してなかなか入れない+出られない。 電車やバスなどでアクセスできると外から来た人が訪れやすい 車で来た場合に駐車場があると良いが、ふ頭にスペースを設けるのはもったいないので、付近にあると良い。ふ頭だけでなく周辺の施設に歩いて周れるくらいの場所（山下公園のあたりなど）に駐車場があると良い 	<p>○海辺活用のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> 水に触れられる距離から海を眺められる距離まで、内港だからこそ様々な距離感で海を感じられる計画にする 他の都会の海辺空間ではできない、横浜らしさ、港町らしさをテーマにした活用にする 海風や日差しの対策を行い、快適に利用できる計画にする <p>○緑のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> 山下公園の緑をふ頭内にまで連続させ、緑から海へ、施設と自然を調和させた計画にする 建物だけにせず、施設と緑がバランスよく構成された計画にする 広い敷地を活かし、様々な目的に合わせた緑を考える（ドッグランや緑道など） <p>○全体の活用イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜らしさ、港町の文化や歴史を活かした施設計画や活用を行う 埋立地により地震、津波へのリスクがある。災害対策を踏まえた計画にする 	<p>○多世代を対象にする</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界に発信するのであれば、様々な国や世代の人を対象にする必要があると考える 老若男女にとって居心地の良い場所がある「緑と海辺」 開放的で広いため、エリアを分割し様々な特性を持った活用を行い、多世代が楽しめる計画にする <p>○地元の人も観光の人もしめる場</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的に利用する地元の人、観光で横浜に来る人。双方が楽しめる空間や活用にする 他の観光名所と合わせて訪れてもらえるような連携 <p>○日常的な利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ファミリーや周囲の住民が日常的に利用しても楽しめるエリア（散歩や休日に家族で遊びに来る公園のように） <p>○観光で楽しめる利用</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺施設と連携し、横浜を楽しむ観光客のルートのひとつとして利用してもらう 水上での交通手段など、移動体験を楽しめるようにし、多世代を対象に海を活かした移動コンテンツによる他施設との連携利用 	<p>○景観</p> <p>横浜の歴史文化、開港の街など、一貫したテーマに沿った景観をつくる（開港の街、庭園、大正ロマン、レトロとモダン）</p> <p>海や空に繋がるような景色を活かすため、ふ頭内は高い建物建てず、屋上の広い建物を建てて、少し高い所から景色を見られるように整備する</p> <p>赤レンガ倉庫のように、時間が経っても魅力が落ちない（経年して汚く見えないような）建築を建てる</p> <p>ふ頭だからこそできる多世代に向けたコンサートなどが出来るイベントスペースを設ける（突き出ている3本のスペースの活用など）。また、そのスペースの壁によりふ頭内の施設を塩害から守り、景観を損ねないような整備計画とする</p> <p>内外から見栄えの良い壁の整備。現状の劣化したコンクリートを補強しながら緑と組み合わせていく</p> <p>○交通</p> <p>現状の最寄り駅からのアクセスの悪さを改善する。横浜駅、関内駅、桜木町駅から直接行ける手段の整備を行う（路線バス、電車、水上交通）</p> <p>移動も楽しめるように整備する。水上からのアクセスなどにより、移動も体験的価値のあるアクティビティとして整備する（エアキャビンやロンドンの2階建てバスのように移動もコンテンツのひとつとして扱う）</p> <p>マイカー規制を行い、付近に駐車場を整備する。子供連れでも周囲の施設と合わせて巡りやすい移動計画（レンタサイクル、遊歩道などを整備）</p> <p>ふ頭内が広いため、中での移動手段の整備（動く歩道など）</p> <p>海辺×横浜らしさを活かす</p> <p>横浜の港町にあるふ頭だからこそできる施設連携やイベント</p> <p>海に近いロケーションだからこそ、海に対して様々な距離感で触れられる計画</p> <p>立体的に水と付き合う（流水、橋、渡し船など、様々な距離感で海辺のコンテンツを整備する）</p> <p>ベイホール側を埋め立てつつ、山下町 IC 下の運河の流れを伸ばし、砂浜や渡し船のような水に近いコンテンツを取り入れる（穏やかな流水、水上のアクセス）</p> <p>安心安全に利用できるように</p> <p>多世代、国内外様々な所からの来訪者による治安の悪化を防ぐため、警備や警察の管理が届く整備を行う（ふ頭内への防犯カメラや交番の設置など）</p> <p>インフォメーションや郵便局（遠方との連絡を行える施設）などを集約し、分かり易い整備計画とする</p> <p>24 時間利用可能とするのであれば、治安維持やゴミ問題への対策など、人の目が届く計画とする</p>

①あなたがイメージする世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」とは？	②グループとしての「緑と海辺」のイメージを整理・共有	③その場所を誰が？どのように利用する？	④その場合、必要な基盤や機能は何か？
	<p>【西側エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外海に比べて波や風が穏やか。 ・山下公園の延長で、横浜市民が散策できる親水公園として整備。市内、都内くらいから人が訪れる日常的利用。 ・市民としては無料で気軽に来られることが重要。ときに市民にとっての晴れの場。 ・山下公園との役割分担をして、違った機能や雰囲気を。 ・砂浜や水に触れられるエリアもあってほしい。 ・既存上屋をリノベーションしておしゃれなレストランや旅行者が遊べるような場所へコンバージョン。（例：天王洲TYハーバー） <p>【中央エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小高い丘に木陰や緑のある森を整備。 ・市民も、観光客も楽しめる場所。レストランやエンターテイメントなど。 ・近未来的なデザインの緑や建物の参照事例が多かったが、あえてそのままを生かしたデザインの土地にしてもよい。埠頭にあった倉庫や上屋をリノベーションして歴史を残すような再開発をしてほしい。 <p>【東側エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国、海外からも集客できるような施設。世界 No.1 のなにか？ ・中華街の観光とセットになるように計画 ・東側の海の景観は港やベイブリッジ。そういったものが見える前提で計画。 ・外海は波が荒い。恐怖も感じるので水際線のデザインは配慮を。 ・横浜が目的地になるようなイベント、フェス、スポーツの会場。目的型施設。 ・都市型観光はそこに行かないと見られない、食べられないものを体験したい。世界の料理が食べられる施設など。 ・万単位での来場者に応えられる施設を。 	<p>交通・防災・環境・その他</p> <p>【西側エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徒歩で来場 ・元町・中華街駅、バスとの連携 ・どこからでも水面が見える起伏 <p>【中央エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の交通のハブ ・丘の上に展望台があり、みなとみらいや海が眺望できる。津波発災時には避難タワーの役割も。 ・展望台に植物園や野菜工場 ・埠頭内の情報が集約されて処理されるようなデータセンターや太陽光発電などのエネルギーセンター。 <p>【東側エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太平洋方向、千葉方面に行き来できるような水上交通の乗り場 ・横浜市にちゃんと税金、家賃が入るような仕組みを。赤字になるくらいなら公共空間は整備せず既存のままでもいい。 	

①あなたがイメージする世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」とは？	②グループとしての「緑と海辺」のイメージを整理・共有	③その場所を誰が？どのように利用する？	④その場合、必要な基盤や機能は何か？
<p>1. 多くの人の関心を惹く</p> <p>○木々</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の景観はあまり楽しめるものではないと感じたので、植物で色彩を出す ・展望台からは良かったが、視点が低いと景観が楽しくない ・四季を感じられる植樹を（桜、モミジ、イチョウなど） ・どこの対岸から見ても美しい緑（森）、そこにいる人だけでなく、船からも、対岸から見ても美しく ・大きなイメージはブリスベンのような都会の景観と自然の調和 ・高い木は少なめに、時々、虫や鳥も見られる、もじゃもじゃではなく、ほどほどの森や林 <p>○青い海</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キレイな海（ゴミが少ない、透明感） ・魅せるためには、海の色がきれいにならないと、海辺で遊びたいと思えない ・海の水の色をきれいにすることが大事 ・横浜って何色か？青、ブルーのイメージ、市のロゴにもブルーがある ・山下ふ頭の海は黒い！ ・ヘドロの浄化やたい肥化、海水から発電など資源・エネルギー循環のための技術がある、水質を改善する稚貝をまくなど活動も <p>2. 新たな発見や感動をもたらす</p> <p>○芝生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨港パークから続く海辺の公園を大事するため、山下ふ頭内に高い建物でなく、芝生を基調とした地面で過ごす場所を拡大、芝生で屋外コンサートやイベントができる広い広場を残す ・緑の芝生の上で座ったりして過ごす（帯広のグリーンパークは広大な芝生を子連れが埋め尽くす） ・商業施設を作るよりは、芝生を多めにしてマリンスポーツを出来るようにしたい ・真夏の日射しを避けられる屋根、グリーンカーテンなども <p>○木々</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝生広場の周りを散歩やジョギング <p>○建物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災のことも考え、一つ大きな建物、避難場所を含めた建物をつくる（シドニーのオペラハウスのイメージ） ・屋内でのコンサートやイベントも可能となる 	<p>○真ん中に芝生広場、周りに木々や花々を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地上（グラウンドレベル）で楽しめる空間を ・子ども達が走れる広い芝生を、防災にも活用 ・芝生の周りに、木漏れ陽のなかを歩いてリフレッシュできる木々を（根岸森林公園、三ツ沢公園が近いイメージだが同じようでは意味がない） ・夏の暑さは危険、暑すぎず水辺を楽しめる木々を ・船や対岸から緑が見えるように緑を配置 ・緑は、人工的と自然のちょうど良い塩梅に <p>○中央にシンボリックな建物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客を考え、シンボリックな建物があることも必要 ・四方から集まりやすい（逃げ込みやすい）中央に ・建物は、芝生など緑の延長線にある見え方に ・周辺の緑との調和を（木質など） <p>○突端部にきれいな海を育てる活動や施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふ頭の突端部に環境を改善する施設を ・子どもたちと一緒にきれいな海を育てる活動を 	<p>○子ども、子連れ（+大人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い芝生広場で、車の往来の心配なく素足で楽しめる ・子連れのお友達同士で安心して来られる ・大人も、靴を脱いでリフレッシュ、遊ぶ子ども達を見てほっこりできる ・そこで過ごしている人たちも合わせて「景色」がある <p>○大人（お年寄りも外国人も）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリア内での山下ふ頭の特徴として、山下ふ頭は時間をゆったり過ごせる場に ・観光地、ショッピング、飲食、遊ぶ場所はまわりにいっぱいある（中華街、みなとみらい、赤レンガ、元町、野毛など） ・山下ふ頭に全てを入れなくてよい、完結しなくてよい ・周りと合わせて1日遊べるように ・昼の顔と夜の顔があってもよい（昼は子どもやファミリー、夜は女性も安心して行けるなど） <p>○全市で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境改善で出来たたい肥を市民や市内の農家で活用するなど広域で 	<p>○交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りのエリアと行き来しやすく（シェアサイクルなど） ・ファミリーは車で動く人が多いので、入り口には駐車場を ・車はふ頭の中まで出入りしないように（車の行き来と安心は対立する） ・自転車や徒歩など、いかに気持ちよく歩けるかを大事に ・高齢者は長い距離は歩きたくない、でも廻りたい、ぐるっと周れる乗り物を ・「環境にやさしく」は当然、エンタメ性も <p>○防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常時に使用するオープンスペースの活用という点で考えた場合、緑や芝生部分を広く設けても良いのではないか ・建物の2階、3階に逃げられる場所を ・強風時の風の通り道を考えて吹き抜けなど ・自家発電も <p>○景観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物は周辺の緑と調和し、緑の延長線にある見え方に（再掲）（モエレ沼公園みたいなイメージ？） ・夜景が水面に映るよう、海側からのライトアップなど、夜景も考えて照明を ・景観を考え、環境のための施設などは地下を使えないか？→高潮などの浸水を考えると地下に設備は難しいのではないか <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレは分散してどこからも行きやすく、景観に配慮して配置 ・回遊するからこそ、外国人にもわかりやすいサイン、インフォメーションを ・運営するための収益も必要

(3) 第3回 「イノベーション」「賑わい」

① 日時・参加者数

- ・開催日時：令和7年11月8日（土） 9:00～12:00
- ・参加者数：29人

② プログラム

第3回では、基本的な方向性の「テーマⅡ 持続可能なまちを支える明日へのイノベーション」「テーマⅢ 活気に満ちあふれ、周辺へと広がる新たな賑わい」に関するグループワークを行いました。

冒頭、事務局から「基本的な方向性」の該当テーマの説明と該当テーマに寄せられた市民意見募集の概要（AI でまとめた要旨）の紹介を行いました。その後、統括ファシリテーターから当日の流れを説明し、下表プログラムのとおりグループワークを行いました。なお、グループワークは、グループをイノベーションと賑わい3チームごとに分けて実施しています。

最後に、世代別に分かれ次回議論したいテーマについて話し合い、各テーブルのファシリテーターより報告を行い、第3回プログラムを終了しました。

時間	行程
9:00～	開会 「答申を踏まえた基本的な方向性」の説明 等 ・テーマⅡ「イノベーション」 ・テーマⅢ「賑わい」
9:20～	グループワーク (途中休憩)
11:30～	グループ発表
12:00	事務連絡・閉会

③ グループワークの構成・設問

第3回のグループワークは、あらかじめ用意したワークシートに沿って、次の設問で構成しました。

<p>① テーマⅡ「イノベーション」、テーマⅢ「賑わい」に対するあなたの感想・意見</p> <ul style="list-style-type: none">・自身のライフスタイルとの関わりなどをイメージしながら、両テーマへの感想や意見を記入
<p>② グループが期待する「イノベーション」または「賑わい」を整理・共有</p> <ul style="list-style-type: none">・自身が期待する「イノベーション」／「賑わい」・なぜそれを期待するのか（理由／イノベーションまたは賑わいの効果）・メンバー間での共有を踏まえ、「グループとして期待するイノベーション／賑わい」を整理
<p>③ これまで議論してきた内容やソフト施策の視点との関連を検討</p> <ul style="list-style-type: none">・「緑・海辺」「インフラ構築と空間整備」など、これまでの議論との関係性・ソフト的な取組（イベント、仕組み、運営方法など）のイメージを膨らませる

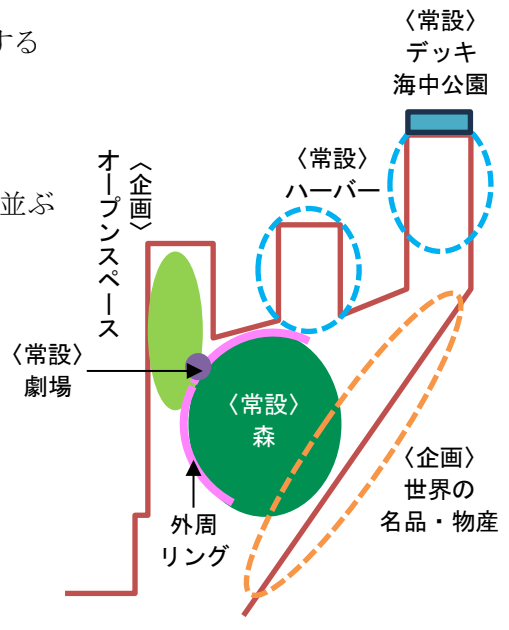
第3回の途中では、参加者に一時的に席替えをしていただき、世代別に分かれ、それぞれで議論のテーマを決め、意見交換を行いました。

④ グループワークの成果

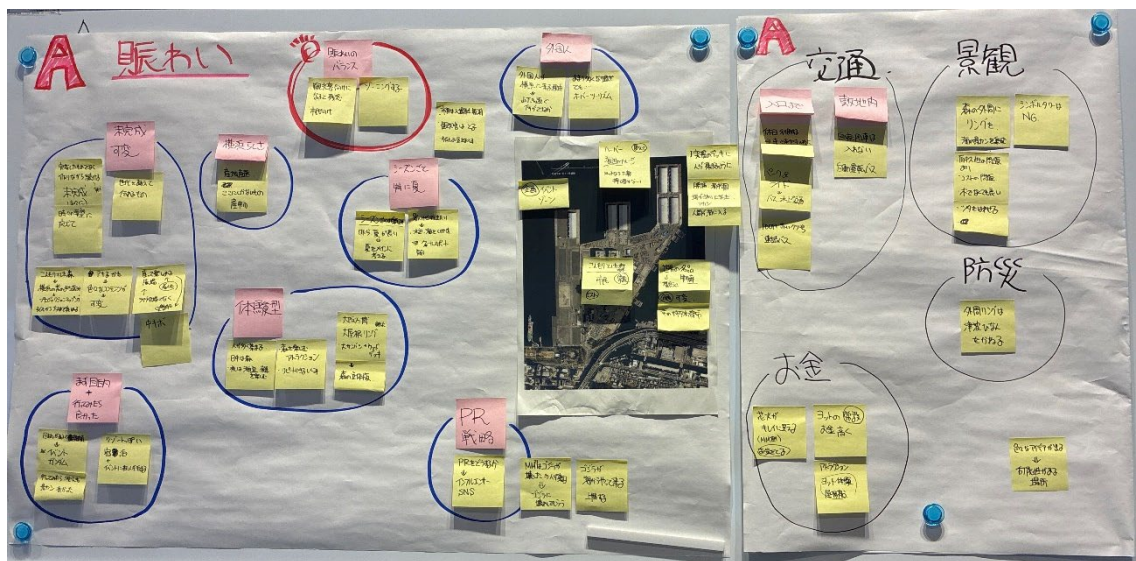
各グループの議論をファシリテーターが模造紙に整理し、発表を行いました。以下、グループごとの成果として意見の概要とその場でまとめた模造紙は次のとおりです。

なお、意見の概要については、各グループを担当したファシリテーターが模造紙や議論内容をもとに整理したものです。世代別に分かれた際のグループワークの内容については、第4回目のまとめにて掲載しています。

①テーマⅢ「賑わい」に対するあなたの感想・意見	②グループが期待する「賑わい」を整理・共有	③これまで議論してきた内容やソフト施策の視点
<p>○山下ふ頭に来る理由</p> <p><産物></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分がどこかに出かけることをイメージすると、そこにしかない産物を買に行くと、山下ふ頭にもここにしかないものがあると良い <p><外国人></p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人が横浜に来る理由は何か。山下ふ頭で何ができるか <p><目的+来てみたら良かった></p> <ul style="list-style-type: none"> まずは訪れる目的が必要（例えば、イベントやガンダム等） その目的で来てみたら、他にも、森があったり、景観が良かったりして発見があるのではないか リゾートっぽい感じだと宿泊施設があると良い →遠方からイベントに来た人が泊まる <p>○体験型</p> <ul style="list-style-type: none"> 人が多く集まり、リピートするのは、体験できること 森を楽しむアトラクションがあると良い。 日中は、森を楽しむ。夜は、海辺、夜景を楽しむ <p>○シーズンごとに楽しめる（特に夏）</p> <ul style="list-style-type: none"> シーズンごとに楽しめるが良い 特に昨今は夏が暑くて長いので、夏に楽しめるコンテンツがあると良い →暑いけど行きたいと思えるように、水辺、海を活かす →気分的にクールになれると良い →森でミスト <p>○場所の力</p> <ul style="list-style-type: none"> 皆さんからこれだけ色々な意見が出るということは、少なくとも可能性がある場所である（どうしようもない場所ではない） 	<p>○賑わいのバランスを保つ</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光客向けになると残念。基本は市民向け 外国人があまり多くなり過ぎるのも問題。今、各所で発生しているオーバーツーリズムの問題は避けたい →ゾーニングする <p>○未完成とする</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初から完成させるのではなく、作り続ける。永久に未完成 時代時代の要望に応じて、必要な機能を導入する 世代を超えて伝えていく <p>○常設ゾーンと企画ゾーン</p> <ul style="list-style-type: none"> こんもりとした森の中では、プロジェクションマッピングで横浜の昔のまち並みを映す。市の資料にある現代的なアートではない（チーム・ラボ等）。そうすれば、子どもから大人までが楽しめる 飽きるかもしれないので、色々なコンテンツが楽しめるように可変できるようにする →美術館に例えると、常設展示と企画展示というイメージ。常設ゾーンは固定・不変、企画ゾーンは入れ替え可能とする <p><常設ゾーン></p> <ul style="list-style-type: none"> こんもりとした森 →大栈橋のウッドデッキが平面的な散策に対し、この森は立体的に楽しめるようにする →大阪万博のような大屋根リングを森の外周（西側～北側）に設置して、海の景観を楽しむようにする 座って楽しめる劇場（中規模） →ライブ会場のように立ち見を前提とすると若者しか使えないので、高齢者も楽しめるように座席型の劇場とする →森とオープンスペースの間に配置する。オープンスペースは災害時には防災拠点となるので、そこに劇場を隣接することで避難施設として活用できるようにする デッキ（第3突堤の先） →人を集める場所としてデッキを整備し、ベイブリッジの景観を楽しむ →かつうら海中公園（海中展望塔）のように、人が海中に入って海の様子（魚等）を楽しむ ハーバー（第2突堤、第3突堤） →海辺ならではのイメージや夏らしさを演出する →ヨットなら大勢押し寄せることにならない <p><企画ゾーン></p> <ul style="list-style-type: none"> 東側の商業エリア →世界（横浜市の姉妹都市等）の名品・物産が並ぶ →展示替えができるようにする オープンスペース →様々なイベントを楽しむ 	<p>テーマⅠ「緑と海辺」</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央に森を配置、外周に景観を楽しめるリング…常設、市民・観光客 東側の水辺に商業集積…企画（入替え）、観光客、週末ファミリー 第3突堤（東）の先端に景観デッキ、海中公園…常設、観光客 第2突堤（中央）と第3突堤（東）はハーバー…常設 第1突堤（西）はオープンスペース…企画（入替え）、観光客 <p>交通</p> <p>○ふ頭までのアクセス</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が休日利用を想定すると自家用車になる →駐車場はまずは平面利用、利用者が増えてきたら立体化する パークアンドライドを導入する →ライドする手段は、周遊バス（あかいくつ）、連結バス、水上バス <p>○ふ頭内の交通</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気自動車（バス）を巡回させる <p>防災</p> <ul style="list-style-type: none"> 劇場（座席）は非常時の避難場所としても活用できる 森に設置する外周リングは津波避難を兼ねる <p>景観</p> <ul style="list-style-type: none"> シンボルタワーは不要（マリンタワーがある） 森に外周リングを設置し、海の眺めを楽しむ →木造では耐久性やコストの問題があるので、鉄骨等としてツタを這わせて隠すこともある <p>ソフト施策</p> <p>○PR戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> 賑わうためには、PRが重要 →ディズニーランドに行く際には、SNSインフルエンサーの影響が大きい。お金が気にならない →MM21はゴジラが映画で破壊して、その後、賑わうようになった。それにあやかって、山下ふ頭もゴジラにPRしてもらえると良い。ゴジラが海から山下ふ頭に上陸すると宣伝になる <p>○稼ぐ戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> オープンスペースでは、MM側の花火がきれいに見えるので、観覧料をとる ヨットの係留料金を高く設定する ヨット体験ができる有料のアトラクション ヨットを使って屋形船のように遊覧する



《Aグループ模造紙》



①テーマⅢ「賑わい」に対するあなたの感想・意見	②グループが期待する「賑わい」を整理・共有	③これまで議論してきた内容やソフト施策の視点
<p>① 歴史・文化的背景（横浜らしさの源流）</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜の現在があるのは、開港都市としての歴史の影響が大きい。賑わいの出発点・原点である。 横浜は、吉田新田など江戸初期の埋立によってつくられた港町であり、その歴史を知る機会があるとよい。 横浜の賑わいは、和・洋・中が調和している点の特徴。 ハイカラなイメージが根付いている。 <p>② 都市のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> 象徴的な建築物が、まちのイメージや景観を形づくっている。 ナイトエコノミーも充実している。 エンターテインメントが盛んで、誘致により税収にも寄与している。 <p>③ エリアとしてのにぎわい</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定エリアだけでなく、周辺の観光地にも行ってみたいくなる。 集客が多いのはフェスやスポーツなど。 <p>④ 受入環境（インクルーシブデザイン）</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い来訪者にとって、物理的にも言語的にも壁を感じない環境が必要。 <p>⑤ にぎわいの質</p> <ul style="list-style-type: none"> にぎわいと混雑はちがう。うまく分散できる配置が必要。 	<p>◆開港都市としての文脈を活かした海外文化の入口</p> <ul style="list-style-type: none"> 開港都市として海外の新しい文化や暮らしが流れ込んできた歴史（アイス、ナポリタン、野球など）を踏まえ、国際的な文化の入口・交流点としての役割をさらに発揮できるとよい。 大阪万博や花博のレガシーを受け継ぐ場所。 <p>以下、具体的な要素として</p> <p>①滞在できる：イベントでの来訪をきっかけに横浜を楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> イベントは集客のきっかけであり、イベントだけを目的にきて帰ってしまうのではなく、そこからどこか遊びに行きたくなるような受け皿（食、体験、宿泊など）があるとよい。 ナイトエコノミー…エリアを区分し、夜に飲食や体験ができる場所があってもよい。 <p>②体験できる：ここに来れば新しい技術や伝統が学べる</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育価値のある体験ができる場所。 子育て世代の体験施設。 親子三世代で体験できる施設。 市内・国内の歴史から、世界的な社会課題までを学び体験できる施設。 小学生等の社会科見学等でも利用される（ここに来れば新しいコトが学べる）。 <p>③くつろぐ：“ごろん”とできる場所がある（都会的な喧騒があっても疲れしない）</p> <ul style="list-style-type: none"> 居心地の良さや快適性 くつろぎのなかにも図書館やアートなどの文化的要素があるとよい。 緑や水の癒しを求めて訪れる場所 何の目的がなくでも来たくなる場所 <p>④景観：この場所をイメージさせる象徴となる景観がある</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きなモニュメントや建築など周辺にも波及するようなシンボルがある（船など）。 建築物についても、どこにでもある建物ではなく、近代建築がある横浜として、新しい技術や当時の技術を取り入れた建築が建てられるとよい。防災面でも強固なものが建てられるとよい。 周辺に既にある個性とかぶらないようにするべき。 既にみなとみらいや赤レンガ地区のような素晴らしい景観があるので、山下ふ頭からその景観を楽しめることも重要。 	<p>景観</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜をもっと身近に感じてもらうため、ライブカメラなどがあるとよい（例：シドニー） <p>交通・アクセシビリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> 会場までのアクセスや会場内外での移動など、多様な移動手段があるとよい バリアフリー <p>安全・セキュリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの人が集まるイベントであれば、スポットでのイベントスタッフ配置が必要 世界からの来訪が増える日にはセキュリティ対策も重要（緩和の中で遊べる空気と秩序のバランス） <p>その他インフラ環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設（量・多様性・立地） 音楽がながれているとよい（くつろげる要素として）。 通信環境（多くの人が集まる場所に必要な回線容量・Wi-Fi） 電力（イベント・常設設備を支える電力供給）

①テーマⅡ「イノベーション」に対するあなたの感想・意見	②グループが期待する「イノベーション」を整理・共有	③これまで議論してきた内容やソフト施策の視点
<p>【既存のイノベーション事例として思いつくもの】</p> <p>《アクロス福岡》屋上緑化や各階緑化がされているオフィス。働く空間への緑の導入事例として先進的。</p> <p>《高輪ゲートウェイ》駅前に水が噴霧される水場があり、子どもたちが走り回っている様子が革新的だと感じた</p> <p>《30年前の働き方改革》働き方改革がおきたこと自体がイノベーションであると感じている。物質的なものだけではなく、システムや暮らし方もイノベーションであると捉えられる。</p> <p>《Google オフィス》ソーラーパネルを形態的な意匠性に昇華している点がイノベティブであると感じる。グリーンエネルギーの活用が今後の鍵になる。ソーラーパネルを積極的に利用されるようにするためには、誰もが導入したくなる美観やかっこよさという観点が非常に重要となる。形も進化した、環境にいいものがつくられていくとよい。一方で、ソーラーパネルを利用する際は反射によるヒートアイランド化現象や、ソーラーパネル自体の耐久性が気になる。</p> <p>《アメリカのディズニーランド》ウォータースクリーンを利用したエンターテイメントが魅力的だった。ウォータースクリーンを活用した広告や、熱中症などの喚起に利用することが考えられる。エンターテイメント的観点と、広告的観点が兼ね備えられると良い。</p> <p>《鶴見のストロベリーパーク》水や熱、食材やゴミが循環するシステムをつくっている点が革新的だと感じた。</p> <p>《つくば学園都市》都市として、一つの方向性を明確に打ち出している点が革新的。同様の事例として、「水の街ひろしま」が挙げられる。</p> <p>《昔のイノベーション》昔でいうイノベーションはなにより人と予算が重要だった。それは現代においても変わらないはず。人と予算が集まるような座組を構築する必要がある。</p>	<p>【イノベーションを起こす前提としての横浜の課題】</p> <p>《既存ストックの活用》 どのエリアでもできるものではなく、この立地でしかできないことを行うのがよい。立地条件を活かしたものがよい。 石川町・元町エリアには日本最古のものが3つある。 ・元町公園プールは、日本最古のプール ・テニスは、日本最古のテニスコート ・根岸の競馬場は、日本最古の競馬場 これらの既存ストックをPRできるとよい。他にも、マリントワーや氷川丸、山下公園、などこのエリアならではの魅力的な場所が多数ある。 今あるイイものをもっと発信できる場所としたい。場所や施設以外にも、食文化や、大正のような雰囲気など発信すべきものが多々ある。</p> <p>【イノベーションの方向】 イノベーションを起こすにあたって、多岐にわたる取り組みを行うのではなく、一つの方向性を定め、その方向性に沿った施作を整備していくべきであると考え。 「〇〇の街」として一言で表せるような特徴をつくれるとよい。横浜で働き、横浜で遊び、横浜で暮らせるような横浜で完結できる暮らしを構築するのがよいのではないかと。イノベーションの方向性として。「技術者の集まる街」とするのはどうか。 港町であることの特徴として、中国人やヨーロッパ人などの異国人と、最新の技術が集まってくる地理的条件がある。それらの人材と、技術を集積することで。技術者を集め日本有数の技術都市にするのがよいのではないかと。</p> <p>〈技術者の集まる街〉 メインの技術として、「バイオテクノロジー」を提案する。「海」という横浜の特徴と、グリーン社会を構築していくための最新技術として考えている。 それらの技術者が集まるように、働く環境としての緑の整備や、住環境や食文化、娯楽文化を整えることで技術者の誘致を進める。 技術のまちであることが一目でわかるようなシンボル（建物やタワーなど）があると、より誘致効果が高まる。</p>	<p>景観 課題《海の汚さ》 まちの特徴として「海」というものが真っ先にあがるのに、その海が汚い。もっと綺麗な海にできないものか</p> <p>ソフト施策 課題《財政》 住民税や水道税が他の都市と比較して高い。税金を有効に活用できているのかが疑問。 みなとみらいに新設されたロープウェイは利用料が高すぎる。もっと安価にして利用者数を増やした方がよい。 税金の使い方を考えると同時に、税金をどのように増やすかを考える必要がある。今回の山下埠頭の土地を使ってどうやって儲けるかを考えていけるとよい</p> <p>《マスコットキャラ》 まちをPRする手法の一つとしてマスコットキャラがあるが、横浜のマスコットキャラを誰も知らない。チーバくんのような、より知名度のあるキャラクターをつくるべきではないか</p>

《Cグループ模造紙》

既存のイノベーション事例

- Google社書
- YouTube
- Amazon
- Netflix
- Uber
- Airbnb
- Lyft
- Uber Eats
- DoorDash
- GrubHub
- Postmates
- Instacart
- Shutterstock
- Getty Images
- Shutterstock
- Getty Images
- Shutterstock
- Getty Images

横浜の課題

財政

- 財政
- 収入
- 支出
- 予算
- 決算
- 債権
- 債務
- 資産
- 負債
- 純資産
- 純負債
- 純利益
- 純損失
- 純資産
- 純負債
- 純利益
- 純損失

イノベーションの方向

- イノベーション
- 技術
- 製品
- サービス
- ビジネスモデル
- 市場
- 顧客
- 競争相手
- パートナー
- 規制
- 文化
- 社会
- 環境
- 倫理
- 法律
- 政策
- 制度
- 仕組み
- プロセス
- フロー
- チャート
- 図表
- グラフ
- 表
- 図
- 図表
- グラフ
- 表
- 図

技術者が集まる街よはま

イノベーションとは?

特徴に特化させて生まれたもの!

- アメリカ型... ニューヨーク
- アジア型... 香港
- ヨーロッパ型... スウェーデン
- 中国型... 北京
- インド型... バンガロール
- シリコンバレー型... 米国

横浜の課題

- 外資系企業に依存しすぎない! 自国産!
- 既存産業・文化の活用! 発信!

技術者を集める

- 技術の集積と発展
- 海に開かれたテクノロジー → **ハイテクノロジー**

なぜ? 集める?

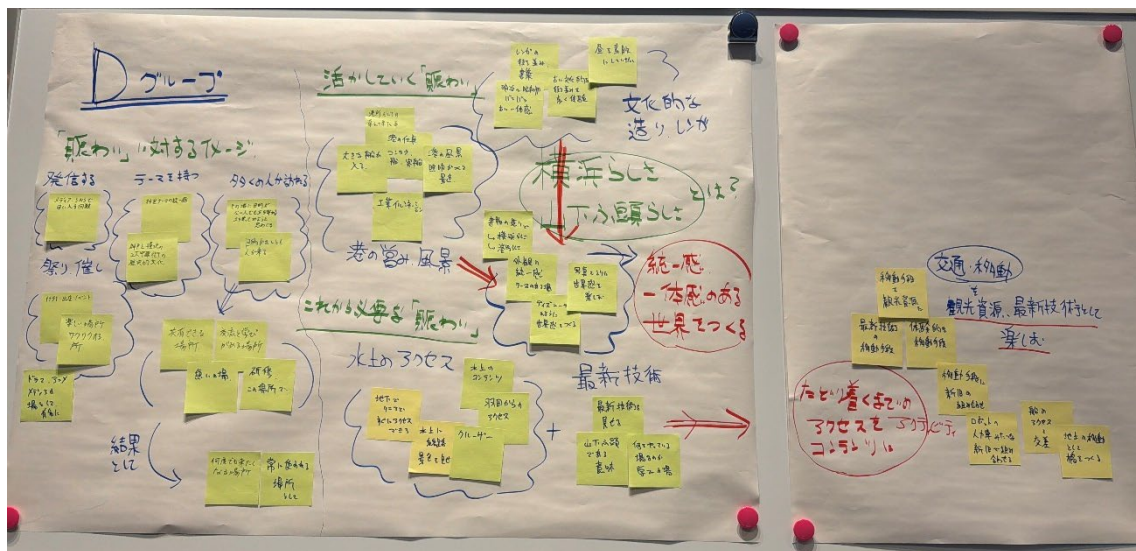
- 給与を上げる
- ここで働くとスキルが上がる
- 思いついた時にすぐ実現できる

競争力のある街

- 企業文化が強い街
- 生活コストが低い街

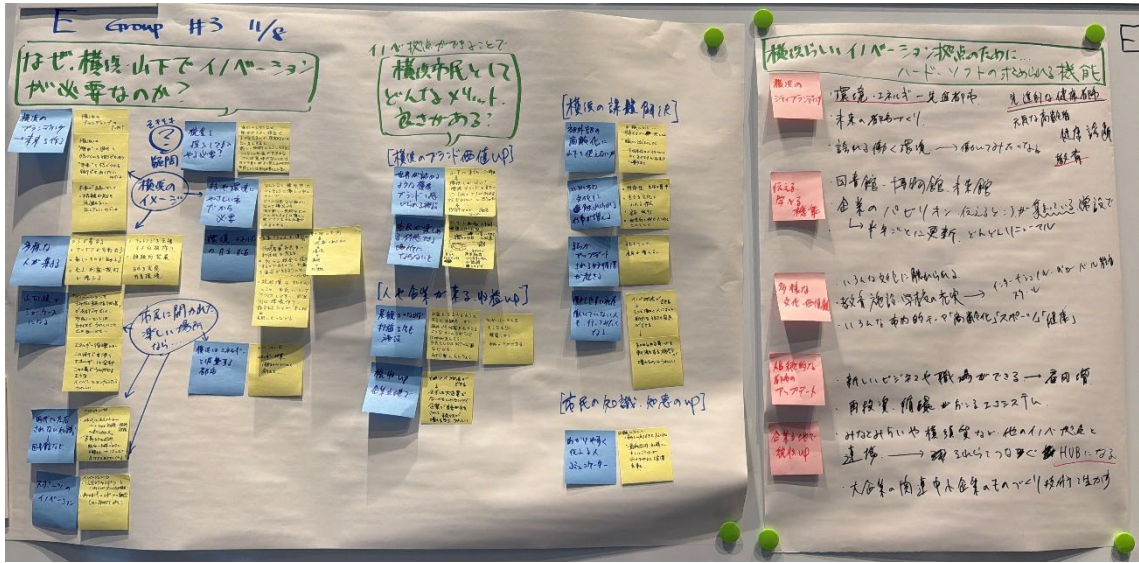
①テーマⅢ「賑わい」に対するあなたの感想・意見	②グループが期待する「賑わい」を整理・共有	③これまで議論してきた内容やソフト施策の視点
<p>「賑わい」に対するイメージや意見。 「賑わい」とは？</p> <p>○発信力や影響力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアや SNS で目に入る回数が多い ・街の中で該当する情報を見かける機会が多い <p>○テーマ性がしっかりしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定のテーマを持った PR <p>→文化、歴史、港町など →神戸と並ぶ 2 大中華街の歴史的文化</p> <p>○祭り、催しなどが行われている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントやマルシェの開催 ・楽しみに来る場所。ワクワクする場所として認知される ・ドラマやアニメ、メディアの撮影場所として注目されている <p>○多くの人が訪れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民、来街者問わず、その場に目的がない人でも立ち寄れる。立ち寄ってみようと思われる場所 ・集まることができる憩いの場 ・情報や体験を共有できる場 ・交流や研修などの学びにより何度も訪れるきっかけがある場 <p>↓</p> <p>結果として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何度も来ることになる場、来たくなる場 ・常に使われる場 	<p><u>横浜らしさ山下ふ頭らしさを活かした「賑わい」を考える</u></p> <p>活かしていく「賑わい」</p> <p>○港町の営みや風景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港町として文化的、商業的に栄えてきたこと <p>→豪華客船やクルーザーなど船の往来がある →港の仕事により生まれる要素（コンテナの集積、客船、工業地帯）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港ならではの風景 <p>→工業的な風景。工場やコンテナ →工業イルミネーション、ライトアップ</p> <p>→ターミナルの風景。船の停泊</p> <p>○横浜の文化的な建築や風景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レンガ造りの街並み ・明治から昭和にかけての建築がバラバラと点在しており、レトロな一体感を出している <p>→古き良き文化的な街並みを歩く体験 →観光だけでなく、日常的にも歩いて楽しめる文化的な街並みや風景</p> <p>→夜のライトアップだけでなく、昼も歩いて楽しめる素敵な風景</p> <p>これから必要な「賑わい」</p> <p>○山下ふ頭までのアクセスを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水上のコンテンツと移動の充実 <p>→クルーザーやフェリーなど →例えば、水上に線路のようなものを敷いて、水上を移動しながら海の景色を楽しみながらアクセスできる移動手段</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽田など、空を経由したアクセス ・地下などをリニアでスピーディに移動できる <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の観光スポットや名所と連携し、山下ふ頭を中心に巡るようなアクセスを構築する <p>→人、物、経済的な循環</p>	<p>テーマⅢ「賑わい」</p> <p>交通</p> <p>「アクセス×最新技術」</p> <p>○たどり着くまでの移動手段をコンテンツやアクティビティに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内外の移動手段、水上のアクセスに最新技術を用いる <p>→世界的に注目してもらう →山下ふ頭であることにより、日本だけでなく海外ともつながれる立地 →移動手段などを通して、最新技術を体験できる場、学べる場として打ち出していく</p> <p>○移動手段を観光資源に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行で移動を楽しむように、ふ頭に辿り着くまでの移動、ふ頭内の移動、周辺名所を巡る「移動」をコンテンツとして楽しめるようにする ・最新技術を楽しむ <p>→最新技術を絡ませ、アクティビティとして体験的価値を与えつつ、技術を学ぶ研修や実験できる場としても活かしていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化的風景と合わせ、新旧の移動手段を組み合わせる <p>→人力車とロボ技術やデジタルサービスを組み合わせるなど、最新の技術を用いて文化的な体験や風景をつくりながら、利便性を向上させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋を新たに掛け、周辺からの人の循環を新たにつくり、地上の移動と船の移動が交差するふ頭ならではの風景と体験を生み出す <p>景観、ソフト施策</p> <p>「統一感、一体感のある世界」（テーマ）をつくる</p> <p>○港町らしさ、横浜らしさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物の造りや移動手段に港町としての要素を取り入れ、敷地内は一体感のある風景や世界観をつくる <p>→ディズニーランドのように空間そのものを楽しむ →普段から歩いて楽しめる風景としつつ、観光スポットとしても写真を撮って楽しめる（+メディアなどでも発信して PR できる）</p>

《Dグループ模造紙》



①テーマⅡ「イノベーション」に対するあなたの感想・意見	②グループが期待する「イノベーション」を整理・共有	③これまで議論してきた内容やソフト施策の視点
<p>なぜ、横浜・山下でイノベーションが必要なのか？</p> <p>□ 横浜の都市イメージの向上のためにやるべき</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜のブランディング (未来を作るイメージ) のため 横浜は歴史=過去を感じられる街でもあり、未来を感じられる街でもありたいのでは？未来が続いていく=持続可能性を先進的に示したいのでは？ 多様な人が集まるため 人が集まる→アイデアが多数出る→新しいものが生まれる→売上、利益、税収が増える 緑や環境に優しい自治体だから必要である なんとなく横浜市は環境に優しい市のイメージ。ゴミの分別などが細かい。なので、横浜からなにか新しい技術などと、人と環境に優しいまちづくりをする必要があるのかも。 環境・エネルギー面での自立、自活が必要だから (イノベーションに投資すべき) 交通アクセスを便利にする→訪問者や市民の利便性を考える。我々の税金を投入するのであるから、利益も追求できるように考える。税収増はもちろんのこと、市民にとってアクセスしやすい先進的な環境づくり。訪れる方々が楽しめるし、雇用にもつながるようなまちづくりを。 横浜はエネルギーを消費するだけの都市だった エネルギー産業でイノベーションを起こし、消費するだけでなく、創出も。 <p>□ 市民に開かれた楽しい場所ならやってもいいと思う</p> <ul style="list-style-type: none"> 山下ふ頭がイノベーションのショーケースになるため イノベーションを生み出し続ける拠点があるだけでは、市民にとってはそれほど嬉しいことではないかも。 エネルギー循環とか、この街で使うエネルギーは全部この場で生み出せるようなイノベーションだったら嬉しい。 時代に左右されない知識の集積→図書館、未来感など 時代に左右されないベースとなる知識、技術、技能の集積拠点。革新的な技術、既存の知識のレベルを超える→役に立つ気づきを得させてくれる スポーツ分野でのイノベーションの可能性があるため 伝統的なスポーツ (オリンピック競技など) と、新時代のスポーツ (e-sports など) の融合 <p>□ そもそも疑問</p> <ul style="list-style-type: none"> 税金を投入してまでやる必要があるのか？という疑問を呈したい 海外の施設など、規模が大きく税金で賄えるのか、現実的ではない気もするし。新しい技術に投資するならそれなりの利益が生まれなければ意味がないのでは。外から見ればよく見えるかもだが、市民としては何も必要としていない。 	<p>イノベーション拠点ができることで、横浜市民としてどんなメリットや良さがある？</p> <p>□ 横浜のブランド価値向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界が認めるような横浜ブランドを感じられる施設 山下に訪れたとき、横浜しかない！横浜ブランドを目玉にしたなにかがあれば、訪れたいと思うかもしれない。→技術なのか、施設なのか 市民が楽しめる、体感できる場所にならないといけない コンサート会場にもなるドーム型施設。音漏れへの配慮。プラネタリウム、水族館、スタジオ等 <p>□ 横浜の課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観を損なわず利益を生む施設 利益を生むようにするには観光施設。海外からの客を迎えるような (チームラボなど)。土地代をもらう。市民としてはただの公園などでもよい。山下公園の延長。 なにか景観を損なわないような発電施設など、市民のためになるものを。 企業立地で税収 up イノベ拠点ができる→必ずしも大企業でないかもしれないけど、企業が誘致されて、税収が増えるなら嬉しい。 <p>□ 人や企業が来る、収益 up</p> <ul style="list-style-type: none"> 郊外部の高齢化に山下を役立てる 市民にとって、健康年金がなくなる。郊外が高齢化していくことを解決するために山下ふ頭を活用する。 いろいろな文化に触れられる、仕事が増える 利便性、色々な文化に触れる機会、雇用対策、機能的な部分がアップデートされていく まちがアップデートされる好循環が起きる 街が廃れていくと雇用が増えない。 働きやすい社屋、働いていない人も行ってみたいくなる イノベ拠点ができる→そこで働く人によって新たな街の空気ができる→知的好奇心を刺激する施設が増えるのは嬉しい <p>□ 市民の知識・知恵の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> イノベーションや、技術をわかりやすく伝える人やコミュニケーターが必要 	<p>横浜らしいイノベーション拠点のために…ハード・ソフトの求められる機能は？</p> <p>□ 横浜のシティブランディング</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境、エネルギー先進都市 未来の都市づくり 誇れる働く環境→働いてみたくなる 先進的な健康都市→元気な高齢者、ウェルネスツーリズム 教育 <p>□ 伝える、学べる機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館、博物館、科学未来館 企業のパビリオン、伝えるところが常設で集まっている→半年ごとに展示を更新、どんどんリニューアルする <p>□ 多様な文化・価値観</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな文化に触れられる 教育施設、学校の充実→インターナショナルスクールなど いろいろな市内的テーマ「高齢化」「スポーツ」「健康」 <p>□ 継続的な都市のアップデート</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいビジネスや職場ができる→雇用増 再投資、循環が起こるエコシステム <p>□ 企業立地で税収アップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京や、みなとみらい、横須賀、川崎など他のイノベ拠点と連携→それらをつなぐハブになる 大企業の関連中小企業のものづくり技術を生かす

《Eグループ模造紙》



①テーマⅡ「イノベーション」に対するあなたの感想・意見	②グループが期待する「イノベーション」を整理・共有	③これまで議論してきた内容やソフト施策の視点
<p>・金沢区の泥亀公園の雨水をためる仕組みは良いと思いました</p> <p>・金沢区の泥亀公園のグリーンインフラを活用した空間については、その特徴を今まで知らなかった。こういった特徴的な取組内容をもっとコマーシャルする方策も必要かも？どれだけの人がこの特徴を知っているの？「取組の周知」を</p> <p>・小中学生の遠足や社会科見学に選ばれるような場所に出来たらよいと思います</p> <p>・暑さ対策として、グーグル本社のような天井型設備がもうけられないか</p>	<p>横浜港エリアのなかでの山下ふ頭の役割、MM21 や中華街、山下公園にはない魅力の発信を考える</p> <p>【環境再生のための技術活用】</p> <p>発電</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気や水をできる限り、山下ふ頭の中の設備でまわせる様にする（風力発電や太陽光発電） ・ふ頭内で電気・食料を作る ・横浜市、横浜国立大学、横浜サイエンスフロンティア高校や企業と連携して、電気を起こす研究機関をつくる ・電気をどのように作り出すか <p>①太陽光パネル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機薄膜太陽電池で、建物や遊歩道の屋根や壁などでも発電 <p>②ヘドロから作る微生物電池</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海底の泥が生活排水などのリン酸と結びついてヘドロ化する ・ヘドロを回収して米ぬかなどで発酵させ、発酵熱を発電に利用する ・電気を起こした後のヘドロは土壌改良剤として利用できる <p>③水電解技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海水から水素を取り出し、その水素を燃料電池として利用し電気を作る <p>④浸透圧発電</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高濃度海水と排水（真水）を利用し、濃→薄に水が動く流れを利用して発電する ・真水は大岡川からも利用できるのでは <p>食糧 ⇒ つくる＋食べる＋体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜工場をつくる ・できた野菜は市内の小中高校の給食無償化の一部として利用する、税金利用の圧縮にもつながる、農業市場も圧迫しないようにする <p>CO₂固定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の商業施設から二酸化炭素を回収し、野菜工場の光合成に利用する ・野菜工場は、水族館のようなアクリル板で作られた建物にして、周りを有機薄膜電池で全面を覆い、日中は日光を使い光合成と発電、夜間はLEDを使い光合成させて育てる ・夜間も光合成させることでより多くのCO₂を固定する ・CO₂削減につながるのと野菜を育てることができ一石二鳥 ・芝生広場の真ん中の大きな木をイメージした建物はスーパーウッドを利用する <p>【人のための技術活用】</p> <p>体感・学びの場 ⇒ PR・集客・人材育成へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の再生の過程が体感できる場の創出、ブルーの海の再生の見える化、色もきれいに楽しめるものに ・植林、水質改善、動物の保護など、再生や自然保護活動から学んだりできる ・リサイクルを体験することで物の大切さを学べる場に（生ごみ⇒肥料、いらぬ服⇒バッグやアクセサリなど職人さんをお願いして教えてもらうなど） ・食べられる、騒げる、楽しさがある、本だけではない図書館など、子どもからお年寄りまで集まれる開かれた場 ・ディスプレイに利用は家庭排水の水質を悪化させることの発信も ・芝生広場を素足で走り回れる環境づくりの一環としてARの活用は、いろんな体験ができるのではないかな。 ・土壌改良剤を使って、いちご狩りや芋ほりや焼き芋、芝生で盆踊りなど、横浜港エリアの中で他にはない楽しさをつくり、魅力を発信、集客から収益へ <p>快適性 ⇒ 開かれた場、行きやすい場にしていくためのイノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の少ない移動手段を（電気自動車、人力車） ・身体不自由だけでなく色々な特徴に対応して選べる移動のバリエーションがあるとよい ・夏の暑さ、冬の海風をエネルギーに変換できたら（日よけの屋根や風よけの壁で発電など） 	<p>交通（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の少ない移動手段を（電気自動車、人力車） ・身体不自由だけでなく色々な特徴に対応して選べる移動のバリエーションがあるとよい <p>防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい技術や設備の導入は、安全性の高いものを前提に ・災害時の利用を考えて、広い芝生広場を ・リチウムイオン電池より安全性の高い蓄電池の導入（全固体電池など） <p>景観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電や浄化施設などのタンクは、風景を損ねないように地下に <p>ソフト施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの空き状況が分かるアプリの開発

(4) 第4回 「市民が結ぶ新たなまちの環」

① 日時・参加者数

- ・開催日時：令和7年11月29日（土） 9:00～12:00
- ・参加者数：27人

② プログラム

第4回では、基本的な方向性の「市民が結ぶ新たなまちの環」に関するグループワークを行いました。

冒頭、事務局から「基本的な方向性」の該当テーマの説明と該当テーマに寄せられた市民意見募集の概要（AIでまとめた要旨）の紹介を行いました。その後、統括ファシリテーターから当日の流れを説明し、下表プログラムのとおりグループワークを行いました。

時間	行程
9:00～	開会 「答申を踏まえた基本的な方向性」の説明 等 ・市民が結ぶ新たなまちの環
9:20～	グループワーク等 (途中休憩)
12:00	事務連絡・閉会

③ グループワークの構成・設問

第4回のグループワークは、あらかじめ用意したワークシートに沿って、次の設問で構成しました。

<p>① 参加したいと思える要素・活動とは？</p>

<p>・新たにできるまちで、市民が活躍できる・やってみたい活動とは？</p>
--

<p>② 「市民参画」のイメージを整理・共有</p>

<p>・空間がどのように活用され、そこでどのような体験を得たいかといったことだけでなく、みなさん自身が当事者となったつもりでそうした取組を育てる仕組みや財源の確保といった視点も考えてみる。</p>
--

第4回でも、第3回と同様に世代別交流の時間を設け、年代ごとに席替えを行いました。「自分が関わりたい活動」「世代ならではの得意なこと」「世代間で一緒にできそうなこと」などを自由に話し合い、その成果については、ファシリテーターから発表しました。

④ グループワークの成果

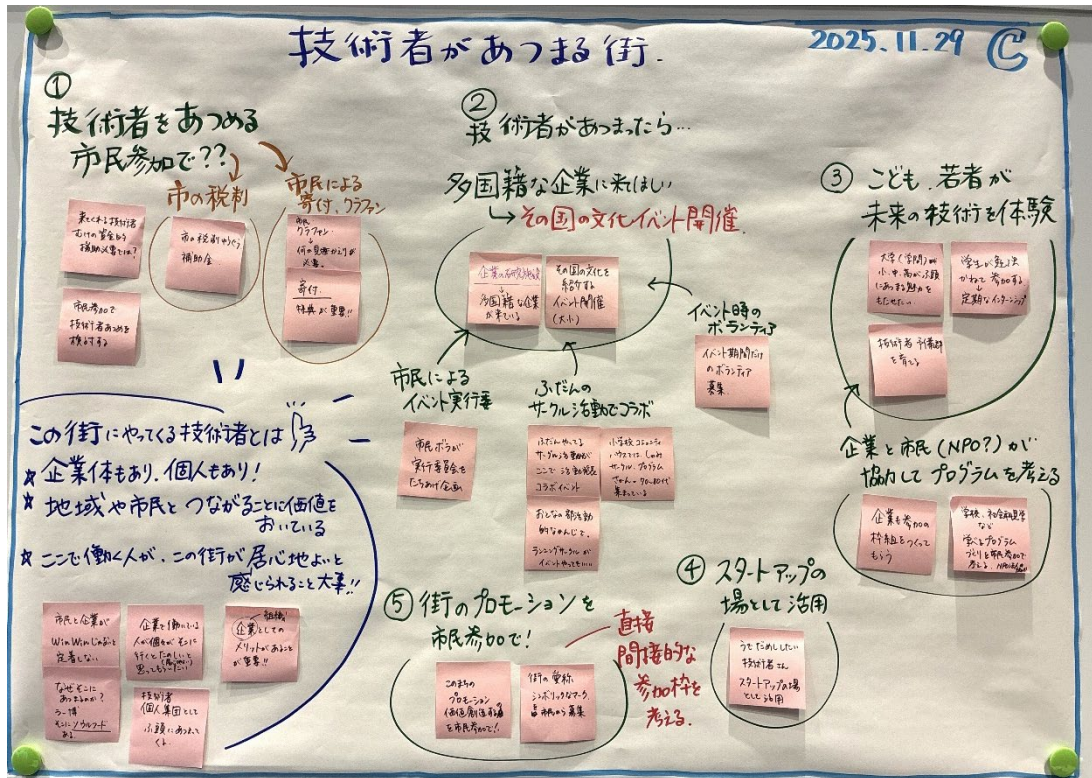
各グループの議論をファシリテーターが模造紙に整理し、発表を行いました。以下、グループごとの成果として意見の概要とその場でまとめた模造紙は次のとおりです。

なお、意見の概要については、各グループを担当したファシリテーターが模造紙や議論内容をもとに整理したものです。

① 参加したいと思える要素・活動とは？	② 「市民参画」のイメージを整理・共有
<p>○森・花壇 <植林への参画> ・市民が植林する ・「私の樹」として、木の成長と自分の成長を比べる（ネームプレートをつける等） ・子どもが生まれた記念に植樹する ・外国人が植林することもある ・企業が植林することもある</p> <p><花壇への参画> ・森の周辺に市民が花壇を整備する ・小学校のときに自分たちが企画した花壇を整備したことが思い出に残っている →案1) 市民が参画できる花壇の場所を決めて、入替えを行う（例：ディズニーランドでミッキーマウスの花壇のデザインが入れ替わっている） →案2) 各小学校ごとに固定の場所を割り当てる。そうすれば、代々のOBがやって来ることもある</p> <p><区民の参画> ・森や花壇で、区ごとにゾーニングする →各区のゾーンがあると、区民が行ってみようかと思う →各区で切磋琢磨する。コンテストを行うこともある →各区でバラバラにならないように、テーマを決める</p> <p><管理への参画> ・管理とガイドを兼ねる緑のボランティアを組織する ・薪が欲しい市民は、管理に参画する ・間伐材が利活用できる樹種にする（椅子、ベンチ、コースター等）</p> <p><その他> ・花博の資源を再利用する</p> <p>○祭り・イベント <大きな祭りへの参画> ・自分は東北出身だが、東北には市民が参画する大きな祭りがある。例えば、仙台の七夕祭りでは、飾りを作ったりして大変な熱量がある ・横浜にも市民が参画する大きな祭りがあると良い →開港祭など、船にまつわる祭り →ペリーをテーマとした祭り。ペリーとの調印の際には、日本がなめられないように力士が参列しているので、そういうことを再現する →開港記念館から山下ふ頭までパレードすると、テレビ映えもする →マーチングバンドにすると横浜らしさが出る</p> <p><区民が参画するイベント> ・小学校体育大会で全区から集まって、ソーラン節を踊ったことを覚えている →区民が参画するイベントを実施する →ソーラン節は海つながりではあるが、横浜のオリジナルの踊りが良い</p> <p><来街者向けのイベント> ・ポケモンやゴジラ、コンサートなど来街者向けのイベントに、興味のある市民が参画することもある</p> <p>○歴史 <施設展示> ・歴史に詳しい市民が、子ども達に開港以来の歴史を伝える →施設やプロジェクションマッピングなどで大人も楽しめるようにする</p> <p><謎解きまち歩き> ・みなとみらいで開催された謎解きまち歩きに参加した。「こんな所があったんだ」と発見があった →山下ふ頭のエリア全体で歴史に関する謎解きまち歩きを行う</p>	<p>○財源 ・1日中いても飽きない仕組みが必要。滞留時間が長ければ、それだけお金も使ってもらえる ・最初無料だったのに、後から料金をとる形だと抵抗があるので、最初から料金を徴収することは必要 →森林を維持する寄付として、入園料100円～200円を徴収する →エリア内では、各施設・アトラクション（森林リング等）ごとに料金を徴収する</p> <p><森林> ・植林したい人はお金を払う。公募することもある ・クラウドファンディングで、植林ができることを特典とする。出資者が現地に来て植林を体験することが大事</p> <p><夜景> ・みなとみらいの夜景はきれいなので、夜間の料金をアップする ・西側のオープンエリアでは、みなとみらいの花火がよく見えるので、観覧料を徴収する ・遊覧船（屋形船ではなくヨット、和ではなく洋）を運行する ・ドローンを使って、森林を電飾する</p> <p><メリハリ> ・ハイシーズンは料金を上げる ・「今月は〇〇市の市民は半額」として、集客を促す ・マリインタワーと共通チケットを発行する</p> <p>○その他 ・東側の商業エリアの一角に、チャレンジショップを設ける。賃料が高ければ、タイムシェアを行うこともある ・東側の突堤に設ける海中公園は、海の透明度を学習する環境啓発の機能もある</p>

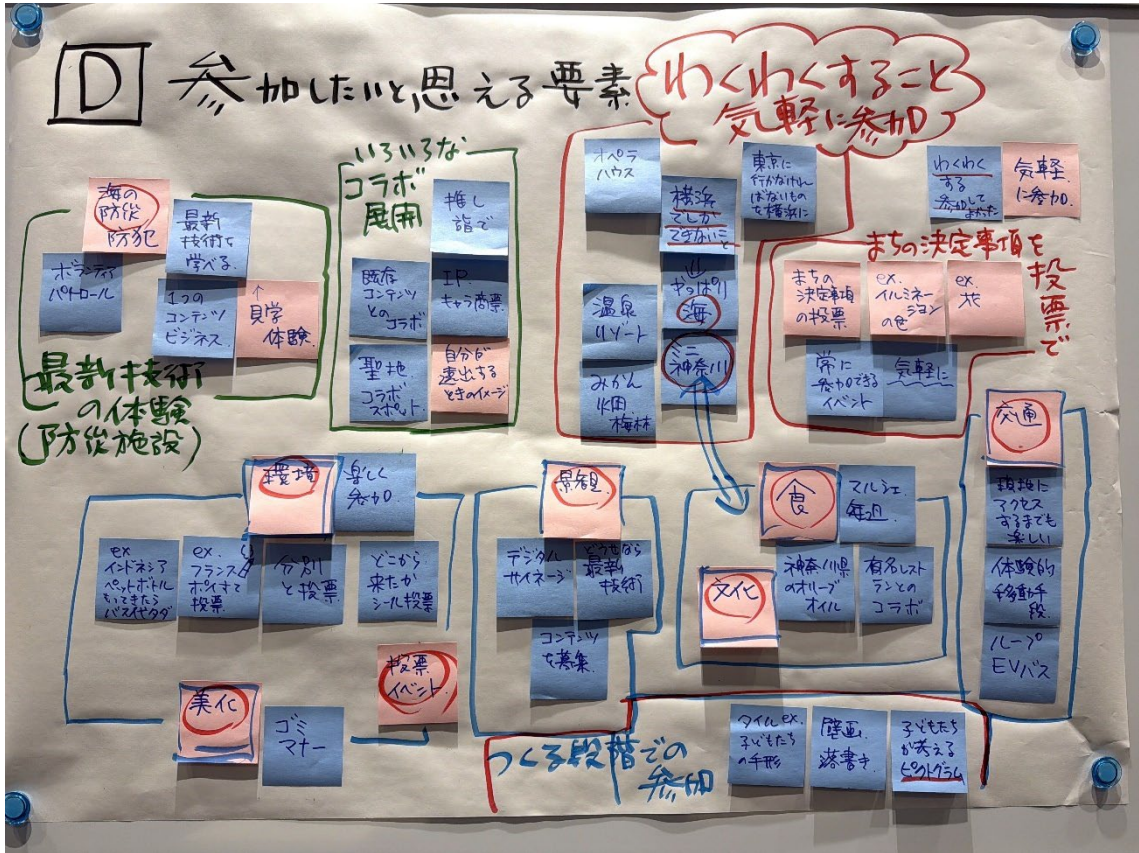
① 参加したいと思える要素・活動とは？	② 「市民参画」のイメージを整理・共有
<p>健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このエリアをランニングで走りたい。皇居ランのようにそこでのコミュニティが醸成されていくとよい。 ・ちょっと危険なスポーツも山下ふ頭ならできるみたいなことがあると多くの人を惹きつけるかも。 <p>歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「横浜の歴史を学ぶ」とはどういうことだろう。なんか難しそう。 ・ハマると「●●検定」など取りたくなる。 ・謎解きは、そのまちな知識を知れておもしろい。 ・先日開催された運河パレードで石川町のほうから山下ふ頭まで船で行けるのは発見だった。 <p>体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わざわざお金のかかるところには行きたくないで、無料で学べるような体験施設があるとよい。みなとみらいには各企業の体験施設が並んでいる（資生堂や京急など）。 ・生涯学習・生涯研究ができるような場所があるとよい。 	<p>1. 行けば気軽に参加できる。</p> <p>⇒改めて参加となるとハードルが高いものも、イベントや体験を通して、自然と横浜を知れる機会。</p> <p>⇒趣味・興味などをきっかけとしたコミュニティづくりや参加のきっかけ</p> <p>横浜の歴史を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・●●検定や謎解きのように、ゲーム感覚で横浜を知れるきっかけがあるとよい。 ・運河パレードなどのイベントを通して港町横浜を体験できるとよい。 <p>健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここに来れば自然と（勝手に）健康になれる仕掛け。（歩かなきゃいけない） ・都会暮らしでコンクリート生活に疲れている人が、身体を動かせたり、くつろげる。心も健康になれるような場所に。（芝生があるとよい） <ul style="list-style-type: none"> ・ランコースとランニングステーションをしっかりと整備することでランニングのメッカとしても人が集まってくる。（コミュニティが生まれる） <p>2. 市民自ら案内人になる。</p> <p>⇒来訪ではなく、運営側など能動的な参加。誰かの役に立つという欲求が満たされる。</p> <p>市民ガイドとそのための育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が案内人などのスタッフになれる機会があるとよい。案内人になるために勉強会を受講できたりすると、横浜の歴史を学ぶ機会にもなる。 ・ウォークツアーなどのガイドを市民が行う。 <p>発表の場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロも市民も集まり発表から教育まで、文化芸術の体験ができる場所。 ・アマチュアの人が発表をできるような場所があるとよい。 <p>3. 研究機関や企業とのコラボ（R&B）</p> <p>⇒市民発意（大学や部活、団体など）の創造に企業がバックアップしてくれる環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市がやるのではなく、民間がやっていくことで法人税もとっていけるように。 ・企業コラボでランニングコストを減らしながら、最新技術を無料で体験できる機会。 ・大学と研究機関とのコラボなど、企業×大学×市民と一緒に活動できる機会。 ・様々な企業が実証実験を行うような場所

① 参加したいと思える要素・活動とは？	② 「市民参画」のイメージを整理・共有
<p>「技術者が集まる街」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業体もあり、個人の技術者もあり ・技術者が周辺地域や市民とつながることに価値をおいている ・ここで働く人が、この街が居心地よいと感じることが大切である <p>1. 技術者を集める工夫を考える</p> <p>2. 集まった技術者や企業体と市民がふれあえる機会を創る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多国籍企業の研究施設が来るイメージがある ・その国の文化を紹介するイベントを開催する（規模は大小ある） <p>3. こどもや若者が未来の技術を体験するプログラムを創る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかくの最先端技術の集積地なので、小中高大学の児童や若者が山下埠頭に集まる魅力を持たせたい ・これからの技術者予備軍を育成する <p>4. 街のプロモーションを市民参加で行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕試ししたい技術者のスタートアップの場として活用する ・街の愛称、シンボリックなマーク等を市民から募集する ・この街の価値を魅力的に発信する 	<p>→・来てくれる技術者むけの資金的援助が必要。市からの税制優遇、補助金の仕組みの提案。市民としてはクラウドファンディングの立ち上げ、寄付を募る。クラファンや寄付を募る場合は、特典の用意として魅力的なものを考える</p> <p>→なぜそこに集まるのか？例えばラーメン博物館は人が多く集まる。それはサンマーメンというソウルフードがあるから。山下埠頭にもそういう横浜のソウルが必要。</p> <p>→・市民ボランティアが集まって実行委員会形式でイベントを企画運営する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント当日やイベント期間のみのボランティアとして参加する ・普段から参加している別のサークル活動（例えばランニングサークル等）の延長として、イベントに参加したり、コラボイベントをやる。おとなの部活動的な気軽さが大事 <p>→・学生がインターンシップとして参加する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の社会科見学等、学べるプログラムの提案を市民有志で考える。もしくはそういう活動をしているNPO等と連携して提案する ・企業もCSRとしてプログラムを一緒に考えたり、受け入れの枠組みをつくる <p>→・市民募集することで遠距離でも参加することができるので、参加のハードルが下がる</p>



① 参加したいと思える要素・活動とは？	② 「市民参画」のイメージを整理・共有
<p>【海の防災施設、最新技術を体験したい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいまちだから防災施設も最新なはず ・最新技術を学ぶ、体験する ・大規模な防災施設や最新技術は見ごたえがある（1つのコンテンツ、ビジネスにもなるのではないか） <p>【防犯、ボランティアパトロールも必要】</p> <p>【いろいろなコラボ展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山下ふ頭ならではの I P（Intellectual Property）をつくる ・推し詣で、アニメなどの聖地 ・既存コンテンツとのコラボが手っ取り早い <p>【横浜でしかできないこと、体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京に行かないとないものを横浜にも ↓ ・オペラを横浜で見たい ex. シドニーのオペラハウスをイメージ ・やっぱり海 ・ミニ神奈川県をつくる（温泉リゾート＝箱根、ミカン畑＝小田原…等々） <p>【まちの決定事項を投票で】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に何かを決めるときに、誰もが投票できる仕掛けがあれば気軽に参加できる ex. イルミネーションの色やデザイン ex. 花壇の花の種類 <p>【再開発が完成する 10 年後…】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今よりもっと技術が進んでいる ・AR 技術の進歩（実際コスプレしなくても AR ゴーグルで気軽にコスプレできる） ex. 中国 車のナンバープレートを AR ゴーグルで識別し、特定エリアに侵入許可を得ている車両を振り分ける実証実験を実施した 	<p>グループとしての市民参画のイメージ＝わくわくしたい 楽しく 気軽に参加したい</p> <p>環境・美化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ分別、美化活動に楽しく参加できる仕掛けがあるといい ・よく観光地で「どこから来たか？」をシール投票していることがある ・「まちの決定事項を投票で」の一環で、投票行動とゴミ分別、美化活動を結び付ける ex. インドネシア 空のペットボトルを持ってきたらバス料金がタダになる ex. フランス タバコのポイ捨てを啓発するのに吸い殻入れを何かの投票箱にしている ・常に何らかの投票イベントが行われていると楽しく気軽に参加できる <p>景観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルサイネージ、プロジェクションマッピングはこれまで制限されてきたが、新しいまちではもっと活用される状況になるのではないか ・どうせなら最新技術で大々的に露出させたい ex. ラスベガスの天井プロジェクションマッピング ・その場合のコンテンツを募集 ・プロっぽい派手なものもいいが、子供たちの絵など市民の身近なコンテンツも発表できるといい ・それらが新しいまちの景観に溶け込んでいる <p>食・文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週マルシェなど、気軽に立ち寄れる催事が常にあるといい ・「食」は「文化」、質の高い食があるとリピートしたいと思える ・横浜（神奈川県）には中華街以外にも美味しいものがたくさんある ・有名レストランとのコラボ ・「ミニ神奈川県」を食と絡めて山下ふ頭内に再現 ex. 神奈川県産のオリーブオイル、梅林、地ビール、地酒…等々 <p>交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山下ふ頭にアクセスするまでの楽しさをつくるのが大事＝体験的移動手段（前回で集中的に議論） ・船による水上からのアクセス、ロープウェイなど楽しい移動がここに来やすくすることにもなるし、いろいろな市民がまちづくりに参加することにもつながる ・ふ頭の外周をループする自動運転バス ex. 大阪万博では大屋根リング下の自動運転バスが実装されていた <p>まちをつくる段階での参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の建て替えに伴って、子供たちが新しい校舎の建設に関わったことがあった ・新しいまちでもそうした参加要素があるとまちへの愛着が生まれるきっかけになる ex. 建物の壁面タイルづくり、子供たちの手形、壁画、古い校舎でのメモリアル自由落書き ex. 子供たちが考えたピクトグラム

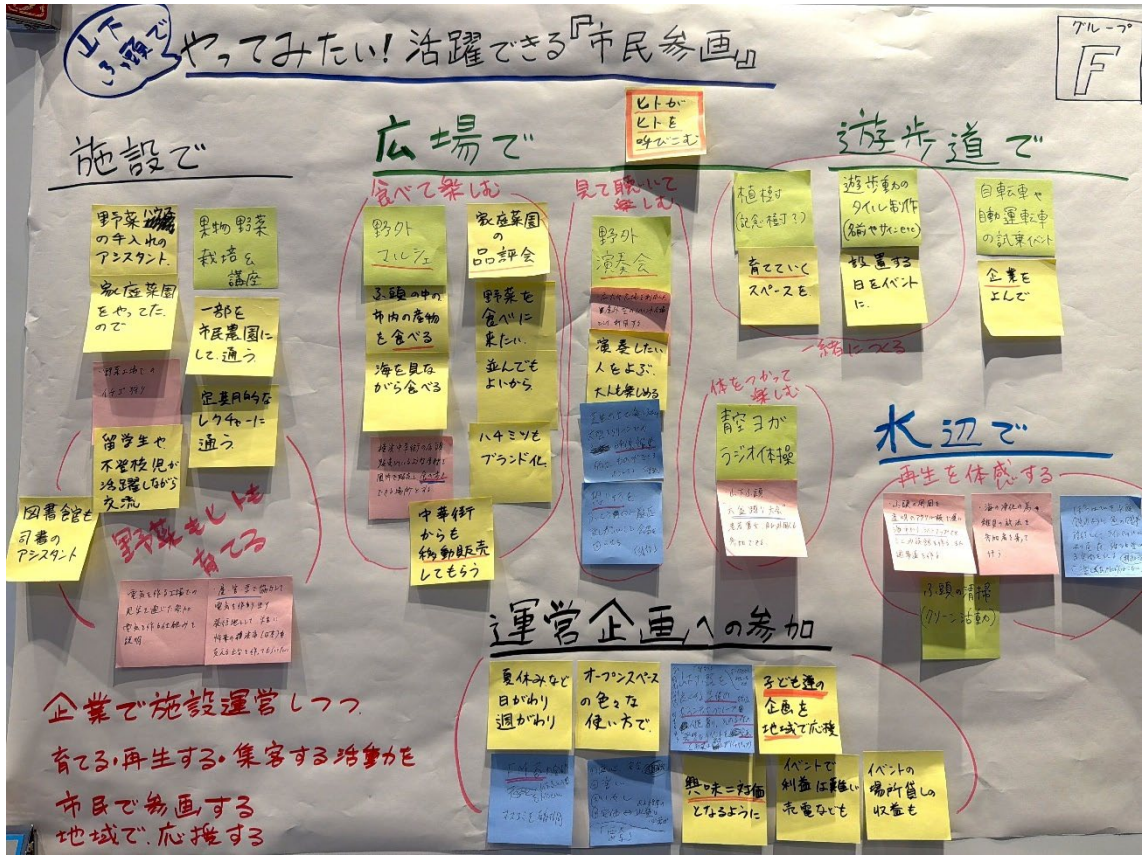
《D グループ模造紙》



① 参加したいと思える要素・活動とは？	② 「市民参画」のイメージを整理・共有
<p>□園芸・ガーデニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樹木の一株オーナー ・最先端の体験→海水、風力を活用する技術など ・緑（グリーンインフラの導入） ・環境に優しい技術における体験 ・緑を増やす、ガーデニング的な花や木、畑など 小学生の学校の課題として自分たちである程度育てた植物を山下ふ頭に植え替える。夏休みの朝顔など <p>□スポーツや遊びなどを教え合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のんびりと寛げる場所でいろいろアドバイスをする。例えばスポーツ器具の貸し出しをする。コーチとはいかないまでもアドバイスをする経験者。 <p>□クラフト・工房 ものづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手作業のものづくりの場所を提供する。 <p>様々なアドバイスをする。工芸品、ボートづくりなど。</p> <p>□チャリティマルシェ、フリマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民からの不用品回収など物々交換のチャリティ・イベント <p>□文化祭・スポーツ大会（区民対抗）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が活躍できる文化祭みたいな集いとか活動を発表できる場とか。地産地消のものが体験できる、買えるとか。 ・会社活動（例えばビール工場見学のような）を体験、楽しめる場 ・スポーツ大会 <p>■まずは楽しいと思えることが大事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動に参加するきっかけは <p>→シニアだと話題が暗い→子どもや若い人が参加できると交流する機会になる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は半強制的だけどやってみたら意外と面白い。違った出会いがある。PTA や自治会 ・そこにいって何ができるのかわからないと行かない。→人によって興味関心が違う。得られる体験価値がわかれば行く。 	<p>□仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふらっとで向けて手軽に体を動かすことができる。 ・どういう活動にこの場所が使えるかわかりやすい、利用料が高すぎない、手軽に申し込める事が大事 ・イベントをやりたいとなったときに必要なもの用意をサポートしてくれる、貸してくれる ・どんなことをやっているか宣伝されている、目に触れやすい。SNS で広く広報される。 ・常設であること。市民活動としては別の何かをやっている。SDGs のような位置づけ。 ・24 時間 365 日開いている施設。常に市民に開放されている。 ・うるさくしてもいい。迷惑っていわれない。 <p>□空間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アップダウンのある緑の空間 ・健康維持ができる ・多様性のある空間。ときにはイベント、市民の空間 ・横浜市民のための一万人のフォークダンス大会→日産スタジアムのダンス大会的な横浜市民の共通体験に ・たくさんの人が集まれる広場→市民活動以外のときは収益性のある活動、利用 ・広くてマルチに使える場所 ・参加したくなる、ハードルの低い活動

① 参加したいと思える要素・活動とは？	② 「市民参画」のイメージを整理・共有
<p>■野菜ハウス・野菜工場で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭菜園をやっていたので野菜ハウスの手入れのアシスタント ・いちご狩り <p>■本を読む以外もできる図書館で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の司書のアシスタント <p>■電気をつくる工場で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学を通じた参加、電気を作る仕組みを説明する <p>■広場で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並んでも良いから野菜を食べに来たい、並ぶのもワクワクする ・孫が恐竜が大好き。ロボットの恐竜をふ頭内に数匹放したら、子ども達もワクワクするのでは。 <p>■共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しくなければ人は来ない 	<p>■考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業で施設運営しつつ、育てる・再生する・集客する活動を市民で参画する、地域で応援する ・①安心、②楽しい、③癒し、④安価（ある程度の収益は必要） <p>■施設で（野菜工場（ハウス）や発電施設、色々なことができる図書館で）</p> <p><野菜もヒトも育てる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・果物野菜の栽培&講座の定期的なレクチャーに通う ・一部を市民農園にして通う ・留学生や不登校児が活躍しながら交流する ・産官学で協力して電気を作り出す発信地として、学生に将来の横浜市（日本）を支える土台を作ってもらいたい <p>■広場で ～ヒトがヒトを呼び込む～</p> <p><食べて楽しむ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外マルシェ（市内の農家の参画） ・家庭菜園の品評会（市民愛好家の参画） ・山下ふ頭の中でつくった野菜や市内の産物を食べる、海を見ながら食べる（食べて応援） ・中華街からも移動販売してもらおう（地域の参画） <p><見て聴いて楽しむ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏したい人を呼んで野外演奏会 ・広大な広場を利用した屋外タガのイベント広場として利用する ・大人も楽しめる場に ・芝生の上に寝転がって大型スクリーンで映像鑑賞 <p><体をつかって楽しむ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・老若男女、外国人も参加できる大盆踊り大会 ・青空ヨガ、ラジオ体操 <p><一緒につくる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・植樹、結婚や子どもが生まれたなどの記念樹で緑化に参加 ・市民参加で育てていくスペースもあるとよい <p>■遊歩道で</p> <p><一緒につくる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道のタイス制作（名まえやサインもいれる等） ・設置する日をイベントにする <p><試乗イベント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業を呼んで自転車や自動運転車の試乗イベントをする <p>■水辺で</p> <p><再生を体感する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふ頭の清掃、クリーン活動を市民参加で行う ・海の浄化のための稚貝の放流を参加者を募って行う ・ふ頭の周囲を棟目のアクリル板で覆い、海洋からライトアップさせてミニ水族館、遊歩道をつくる ・防波堤を水族館のように魚の見学施設にして、ライトアップにより昼夜、岸壁で楽しめる空間をつくる（横浜は海） <p>■運営企画への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みなど日替わり、週替わりでオープンスペースの色々な使い方を ・山下ふ頭を良くする子どものボランティアグループ（ボーイスカウトのようなもの）を募り、子どもの発想でイベントを企画 ・ことも達の企画を地域で応援する、市政や企業がバックアップする ・興味と対価がつりあうように企画する ・イベントだけで利益は難しい、場所貸しでの収益や売電なども ・山下ふ頭をメインのFM局の開設やマスコミを活用して発信も

《F グループ模造紙》



《30代以下》

【テーマ】景観について

■山下らしさ、横浜の水際線らしい景観

- ・上空からのアウトライン
- ・光の演出
- ・変化のグラデーションが大切 山下公園→港湾的景観
- ・開港横浜的イメージを大事に 氷川丸、ガス灯、レトロ建築、赤レンガ
- ・港町、横浜らしいノスタルジックなイメージ
- ・きれいで歩きやすい、計画が行き届いている

■景観的にNGと思うこと

- ・治安が悪くなるのはやめて
- ・子連れで入れないとだめ
- ・全世代で入れる
- ・ギラギラ電飾系は駄目
- ・マリントワーより高い建物は建てない
- ・自家用車の駐車場（平置き）の立地はよく考えてほしい。目立たないように。
- ・屋根が四角い普通のビルはつまらない。意匠がほしい。
- ・スカイラインの調整が必要

■積極的に取り入れてほしい

- ・シンボルとなるような建物
- できれば低層の個性的な建物 シドニー・オペラハウスのような
- ・全体的に統一感を持たせてほしい。横浜の既存の街と異なるような。テーマパーク的統一感がいい。常滑の焼き物の街。
 - ・倉庫や建物を残してリノベーションしてほしい。
 - ・ベルリンのテンペルホーフ空港跡地公園。
 - ・上屋もシンボルになりうる。
 - ・使い終わったコンテナを活用。ロンドンのポップブリクストン。

■横浜の好きな景観

- ・キング・クイーン・ジャック横浜三塔
- ・日本丸横のマリタイムミュージアム屋上から見える景色。あまり人がいない
- ・港の見える公園
- ・ニューグランドの建物
- ・関内馬車道の銀行建築
- ・山下ふ頭から見える港の景色、突堤の風景

《40代》

【テーマ】

- ・次世代にも残せる&横浜市の税収アップにもつながる場所
- ・山下ふ頭でサステイナブルにお金を生み出していく

■テーマの設定に至った、前段のディスカッション

- ・市の負担（=税金を使わない）を全くなしにやるのであれば、賃料を安くして更地で貸し出すことがミニマムコストではあるが、それでは来たいと思う企業も出てこないだろうし、まちとしてもそれではよくない。
- ・何もしないのもなんか違うと思う。
- ・特区など、国からの補助金の活用も考えられるが、それも結局は自分たちの税金である。
- ・この再開発による市の影響（金銭面）がどれだけかかるかがわからない。

■横浜市の役割

- ・中のゾーニングは市が仕切ってやるべき。近隣エリアとの連動制や役割分担をしていくことが必要。
- ・近隣エリアとの連動制は考えていくべき。（例：山下公園と似たような施設をつくってもったいない）
- ・ブランド力・雰囲気などは時間をかけないとできていけないので市がコントロールしていくべきである。
- ・今ないものは作っても良いと思う一方で、このエリアにはもう一通りのものが揃っている。
- ・データセンターなど、周辺にない施設で、最低限このエリアのエネルギーは賄えるような施設であれば整備が必要である。
- ・横浜市はみどり税をとっていることもあり、みどりがきれいである。家の周りは緑がきれいでクリーンなイメージである（都筑区や青葉区）。こういったことに税金を使うのは良いかと思う。

■企業誘致

- ・企業がどこかに進出する上で要件となってくるのは、①安く借りられる、②従業員へのベネフィット、③地理的メリット（音や光が出せるなど）。企業にとって山下ふ頭に来たいと思うメリットはなんだろう。更地をつくったところで、積極的に来たいと思う企業は少ないのではないか。
- ・未来志向の企業を誘致したい。シリコンバレーのようにベンチャー企業を集積させるのは良いかもしれない。
- ・企業には社会貢献もセットで関わってもらいたい。（例：公園管理など）

《50代》

【テーマ】 お金と健康について

- ・ 山下埠頭には、気軽にフランクに楽しめるづくりがほしい。
- ・ 健康というテーマでわざわざ整備することは望まない。
- ・ 投入される税金が市民の健康増進という形で還元できる開発を望む

■健康

(マラソン)

- ・ 山下公園からつながるマラソンコースがほしい
- ・ マラソンの起点を作って走った距離がわかるようになっているといい
- ・ 止まらないで走れるコースがほしいので、埠頭が最適
- ・ マラソン後、飲んだり食べたりスパに入ったりすることが楽しみで走っているので、そういう場所もあるとよい

(散歩)

- ・ 普段のお散歩コースが埠頭をまわることで長くなるのがいい。目的があると歩けるので、カフェ等が埠頭にできるといい

(ヨガ)

- ・ 屋外でやるより、屋内でやるのがいい。木製の巨大な建物をつくり、防災の観点も入れた作り。トイレも必要

(大きな声を出す)

- ・ 運動会的なもの。声を出して応援する経験はなかなかできないので。健康にもよい

(ダンス)

- ・ 大盆踊り大会、締め曲は決まっている。毎年もしくは数年で曲も替える。ボンジョビの曲等
- ・ 世代別で踊れるいろんなダンス大会
- ・ SNSで「踊ってみた」動画を流して集客する

■お金

- ・ 自分たちは75まで働かないといけない世代。働いて税金を納めることになるので、この税金を山下埠頭に投入してどこまで回収可能かを考えたい
- ・ 収益が生まれる工夫が必要。例えば太陽光発電をして売電する、野菜を育て学校給食の食材として販売する等

《60代》

【テーマ】『山下ふ頭、最近いいよね』と言えるようになるには？

■横浜と言えば…みなとみらい？

- ・みなとみらいは、若者層、ファミリー層向け
- ・友人が来たら散歩がてら行く、家族とのお出かけで行く
- ・自分からはあまり行かない
- ・横浜駅、桜木町駅は人多すぎる

→人多すぎるのは嫌

■望ましい人の多さは

- ・閑散としている⇔そこそこ人がいる⇔すごく人がいる
- ・人を呼びこむことも必要
- ・海外の SNS や口コミで「山下ふ頭」が出てくるように、20～30代が来て SNS で発信しないと外から人が来ない
- ・アンバサダーの任命を

■山下ふ頭は…

<余裕感を>

- ・オーバーツーリズムになると「山下ふ頭、最近いいでしょ」とはならない
- ・意外な発見がある、見つけられる余裕感があってほしい

<周りのエリアと違うコンセプトに>

- ・今の方向性は総花的
- ・山下ふ頭で大事なものは観光か？安全か？コンセプトは？
- ・みなとみらい、山下公園、中華街、野毛とのつながりを考えて
- ・ビルはみなとみらい等にいっぱいある
- ・大黒ふ頭みたいになってはダメ
- ・四季が感じられるとよい
- ・市の花はバラだが、バラ園は山下公園にあり、元町ではバラのフェスティバルがある

<夜景の視点場>

- ・山下ふ頭から見るみなとみらいの夜景
- ・山下ふ頭の突端から見るベイブリッジの夜景
- ・マリントワーから夜景を見て、みなとみらいは明るく、山下公園や山下ふ頭は薄暗く

《70代以上》

【テーマ】横浜らしさ、全ての人にやさしいまち

- ・横浜のオリジナルを発信する（ミニ東京でない）

■横浜らしさ×歴史

＜凄い横浜の歴史を伝承する＞

- ・横浜にはたくさんの歴史があるが、市民は歴史を知らないので、伝承する→プロジェクトマップ等、子どもも大人も楽しめるような歴史を紹介する施設があると良い

＜船の文化＞

- ・京浜運河には船の部品を作っている岡本造船があったが廃業してしまったので、船の文化を伝えたい→山下ふ頭の海ならカッター(端艇)、鶴見川では競技ボート

＜発祥地＞

- ・根岸競馬場…日本初となる常設の洋式競馬場
- ・元町公園プール…日本で初の公認 50m プール
- ・テニス…イギリスが発祥地だが、山手でイギリス人がテニスを始めたのが最初

■横浜らしさ×名物

＜旧東海道の歴史をいかす＞

- ・横浜は昔は漁村だったが、旧東海道の宿場町の名物がある
(例) 鶴見：よねまんじゅう、境木：栗山もなか
- ・歌川広重が横浜の風俗を描いた浮世絵があるがどの場所を描いたのか知りたい

＜発祥＞

- ・サンマーメン：中華街が発祥地。サンは温、マーはのせる（あんかけ）を意味する。港湾労働者に冷めない食事として好まれた
- ・アイスクリーム

■横浜らしさ×文化・芸術

- ・開港した当時は、海外から文化を取り入れてきた。今度は、世界に誇る国際貿易港ヨコハマから海外に発信する
- ・横浜トリエンナーレはあるが、瀬戸内国際芸術祭等と比較するとイマイチなので、ブラッシュアップしたい

＜音楽＞

- ・横浜には音楽祭がない
- ・資金がかかるので検討が必要だが、もし、山下ふ頭に音楽ホールを整備できるなら、屋外コンサートもできる
- ・神奈川県立音楽堂は、音楽ホールと文化財的な価値のある建築がコラボした良い建物であり、あのような建物にしたい。一方で、横浜みなとみらいホールはイマイチ

＜裾野を広げる＞

- ・本日の前半のプログラムで「市民参画」を議論したが、文化・芸術を真に地に足のついたものにするには、トップの人たちだけでなく、生涯学習的な市民レベルの裾野を広げる活動が大事
- ・本日の前半のプログラムで「技術者の集まるまち」を議論したが（Cグループ）、技術も芸術である

- 全ての人にやさしいまち
 - ・高齢者だけでなく、障がい者等も含め、全ての人にやさしいまちづくり=ユニバーサルデザインが重要。それが健常者にもやさしいまちになる
- 全ての人にやさしいまち×わかりやすさ
 - ・高齢者は、記憶力・理解力が低下するので、丁寧な説明があると良い
 - 山下ふ頭は広いので、わかりやすいサインが必要
 - 初めて来た人に魅力を伝えるガイド、コンシェルジュがあると良い
- 全ての人にやさしいまち×デジタルデバイス
 - ・大阪万博ではスマートフォンがないと入場できなかった
 - スマートフォンが使えない人への配慮も必要
- 全ての人にやさしいまち×移動
 - ・安全に移動する
 - 自動運転バスであれば、危険を事前に察知し事故が起きないようにする
 - ・道路に段差がないバリアフリー
 - 車椅子の人も不自由のないように段差を解消する
 - 自動運転バスが走るとしても、車中心でなく歩行者中心として、歩道の縁石の段差はなくす
- 全ての人にやさしいまち×休憩スペース（昨今の夏の暑さ対策も考慮）
 - ・休憩できる箇所を多く設ける
 - ・パリでは公共の水飲み場で炭酸水が飲めるのだが、水か炭酸水が選べるようになると良い

(5) 第5回 まとめ

① 日時・参加者数

- ・開催日時：令和7年12月20日（土） 9:00～12:00
- ・参加者数：31人

② プログラム

第5回は、全5回の検討会の振り返りと全体整理を行う回として実施し、下表プログラムのとおりグループワークを行いました。

時間	行程
9:00～	開会
9:10～	グループワーク (途中休憩)
10:55～	グループ発表
12:00	閉会

③ グループワークの構成・設問

第5回のグループワークは、あらかじめ用意したワークシートに沿って、次の設問で構成しました。

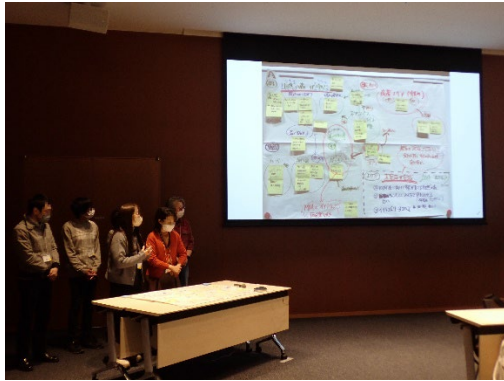
- | |
|--|
| <p>① あなたが山下ふ頭のまちづくりで“大切に/重視/実現したい”と思うこと</p> <ul style="list-style-type: none">・これまでのグループワークの振り返りの中から、特に「大切に/重視/実現したい」と思う点を複数ピックアップ |
| <p>② グループとして“大切に/重視/実現したいこと”を整理・共有</p> <ul style="list-style-type: none">・各メンバーが挙げた項目を共有し、重なりや関連性を確認・グループとして重要だと考えるものを整理・なぜ、その項目が重要なのか、その理由や背景にある思いを議論・これまでのグループの議論を、可能な限り複数のジャンル（緑・海辺／イノベーション／賑わい／市民／インフラ等）にまたがるように、一言で整理 |

④ グループワークの成果

各グループの議論をファシリテーターが模造紙に整理し、発表を行いました。以下、グループごとの成果として意見の概要とその場でまとめた模造紙は次のとおりです。

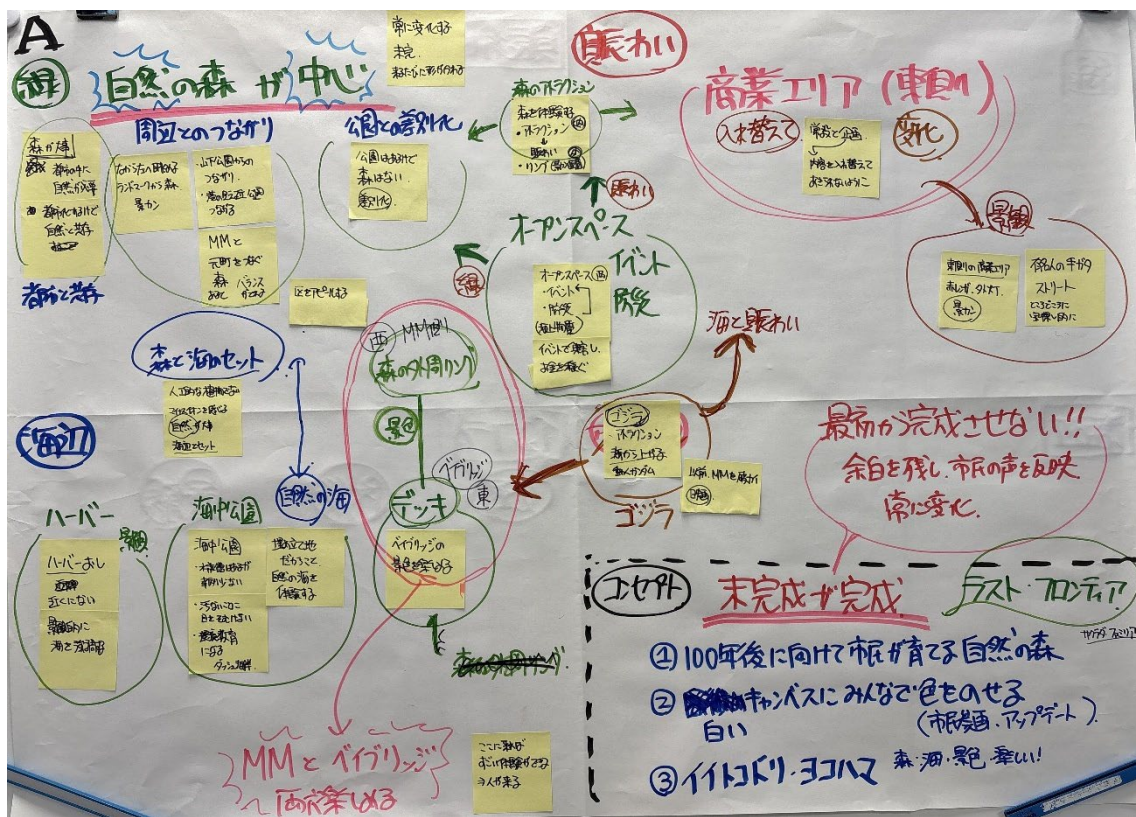
なお、意見の概要については、各グループを担当したファシリテーターが模造紙や議論内容をもとに整理したものです。

《発表の様子》



①山下ふ頭のまちづくりで 大切に/重視/実現したいと思うこと		②大切に/重視/実現したいことをグループで共有・とりまとめ
<p>テーマⅠ「緑と海辺」</p> <p>●自然の森</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市の中に自然が必要 ・人工的な森でなく、マイナスイオンを感じる自然の森であることが大事 <p>→都市化は進むが自然と共存することが大事</p> <p>→西側のMMのランドマークと東側の元町・山手をつなぐには、森があるとバランスがとれる</p> <p>→周辺の緑との連続性（西側の山下公園、南側の元町・山手の緑をつなげる）</p> <p>→公園はあるが森はない</p> <p>→森と海辺がセットで自然が存在する</p>	<p>テーマⅢ「賑わい」</p> <p>●森の賑わい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の中で体験するアトラクション ・外周リングで森の外の景観を楽しむ <p>※東側の突堤デッキからベイブリッジの景色を楽しむため、外周リングはMM側まで</p> <p>●オープンスペース（西側）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントで集客し、お金を稼ぐ ・災害時には海上物資輸送拠点となる 	<p>●自然の森が〈中心〉にある</p> <p>→まちづくりの中心（メインテーマ）</p> <p>→敷地の中心に配置</p> <p>●最初から完成させない!! 余白を残し市民の意見を反映させながら常に変化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来るたびに形が変わる（サグラダ・ファミリア） ・森や花壇に市民が手を加え続ける、区を強調する ・商業エリアでは、店舗が変化する ・オープンスペースでは、様々なイベントが行われる ・山下ふ頭に来ればすごい体験ができる
<p>●海辺</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハーバーが必要 <p>→海辺を強調する景観となる</p> <p>→MMなど近隣にハーバーがない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デッキが必要（東側の突堤） <p>→ベイブリッジの景色を楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海中公園が必要 <p>→水族館はあるが、海中公園の事例は少ない</p> <p>→埋立地だからこそ、自然の海を体験する</p> <p>→環境教育になる。海が汚いことに目を背けない（例：DASH海岸）</p>	<p>●海辺の賑わい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴジラが海から上がってくるアトラクション（動くガンダムのように） <p>→以前、映画でMMを破壊したことで、MMのPRになったので縁がある</p> <p>→山下ふ頭で映画撮影が行われれば、聖地巡礼にもつながる</p>	<p>これまでのグループでの議論を一言でいうと？</p> <p>未完成が完成 ラスト・フロンティア</p> <p>①100年後に向けて市民が育てる自然の森</p> <p>②白いキャンパスにみんなで色をのせる（市民参画によりアップデートする）</p> <p>① イイドコドリ・ヨコハマ（森、海、景色、楽しい!!）</p>
<p>●商業エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東側に商業エリアを設置する <p>→東側を選ぶのは、他のエリアより周囲の眺めのウリがないため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗の入れ替えを行い、飽きられないようにする ・横浜らしい景観デザインとする（赤レンガ、ガス灯等） ・横浜の有名人の手形のあるストリートにする。所々に配置して宝探しのまち歩きができるようにする 		

《A グループ模造紙》

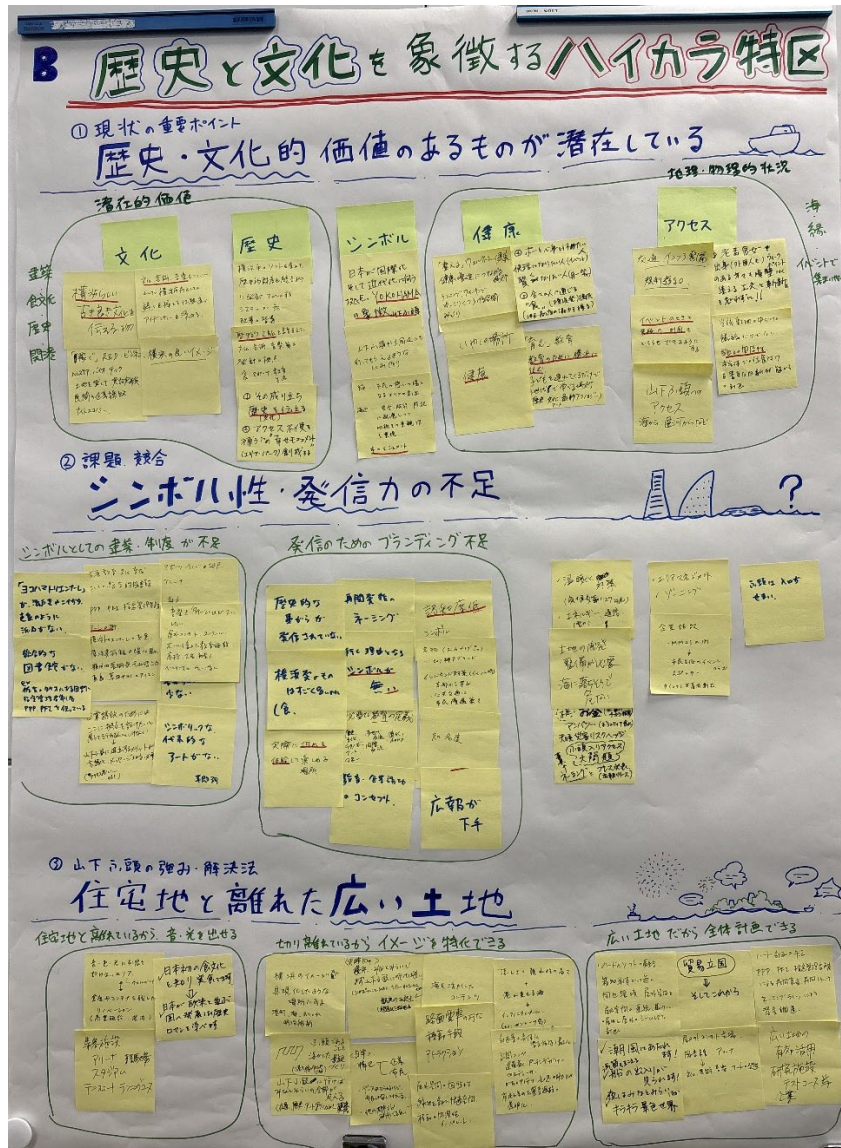


《A グループ発表概要》

- ・「未完成が完成」をコンセプトに、最初から完成させずに余白を残し、市民の声を反映して常に変化させ、森・海・景観を楽しめる横浜らしい空間づくりを進める。
- ・市民が育てていく自然の大きなこんもりとした森を配置する。森には集客のための体験型アトラクションや外周リングを作り、ベイブリッジやみなとみらいの景観を楽しめるようにしたい。
- ・海辺には自然を感じられるハーバーや海中公園を設置し、商業エリアではガス灯や横浜ゆかりの文化を取り入れたい。
- ・「イトコドリ・ヨコハマ」というキーワードで、森・海・景色、色々なものを楽しめる場所を作れたらいいと思う。

①山下ふ頭のまちづくりで 大切に/重視/実現したいと思うこと	②大切に/重視/実現したいことをグループで共有・とりまとめ
<p>【現状における重要ポイント】 山下埠頭には…歴史・文化的な価値のあるものが潜在している</p> <p>《テーマⅠ「緑と海辺」》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の憩いの場となるような緑地エリアの設置 <p>《テーマⅡ「イノベーション」または テーマⅢ「賑わい」》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜らしい古き良き文化を伝える賑わいの創出 ・文化/芸術/音楽などにおける横浜のアイデンティティ確立への取り組み ・歴史を伝えるための仕組みや施設の創出 ・民間企業の誘致や協業を通して、税金を賄いながら発展させること <p>《「市民が結ぶ新たなまちの環」》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が気軽に従事できるような雇用機会の創出 ・教育のために横浜に住む、というイメージがつくような、歴史、文化、技術を学べる場の醸成 <p>《「インフラ構築と空間整備」》</p> <p>〈交通〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山下埠頭から周辺へ観光動線が発散するような交通整備 ・イベント時の利用と日常時の利用における交通量の差を解消できるような交通の仕組みづくり ・海や運河も利用したアクセスの整備 <p>〈防災〉</p> <p>〈景観〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山下埠頭」の象徴となるようなシンボルの設立。 <p>《世代別議論》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康やウェルビーイングといった観点から、健康増進につながる整える場の必要性 	<p>【課題】 しかし…シンボル性・発信力が不足している</p> <p>《シンボルとしての景観の不足》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンボリックかつ代表的なアート作品がない。ex 直島の草間彌生作品 ・総合的な図書館が不足している。他県では指定管理者制度やPPP、PFI を用いた施設建設が行われている ・行く理由や知るきっかけとなるシンボルが無い ・「山下埠頭」という場所自体の認知度が低い <p>《アイデンティティを生み出す制度の不足》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特徴をもったエリアマネジメントやゾーニングが必要 ・企業誘致のためのスポンサー制度や市民全体のイベントなど、ダイレクトな雇用創出が必要 <p>《ブランディングを伴う発信力の不足》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ヨコハマトリエンナーレ」が行われているが、「瀬戸内国際芸術祭」や「大地の芸術祭」ほどの波及力がない ・企業誘致のためには、山下埠頭に進出するためのメリットが感じられるような、エリアの言語化やメッセージ性が不足している ・歴史的な文脈が多くある横浜だが、その内容がうまく発信されていない ・再開発事業のキャッチーなネーミングが求められている <p>【強み・解決法】 そこで…住宅地と離れた広い土地であることを活かした、芸術・文化特区を形成する</p> <p>《環境的特区》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音や色、光に制限を設けないエリアとして、芸術文化の自由度を高める ・建造物のリノベーションや食文化の体験を通して、歴史的な文脈を学べるエリアとする <p>《イメージ的特区》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山下埠頭のイメージである海を彷彿とさせるシンボリックな建築や海を活かしたコンテンツを創出 ・建築物やコンテンツは公募によって広く専門家や市民からアイデアを募集する、透明性のあるプロセスとする ・歴史/文化を発展させる施設の建設や、エリアゾーニングを行う
	<p>これまでのグループでの議論を一言でいうと？</p>
	<p>【コンセプト】 つまりそれは…「歴史と文化を象徴するハイカラ特区」</p> <p>横浜の歴史的な文脈である欧米の文化を取り入れながら土着の文化と混在してきた特殊な雰囲気、つまり「ハイカラさ」をアイデンティティとする特区。シンボリックな建築や景観に加え、芸術文化を促進する制度づくりを山下埠頭エリアに対して限定的にかけることで、歴史、文化、芸術の発展を象徴する独自の特区を生み出す。</p>

《Bグループ模造紙》



《Bグループ発表概要》

- 横浜は日本初が多く、貿易の拠点であり、横浜が国際化する拠点であったことをハイカラと捉え、山下ふ頭を「ハイカラ特区」として再生し、歴史・文化・国際性を活かした魅力ある拠点を目指す。
- 横浜はこれまで変化を受け止めた場所であり、単なる施設を集積するのではなく、多様な方が集まり、芸術が表現できる場があると良い。
- 企業が投資したいと思わせるような仕掛けも必要であり、立地を生かした潮風を感じる景観とイベントでにぎわいを創出する。
- 市民が憩い、健康増進を図れるよう、屋内外が一体となった空間がほしい。
- 民間の知恵を取り入れながら、未来に向けた文化発信の場とし、市民の誇りとなるアイデンティティとなることを期待する。

①山下ふ頭のまちづくりで 大切に/重視/実現したいと思うこと	②大切に/重視/実現したいことをグループで共有・とりまとめ
<p>*C グループは第4回の検討会で意見は出し尽くしたという人が多く、個人的にはあまり付箋は出なかった。</p> <p>テーマⅠ「緑と海辺」 →NY セントラルパークの広い公園（森）。水辺から木々へアプローチでき、みなとみらいの景色が見れたらとてもすばらしい景観になる。 →シンガポールのチャンギ空港。中に森や滝、珍しい生き物が鑑賞できるエリア。この建物自体がラスベガスの球体ドームのようにLEDスクリーンで作られている。内から見ても外から見ても楽しめる、そんな場所にしたい。</p> <p>テーマⅡ「イノベーション」または テーマⅢ「賑わい」 →4号上屋を残して活用する。ちょうど本日～来年3月31日まで4号上屋の中でトヨタが没入型ミュージアムを行っている。入場料3000円。今ある建物をすべて取り壊す必要はない。 →イノベーションの拠点。研究機関、学校をイメージしている。商業的なものではなく、横浜市にとって還元されるものを期待したい。</p> <p>「インフラ構築と空間整備」 ・交通 →交通機関の整備だけに終わらせないでほしい。市民はこのふ頭まで交通機関を使ってわざわざ来るとは思えないから。</p> <p>・防災 →地盤が脆弱。ここに大きな建造物を建てること自体無理があるのではないか</p> <p>・その他として →市の財政の安定。多額の税金が使われると思うので、横浜市民が何をそこに求めているのかをしっかりと聞いてほしい。横浜市民の寄与するというベースの発想が必要 →誰がこの場所を利用するのかターゲットの明確化をすべきだろう。横浜市民なのか、市外やインバウンドをターゲットにするのか</p>	<p>【エンジニア・エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多国籍の企業、技術者が集まる場。それが横浜らしい ・子どもや若者が最先端の技術にふれる、学べる環境をつくる ・これらが意図することは、新しい産業の育成に寄与する拠点をふ頭につくりだし、一過性ではなく永続的なものとしてあり続けることが重要 ・次世代エネルギーですべてをまかなう ・敷地内の移動は「山下ふ頭トックトック号」を運行。外周はゴンドラでめぐる→エコな移動手段を検討する <p>【水・森・憩いエリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここで働く技術者が十分にリフレッシュできるためのエリア ・このふ頭が閉ざされ長崎の出島のようになってほしくない ・誰にも開かれている憩いの空間として活用されてほしい ・横浜を感じてもらえるような場として開かれたものにしたい。→様々な国の文化が融合するイベント等を行い、平和を感じる空間を創出 ・多目的エリアもあってよい（多国籍になるなら、モスク等の祈りの場所としても活用） <p>・これらの2つのエリアがあるのでツインズと名付ける。 ・2つのエリアは常に行き来があり（デッキでつながる）、開かれており、相乗効果をもたらす工夫がなされている。</p>
	<p>これまでのグループでの議論を一言でいうと？</p>
	<p>YOKOHAMA ツインズ テックとネイチャー</p>

《Cグループ模造紙》

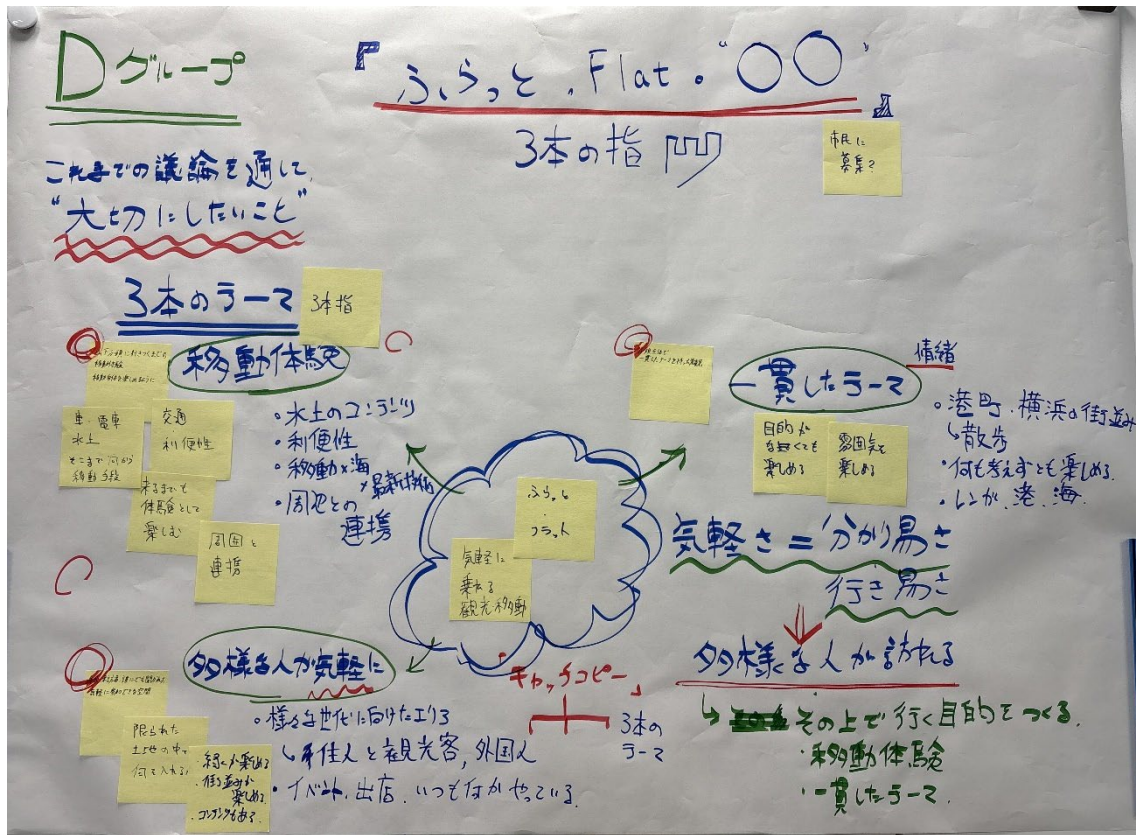


《Cグループ発表概要》

- ・市民として大事なものは財政面や公共インフラの整備などに寄与することではないかと考え、山下ふ頭を技術革新と自然共生の拠点としたい。
- ・研究開発と憩いの場を融合し、働く人がリフレッシュでき、若者が最先端の技術に触れあうことで、一過性ではなく永続的なものとして作り出せる空間づくりがよい。

①山下ふ頭のまちづくりで 大切に/重視/実現したいと思うこと	②大切に/重視/実現したいことをグループで共有・とりまとめ
<p>・テーマⅠ「緑と海辺」 ・テーマⅢ「賑わい」 ・「市民が結ぶ新たなまちの環」</p> <p>●これまでの議論をもとに共通してグループで上がっていた「3つの共通点」</p> <p>1、「山下ふ頭に行き着くまでの移動手段を楽しめるように」 移動のコンテンツ化 ・水上の景色や非日常的な移動体験を楽しめる 「海×移動手段×最新技術」 →フェリー、海の景色を見せる電車、2階建てバス →移動手段に最新技術も導入し、ふ頭内だけでなく、横浜全体で先進的なまちとなる。その中心拠点となるのが山下ふ頭。 →移動からふ頭や横浜の体験は始まる。ふ頭内部だけでないコンテンツの提供。 →移動を通じた地域連携と価値向上 ・交通、利便性向上 →周辺駅からふ頭へアクセスできるバスや地下鉄 →初めて来訪する人でも迷いにくく、ふ頭へ足を運ぶきっかけとなる ・周辺への駐車場設置 →遠方からの車移動の人への支援 →車を置き徒歩でまわれる環境を整え、上記のバスや地下鉄のアクセスと組み合わせることで、ふ頭だけでなくまわりの施設や観光地を巡りやすくする →地域連携、横浜の港全体での経済循環</p> <p>2、「ふ頭全体で一貫したテーマを持った景観」 港町、横浜の街並みをテーマとした情緒ある空間 ・目的の有無に関わらず、ふらっと来ても楽しめる →ただの散歩でも、港ならではの景色、横浜ならではの街並みを体験できるなど、日常的になんとか訪れても楽しむことができる →観光目的の来街者だけでなく、普段から利用する住民にとっても日常を充実させる場所となる ・古き良き横浜らしさを継承する →レンガ、海、港町などを敷地全体の一貫したデザインとして取り入れることで、テーマパークのようにその世界観を空間体験として享受できる空間となる。</p> <p>3、「多種多様な人でも問題なく参加できる空間」 様々な世代や多様な人に向けたエリア ・エリアを細分化し、さまざまな空間を設け、子供からシニア、住人から観光客、海外の人まで訪れて楽しめる場所とする。 →緑が楽しめる、街並みが楽しめる、コンテンツが楽しめる ・イベントや催しをいつも何かやっている場所。 →あそこには何かをやっていると思ってもらえる場所にし、いつ訪れても楽しめる。 →地域イベントとの連携、マルシェ、マーケット、音楽イベント →ふ頭という立地で、街の中ではできないイベントなども実施できる</p>	<p>●3つの共通点を繋げるメインテーマ「気軽さ」</p> <p>気軽さ＝分かり易さ、行き易さ、多様な人が訪れる</p> <p>1、移動のコンテンツ化による気軽さ →明確な移動先、交通の利便性、移動が楽しめる</p> <p>2、港町、横浜の街並みをテーマとした情緒ある空間による気軽さ →散歩のように、目的のコンテンツを決めず、なんとなく来ただけでも世界観感を享受でき、そこにいること、住んでいることが魅力となる</p> <p>3、様々な世代や多様な人に向けたエリアによる気軽さ →どんな世代や属性の人でも楽しめる。いつも何かやっている。事前に調べなくとも誰もが楽しめる</p>
	<p>これまでのグループでの議論を一言でいうと？</p>
	<p>『ふらっと・Flat・〇〇』 3本の指(移動体験、一貫したテーマ、多様な人に向けて)</p> <p>山下ふ頭の形にちなんだ3本の軸、それらを繋げる「気軽さ」 〇〇には地域で公募した要素を盛り込む</p>

《D グループ模造紙》

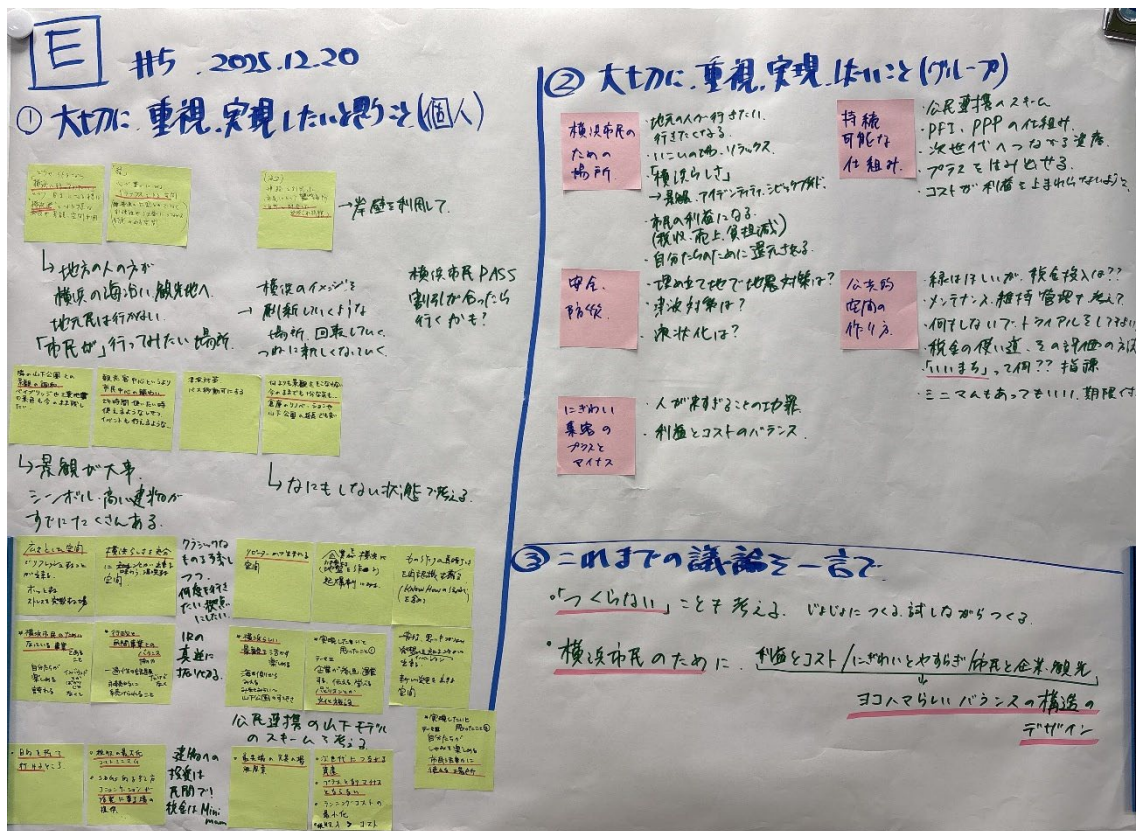


《D グループ発表概要》

- ・これまでの議論を通じて、「誰もが気軽に訪れ、繋がりを感じられる空間」が重要と考えた。山下ふ頭の3本の指をイメージし、3つのテーマを掲げた。
- ①移動手段の楽しさと利便性を両立し、車・電車・水上交通を観光資源化。
- ②市民から観光客まで、ふらっと来て参加できる多様な体験を提供。
- ③まち全体に統一感あるデザインを施し、歩くだけで楽しめる魅力を創出。

①山下ふ頭のまちづくりで 大切に/重視/実現したいと思うこと	②大切に/重視/実現したいことをグループで共有・とりまとめ
<p>・地方の人が横浜の海沿い、観光地へ行く。地元民は現状では行かない。「市民が」行ってみたい場所を作ってほしい。横浜のイメージを刷新していくような場所、アップデートして常に新しくなっていく。</p> <p>どうせ作るなら、「横浜に行ってみたい」という目的になるような、横浜発となるような施設や景観、空間利用を。</p> <p>【緑】心が豊かになる、リラックスできる空間。</p> <p>【海辺】埠頭を利用した、市民にとっての場所。自然と融合した施設（水族館など）→岸壁を利用して。横浜市民パスなど割引があったら行くかも？</p> <p>・景観が大事。シンボルや高い建物はすでにたくさんある。</p> <p>隣の山下公園との景観の調和。ベイブリッジや工業地帯の景色も今のまま残したい。観光客中心というより市民中心の賑わい。24時間使いたいときに使えるような施設。イベントも行えるような。</p> <p>【防災】【交通】津波対策。バス移動可にする。</p> <p>なにもしない状態で考える。</p> <p>何よりも景観を損なわない。今のままでも十分な気も。倉庫のリノベーション他、山下公園の延長でも良い。</p> <p>・クラシックなものを残しつつ、何度も行きたくなる拠点にしたい。</p> <p>広々とした空間。リフレッシュすることができる。ホッとする、ストレス発散する場。</p> <p>横浜らしさを十分に味わう、満喫することができる空間に。</p> <p>リピーターが生まれる空間。</p> <p>企業を横浜に引き止める地盤を作る。起爆剤になる。</p> <p>ものづくりの素晴らしさを再認識する（ノウハウの伝承を含めて）</p> <p>・IRの真逆に振り切る。</p> <p>横浜市民のためになっている事業であること。→自分たちが楽しめる、誇れる。インバウンドとかばかりじゃなくて。</p> <p>行政と民間事業のとのバランス、協力。一過性の話題だけでなく、持続的に続けられること。</p> <p>横浜らしい景観を活かす、楽しめる。→海側から見れる、みなとみらい～山下ふ頭の素敵さ</p> <p>実現したいと思ったこと①→企業が参画運営する、伝える、学べるパビリオンとか文化施設。</p> <p>実現したいと思ったこと②→自分たちが趣味を楽しめる。市民活動に使える場所。</p> <p>普段思いもつかないような発想やイノベーションを知ることができる、新しい発見をできる空間。</p>	<p>横浜市民のための場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の人が行きたい、行きたくなる。 ・憩いの場、リラックス ・「横浜らしさ」→景観、アイデンティティ、シビックプライド ・市民の利益になる（税込、売上、負担減） ・自分たちのために還元される <p>安全・防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋立地で地震対策は？ ・津波対策は？ ・液状化は？ <p>持続可能な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民連携のスキーム ・PFI、PPPの仕組み ・次世代へつなげる資産 ・プラスを生み出せる ・コストが利益を上回らないように設計 <p>公共的空間の作り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑はほしいが、税金投入は疑問 ・メンテナンス、維持管理を考えて ・何も作らないでトライアルをしても良い ・税金の使い道、その評価の方法 ・「いいまち」って何？指標 ・ミニマムもあっていい。期限付き <p>にぎわい集客のプラスとマイナス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が来すぎることの功罪 ・利益とコストのバランス
<p>・建物への投資は民間で！税金はミニマムに。公民連携のスキーム。</p> <p>目的を持っていけるところ。</p> <p>税込の最大化、コストはミニマム。</p> <p>SDGs的な考え方、コミュニケーションが活発になる場の提供。</p> <p>最先端の実装の場。脱炭素的な取り組み。</p> <p>次世代につなげる資産。プラスとなり、マイナスとならない。ランニングコストの最小化。税込>コスト</p>	<p>これまでのグループでの議論を一言でいうと？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つukらない」ことも考える。徐々につくる、試しながらつくる。 ・横浜市民のために。利益とコスト/にぎわいとやすらぎ/市民と企業・観光→横浜らしいバランスの構造のデザイン

《E グループ模造紙》



《E グループ発表概要》

- 最も重視したのは「横浜市民のための場所」であること。
- 横浜らしい景観はアイデンティティでもあるのでそれを大切にしたい場所にしてほしい。
- 市民に利益を還元できる持続可能な仕組みを構築できるとよい。
- 持続可能にしていくために、安全性、防災・防犯、維持管理を考慮し、段階的な開発を行うことも考えられる。
- コストと税収のバランスを図り、次世代に資産を残す現実的な再開発をしてほしい。

①山下ふ頭のまちづくりで 大切に/重視/実現したいと思うこと	②大切に/重視/実現したいことをグループで共有・とりまとめ
<p>テーマⅠ「緑と海辺」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝生 ・裸足、寝転がることのできる芝生でまったり過ごす ・海の浄化とイベント性を持たせた稚貝の放流 ・ふ頭の周囲をアクリル板で覆い、再生する海が見える水族館、海中から海の揺らめきをつかったライトアップ <p>テーマⅡ「イノベーション」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消をめざした野菜ハウス、植物園をイメージし周囲は透明性の高い太陽光パネルを貼りつける ・野菜工場の収益を施設管理に <p>「市民が結ぶ新たなまちの環」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節イベント、フレキシブルな空間 ・イチゴ狩りに来たい、山下ふ頭産のブランド野菜のサラダを食べに来たい ・昼と夜の顔をもつ場所へ ・他県・海外から人を呼ぶ特徴・名物とは？を考える <p>「インフラ構築と空間整備」</p> <p>交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふ頭内は車を入れない <p>防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全とは？逃げるだけか？ ・防災を考えて、山下たふ頭につながる道路がもう1か所あるとよい <p>景観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物は落ち着いた佇まい、でも時代に後れをとらない設備、デザインであること ・シンボリックな木製の建物を広場の真ん中に作る <p>トイレ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰でも来やすくするためにはトイレは重要。トイレアプリを活用してトイレ渋滞を緩和させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●海の青と植物の緑の色彩、自然の再生 ・1回目に現地で見たグレーのふ頭と汚い海のままで、人が来たいと思える場所になれないのではないか。 ・山下ふ頭を、きれいな海の再生に取り組み、広く発信する拠点に ・周りと調和した緑があり、憩いの場としての緑、芝生があること ●楽しく ・楽しくなければ人は来ない ・大人も子どももワクワクできる、「ぜひ行きたい」と思える場所、内容であることが重要 ・食（野菜工場、マルシェなど）、学び（再生や自然保護活動など）、大人も子どももワクワクできるエンタメで人がつながれる場所があること ・最初の1回をどう呼び込むかが大事。最初は子どもたちの体験遠足で、次は家族と一緒に来ることにつなげる。 ・楽しく学べる、参加できる場所であること ・ここでの体験が、一人一人の考えるきっかけになることが大事 ●進化 生まれ変わる 終わらない ・今から作り変えるなら環境への配慮を ・何をするにもエネルギーが必要。この場所で作った電気で各種施設をまかなう、防災上も強い場所に ・ゼロカーボンを山下ふ頭で先導すべき ・できたら終わりではない、フレキシブルに進化し続けること ・決まっていない、固定でないからこそ柔軟な使い方ができるフレキシブルな空間に ・季節イベントなどで、何もないようでいつも何かがあることで、一定の層に偏らない様々な人が来なくなる ・これらが山下公園など周辺との差別化にもなる ●コンセプト案 「自然、食、学び、大人も子どももわくわくできる、エンタメで人々がつながれる、未来に残していきたい場所」 「新たに生まれ変わった山下ふ頭と港町横浜」 「いつも進化している街ヨコハマ、終わりのない更新」 「山下ふ頭の海と緑を再生しつつ、楽しく使う、体験する」
	<p>これまでのグループでの議論を一言でいうと？</p> <ul style="list-style-type: none"> ●海と緑の再生とワクワク体験 ●進化し続ける、終わりのない進化 ●ヨコハマブルーを目指して

《F グループ模造紙》



《F グループ発表概要》

- ・「海と緑の再生とワクワク体験」「進化し続ける、終わらない進化」「ヨコハマブルーを目指して」に焦点を当てた。
- ・海の浄化や稚魚放流など環境再生を推進し、こどもたちが体験できる場を創出する。
- ・様々な方法を試し、新たな発電方法を産官学共同で進めることで進化を生み出していく。
- ・最先端技術を活用して生まれた野菜などは収益に変え、学校給食に活用することも考えられる。
- ・横浜のイメージカラーはブルーであり、海もきれいな青になってほしい。

3 総括（統括ファシリテーターによるまとめ）

市民検討会の各回では、「基本的な方向性」で示すまちづくりのテーマに沿って議論を行いました。第1回の現地視察を経て第2回ではテーマⅠ「緑と海辺」、第3回ではテーマⅡ「イノベーション」、テーマⅢ「賑わい」、第4回では「市民が結ぶ新たなまちの環」について話し合い、それらを支える「インフラ構築と空間整備」についても議論がなされました。

同じメンバーが回ごとに複数のテーマを継続して議論するプロセスを通じて、「基本的な方向性」の理解を深めながら、回を重ねるごとに、より具体的で実現性のある意見が整理されてきました。

また、世代別に分かれての意見交換では、各世代の市民がどのような関心を持っているかという率直な傾向が示されたと解釈しています。まとめてみると、世代別の傾向が見事に分かれていることも興味深いポイントです。

上記意見は、今後の事業における社会的なニーズとして、大いに参考になるものと考えます。この世代別の意見交換も踏まえながら、第5回では各グループが議論しています。

第1回から第4回までの積み重ねを踏まえ、集大成となる第5回では、グループごとにそれまでの議論を総括し、「大切に／重視／実現したいこと」をとりまとめました。

(1) 第1回から第4回での議論の積み重ね状況

第1回目から4回目の議論は、各グループが第5回で「大切に/重視/実現したいこと」をまとめる際の基礎となるものです。このため、第5回目のグループワークは、各グループのファシリテーターがこれまでのグループワークを振り返ったうえで行いました。

① グループA

テーマⅠ「緑と海辺」	テーマⅢ「賑わい」	「市民が結ぶ新たなまちの環」
<p>(「緑と海辺」のイメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●緑 こんもりとしたシンボルとなる森 自然の森 オープンスペース ●海辺 ハーバーエリア 中央と東側の突堤(水上交通の拠点 東側突堤先端にデッキ) 突堤の間にある窪み(釣り 養殖 デッキで突堤をつなげる) 東側(小さな店舗が集積する商業エリア) 親水空間(砂浜のようになだらかに海に接続できる) <p>(来街ターゲット、空間活用のイメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●誰もが楽しめる ベースは市民観光名所 入園料の設定 ●エリアごとに利用者を設定 アクセスの良い南側は市民利用中心 奥側(海側)は観光客 ●森 住民、ワーカーが心地良い、憩いの場等 ●商業エリア(東側) 観光客、休日のファミリーが楽しむ ●ハーバーエリア(中央と東側の突堤) みんなが楽しむ ●デッキ(第3突堤) 非日常を味わう 横浜の景色を楽しむ 	<p>(「賑わい」のイメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山下ふ頭に来る理由 そこにしかない産物 外国人が来る理由 訪れる目的+来てみたら良かった ・人が多く集まったりリピートするのは体験できること ・シーズンごとに楽しめる(特に夏) ・場所の力はある <p>●賑わいのバランスを保つ(観光客と市民)</p> <p>●最初から完成させるのではなく、作り続ける(永久に未完成)</p> <p>●常設ゾーン(こんもりとした森)と企画ゾーン(商業エリア、オープンスペースなど)</p> <p>(その他、ソフト施策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●PR戦略(SNSインフルエンサーの影響 ゴジラでPR) ●稼ぐ戦略(観覧料、ヨットの係留料金、屋形船) 	<p>(参加したいと思える要素、活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●花・花壇 植林、花壇への参画 区民の参画(森や花壇を区ごとにゾーニング) 管理への参画(ガイド、薪・間伐材など) 花博の資源を再利用 ●祭り・イベント 大きな祭りへの参画 区民が参画するイベント来街者向けのイベント ●歴史 施設展示 謎解きまち歩き <p>(「市民参画」のイメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●財源 滞留時間 入園料(各施設・アトラクション(森林リング等)ごとに料金を徴収) 植林体験 夜景(集約の)メリハリ ●東側の商業エリアの一角にチャレンジショップ <p>東側突堤海中公園(海の透明度を学習できる)</p>
<p>インフラ構築と空間整備(左から交通、防災、景観)</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ●ふ頭までのアクセス 水上バス 周回バス 既存バス延伸 ロープウェイ マイカー用の駐車場 パークアンドライド ●ふ頭内の交通(電気自動バスによる巡回 ロードトレイン) 	<ul style="list-style-type: none"> ●西側の岸壁 災害時の海上物資輸送拠点(円滑な物資輸送のため西側はオープンスペースに) 備蓄は地下に保管 防災体験施設 避難インフォメーション ●劇場(座席)は非常時の避難場所としても活用できる ●森に設置する外周リング 津波避難施設 	<ul style="list-style-type: none"> ●建物は森より高くしない(高層ビルはみなとみらいで十分) ●横浜らしさの演出(赤レンガ、ガス灯等) 道路舗装のデザイン ●シンボルタワーは不要(マリンタワーがある) 森に外周リングを設置し、海の眺めを楽しむ

② グループ B

テーマⅠ「緑と海辺」	テーマⅢ「賑わい」	「市民が結ぶ新たなまちの環」
<p>(「緑と海辺」のイメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観・シンボル性 ・緑と建築の融合・体験できる自然 バラ アート ・空間の連続性・回遊性 山下公園と連続した自然 イベントの連携も ・海との関係性・親水体験 マリンスポーツ 船 釣り堀 ・健康やウェルビーイングをもたらす ランニング トライアスロン ・防災・多目的利用 埋立地としての安全性を確認できる ●キラキラ光る海 キラキラ光る海を体験 周遊乗り物 ●大人も子供も“あそべる”。自分の“あそび”が見つかる ●文化・芸術の発信地、体験地 <p>(来街ターゲット、空間活用のイメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常とイベント時とで利用者が異なる 一体感がありながらもエリアで色分けできるとよい 一日中楽しめる場所 ●日常 幅広い世代の市民が日常的に足を運ぶ場所 地元の市民が気軽に来て、文化や国際的視点を生活に取り入れられる 近隣の人が散歩で利用 海が好きな人 観光客:リピーター 新しいものが好きな方々 高齢者 ●イベント時 国内外から人が集まる アート コンサート 	<p>(「賑わい」のイメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化的背景 (横浜らしさの源流) 開港都市 和・洋・中が調和 ・都市のイメージ 象徴的な建築物 ナイトエコノミー エンターテインメント ・エリアとしてのにぎわい 周辺の観光地 フェスやスポーツ ・受入環境 (インクルーシブデザイン) ・にぎわいの質 にぎわいと混雑はちがう うまく分散で <p>「開港都市としての文脈を活かした海外文化の入口」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●滞在できる：イベントでの来訪をきっかけに横浜を楽しむ ●体験できる：ここに来れば新しい技術や伝統が学べる ●くつろぐ：“ごろん”とできる場所 (都会的な喧騒があっても疲れない) ●景観：この場所をイメージさせる象徴となる景観がある <p>(その他、ソフト施策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●空間づくり 用途を固定化しないステージ フォトスポット ●インバウンド・ユニバーサルデザイン サイン 案内 夏場のミスト ●ブランディング 食の名所スポット 月替わりイベント ネーミング ●宿泊施設 (量・多様性・立地) 音楽がながれている 通信環境 イベント・常設設備を支える電力供給 ●安全・セキュリティ スポットでのイベントスタッフ配置 セキュリティ対策 (緩和の中で遊べる空気と秩序のバランス) 	<p>(参加したいと思える要素、活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●健康 ランニング そこでのコミュニティが醸成されていく ちよっと危険なスポーツも ●歴史 「横浜の歴史を学ぶ」「●●検定」 謎解き 運河パレード ●体験 無料で学べるような体験施設 企業の体験施設 生涯学習・生涯研究ができるような場所 <p>(「市民参画」のイメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●行けば気軽に参加できる イベントや体験を通して横浜を知れる機会 ●市民自ら案内人になる 来訪ではなく運営側など能動的な参加 誰かの役に立つ 市民ガイドとそのための育成 発表の場 ●研究機関や企業とのコラボ (R&B) 市民発意 (大学や部活、団体など) の創造に企業がバックアップ 様々な企業が実証実験を行うような場所
<p>インフラ構築と空間整備 (左から交通、防災、景観)</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ●会場までのアクセスや会場内外での移動 多様な移動手段 ●バリアフリー 		<ul style="list-style-type: none"> ●横浜をもっと身近に感じてもらうためのライブカメラ

③ グループC

テーマⅠ「緑と海辺」	テーマⅡ「イノベーション」	「市民が結ぶ新たなまちの環」
<p>(「緑と海辺」のイメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●山下公園との連携や緑地・動線の一体的形成 「海辺の森」となるような唯一無二な緑のシンボルづくり ダイナミックな緑化 ●緑と水辺の一体感 臨港パークから山下公園までの緑でつながる歩行空間 ●市民が憩える公園や自然空間、多様な市民が安心して交流できる集いの場 <p>創造性を刺激するようなこどもが冒険できる場 おとなの向上心が刺激される場 マスルビーチ 自転車による自家発電隣接してオフィス機能を用意</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最先端テクノロジーと自然環境の融合 未来の水族館 倉庫(4号上屋)を残す プロジェクションマッピング <p>(来街ターゲット、空間活用のイメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光客が中華街にきたついでに寄っていく 観光マナー ●近隣住民が散歩に来る ●ビジネスマン <p>「近隣住民も観光客もみんな来られる場」</p>	<p>(「イノベーション」のイメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●イノベーションを起こす前提としての横浜の課題 <p>既存ストックの活用 立地条件を活かす 日本最古のもの(元町プール、テニス場、競馬場) 等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●イノベーションの方向「技術者の集まる街」 <p>「バイオテクノロジー」 「海」という横浜の特徴を生かす グリーン社会を構築するための最新技術 働く環境としての緑の整備 住環境、食文化、娯楽文化を整える</p> <p>シンボル(建物やタワー)があると誘致効果が高まる 等</p> <p>(その他、ソフト施策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●財政 税金の有効活用 税収をどのように増やすか ●マスコットキャラ 横浜のマスコットキャラを誰も知らない より知名度のあるキャラクターをつくるべき 	<p>(参加したいと思える要素、活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●技術者を集める工夫 ●集まった技術者や企業体と市民がふれあえる機会を創る ●こどもや若者が未来の技術を体験するプログラムを創る ●街のプロモーションを市民参加で行う <p>(「市民参画」のイメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●来てくれる技術者むけの資金的援助 補助金、クラファン 横浜のソウル(フード)が必要 ●市民ボランティアによる実行委員会、イベントを企画運営 大人の部活動 ●学生がインターンシップとして参加 学校の社会科見学等、学べるプログラム 企業CSR ●市民募集 参加のハードルを下げる
<p>インフラ構築と空間整備(左から交通、防災、景観)</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ●元町中華街駅から地下通路 ●近隣駅からの循環バス ●路面電車の走っているまちの風景は素敵 	<ul style="list-style-type: none"> ●液状化の心配はない? 3.11の時、津波被害は鎌倉まできている ●10年後は今よりAIも発達 様々なデバイスが出ている ●スターリンクの活用 ●ドローンの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ●景観の高さ制限すること 津波避難ビルの必要性との兼ね合い ●まちの特徴として「海」が真っ先にあがるのに、その海が汚い

④ グループD

テーマⅠ「緑と海辺」	テーマⅢ「賑わい」	「市民が結ぶ新たなまちの環」
<p>（「緑と海辺」のイメージ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑の連続性 建物だけでなく施設と緑をバランスよく構成 ・海辺のロケーション 曲線的や立体的な計画で海と人が交差する ・海辺に近いことによる課題 津波 海風 日差し 塩害 ・開放感のある敷地 海と空を遮らない日影があるとゆったりできる ・横浜ならではの歴史文化と港町らしさ 港町の歴史的な建物も活かす ・多くの人アクセスできるように 車 バス 電車 徒歩 <p>●海辺活用のイメージ 水に触れる 海を眺める距離感 海風や日差し対策</p> <p>●緑のイメージ 山下公園の緑をふ頭内にまで連続させ、緑から海へ、施設と自然を調和させた計画にする</p> <p>●全体の活用イメージ 港町の文化や歴史を活かした施設計画や活用</p> <p>（来街ターゲット、空間活用のイメージ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●様々な国や世代の人を対象に エリアを分割し様々な特性を持った活用を行い、多世代が楽しめる計画に ●地元の人も観光の人も楽しめる場 日常と観光 他の観光名所との連携 ●日常的な利用 散歩や休日に家族で遊びに来る公園 ●観光で楽しめる利用 周辺施設と連携 観光客のルートのひとつ 	<p>（「賑わい」のイメージ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発信力や影響力 メディアや SNS で目に入る回数 情報を見かける機会 ・テーマ性がしっかりしている 文化、歴史、港町 中華街の歴史的な文化 ・祭り、催しなどが行われている ドラマやアニメの撮影場所として注目 ・多くの人訪れる その場に目的がない人でも立ち寄れる 憩いの場 情報や体験を共有できる場 交流や研修などの学び <p>「何度も来ることになる場、来なくなる場」「常に使われる場」</p> <p>●活かしていく「賑わい」 港町の営みや風景 豪華客船やクルーザー コンテナの集積、客船、工業地帯 横浜の文化的な建築や風景</p> <p>●これから必要な「賑わい」 水上のコンテンツと移動の充実 クルーザーやフェリー 水上に線路 空からのアクセス 地下からのアクセス</p> <p>（その他、ソフト施策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●海辺×横浜らしさを活かす 施設連携やイベント 立体的に水と付き合うベイホール側を埋め立て 砂浜や渡し船のような水に近いコンテンツ ●安心安全に利用できるように 警備や警察の管理が届く インフォメーションや郵便局を集約 「24時間利用可能」 治安維持やゴミ対策 	<p>（参加したいと思える要素、活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●海の防災施設、最新技術を体験したい 新しいまちだから防災施設も最新 ●防犯、ボランティアパトロールも必要 ●いろいろなコラボ展開 山下ふ頭ならではのIPをつくる ●横浜でしかできないこと、体験 オペラを横浜で見たい ミニ神奈川県 ●まちの決定事項を投票で 常に誰もが投票できる仕掛け イルミネーション 花の種類 ●再開発が完成する 10 年後… 今よりももっと技術が進んでいる AR技術の進歩 <p>（「市民参画」のイメージ）</p> <p>「わくわくしたい 楽しく 気軽に参加したい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境・美化 ゴミ分別、美化活動に参加 「まちの決定事項を投票で」 ●景観 最新技術のデジタルサイネージ、プロジェクションマッピング 子供たちの絵など市民の身近なコンテンツの発表 ●食・文化 毎週マルシェ 質の高い食 「ミニ神奈川県」 ●まちをつくる段階での参加 建物の壁面タイルづくり 手形、壁画、メモリアル自由落書き 子供たちが考えたピクトグラム
インフラ構築と空間整備（左から交通、防災、景観）		
<ul style="list-style-type: none"> ●水上での交通手段など、移動体験を楽しめる 主要駅から直接行ける手段の整備（路線バス、電車、水上交通） 移動も楽しめるように ●マイカー規制 付近に駐車場を整備 子供連れでも周囲の施設と合わせて巡りやすい（レンタサイクル、遊歩道） ふ頭内移動手段（動く歩道など） ●「アクセス×最新技術」「移動手段を観光資源に」 	<ul style="list-style-type: none"> ●災害の想定と災害対策を踏まえた計画 	<ul style="list-style-type: none"> ●一貫したテーマに沿った景観 開港の街、庭園、大正ロマン、レトロとモダン 敷地内は一体感のある風景や世界観をつくる ●ふ頭内は高い建物は建てない 少し高い所から景色を見れる ●内外から見栄えの良い壁の整備 現状の劣化したコンクリートを補強 緑との組み合わせ

⑤ グループE

テーマⅠ「緑と海辺」	テーマⅡ「イノベーション」	「市民が結ぶ新たなまちの環」
<p>(「緑と海辺」のイメージ) (来街ターゲット、空間活用のイメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●西側エリア 山下公園の延長で、横浜市民が散策できる親水公園 日常的利用 無料で気軽に来られる 既存上屋をリノベーションしておしゃれなレストランや旅行者が遊べるような場所 ●中央エリア 小高い丘に木陰や緑のある森を整備 市民も観光客も楽しめる場所 レストランやエンターテインメント 倉庫や上屋をリノベーションして歴史を残すような再開発 ●東側エリア 全国、海外からも集客できるような施設 中華街の観光とセット 東側の海の景観は港やベイブリッジ イベント、フェス、スポーツの会場 目的型施設 そこに行かないと見られない、食べられないものを体験 	<p>(「イノベーション」のイメージ)</p> <p>「なぜ、横浜・山下でイノベーションが必要なのか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●横浜の都市イメージの向上のためにやるべき横浜のブランディング 多様な人が集まる イノベーションへの投資 ●市民に開かれた楽しい場所ならやってもいいと思う イノベーションのショーケース 知識の集積 スポーツ分野でのイノベーションの可能性 ●(疑問) 税金を投入してまでやる必要があるのか？ ●「横浜市民としてどんなメリットや良さがある？」 ●横浜のブランド価値向上 横浜にしかないもの 技術 施設 ●横浜の課題解決 景観を損なわず利益を生む施設 企業立地で税収 up ●人や企業が来る、収益 up 郊外部の高齢化課題解決 色々な文化に触れられる 仕事が増える まちがアップデートされる、好循環が起きる働きやすい社屋、働いていない人も行ってみたいくなる ●市民の知識・知恵の向上 技術をわかりやすく伝えるコミュニケーター <p>(その他、ソフト施策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●横浜のシティブランディング 環境・エネルギー先進都市 健康都市 ●伝える、学べる機能 図書館、博物館、科学未来館 企業のパビリオン ●多様な文化・価値観 教育施設、学校 「高齢化」「スポーツ」「健康」 ●継続的な都市のアップデート 新しいビジネスや職場 再投資・循環 ●企業立地で税収アップ 他のイノベ拠点と連携それらをつなぐハブ 	<p>(参加したいと思える要素、活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●園芸・ガーデニング 樹木の一株オーナー 海水、風力を活用する技術など ●緑(グリーンインフラの導入) 小学生の学校の課題として ●スポーツや遊びなどを教え合う ●クラフト・工房ものづくり 工芸品 ボートづくり ●チャリティマルシェ、フリマ 市民からの不用品回収など物々交換 ●文化祭・スポーツ大会(区民対抗) 発表の場 会社体験 ●「まずは楽しいと思えることが大事」 ●市民活動に参加するきっかけ ●最初は半強制的だけどやってみたら意外と面白い ●得られる体験価値がわかれば行く <p>(「市民参画」のイメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●仕組み わかりやすい、利用料が高すぎない、手軽に申し込める必要なもの用意を貸してくれる 宣伝されている、目に触れやすい 24時間 365日開いている施設 うるさくしてもいい ●空間 アップダウンのある緑の空間 健康維持ができる 多様性のある空間 万人のフォークダンス大会 広くてマルチに使える場所
<p>インフラ構築と空間整備 (左から交通、防災、景観)</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ●西側エリアは徒歩で来場 元町・中華街駅、バスとの連携 ●中央エリアは全体の交通のハブ ●東側エリアは太平洋方向、千葉方面を行き来する水上交通の乗り場 	<ul style="list-style-type: none"> ●中央エリアの丘、展望台は、津波発災時には避難タワーの役割も 	<ul style="list-style-type: none"> ●西側エリアはどこからでも水面が見える起伏 ●中央エリアは丘の上に展望台があり、みなとみらいや海が眺望できる 展望台に植物園や野菜工場 データセンター 太陽光発電

⑥ グループF

テーマⅠ「緑と海辺」	テーマⅡ「イノベーション」	「市民が結ぶ新たなまちの環」
<p>（「緑と海辺」のイメージ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人の関心を惹く 木々 植物で色彩を出す 四季を感じられる植樹 青い海 キレイな海（ゴミが少ない、透明感） 横浜って何色か？青、ブルーのイメージ ・新たな発見や感動をもたらす 芝生を基調とした地面で過ごす場所 真夏の日射しを避けられる屋根、グリーンカーテン 芝生広場の周りを散歩やジョギング ●真ん中に芝生広場、周りに木々や花々を 船や対岸から緑が見えるように緑を配置 人工的と自然のちょうど良い塩梅に ●中央にシンボリックな建物 四方から集まりやすい（逃げ込みやすい）中央に芝生など緑の延長線にある見え方に 周辺の緑との調和（木質など） ●突端部にきれいな海を育てる活動や施設 環境を改善する施設 子どもたちと一緒にきれいな海を育てる活動 <p>（来街ターゲット、空間活用のイメージ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子ども、子連れ（+大人） 広い芝生広場で車の往来の心配なく素足で楽しめる そこで過ごしている人たちも合わせて「景色」がある ●大人（お年寄りも外国人も） ゆったり過ごせる場 遊ぶ場所はまわりにいっぱいある 完結しなくてよい 1日遊べる 昼の顔と夜の顔 ●全市で 環境改善で出来た堆肥を市民や市内の農家で活用 	<p>（「イノベーション」のイメージ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境再生のための技術活用 ・発電 電気・食料を作る大学、高校や企業と連携して、電気を起こす研究機関 太陽光パネル ヘドロから作る微生物電池 水電解技術 浸透圧発電 ・食糧 つくる+食べる+体験 野菜工場をつくる 給食無償化の一部に ・CO2固定 周辺の商業施設からCO2を回収 野菜の光合成に利用 CO2削減+野菜を育てる ●人のための技術活用 ・体感・学びの場 PR・集客・人材育成 ブルーの海の再生の見える化 植林、水質改善、動物の保護 再生や自然保護活動からの学び 横浜港エリアの中で他にはない楽しさをつくり、魅力を発信、集客から収益へ ・快適性 開かれた場、行きやすい場にしていくためのイノベーション 環境負荷の少ない移動手段 夏の暑さ、冬の海風をエネルギーに変換 <p>（その他、ソフト施策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●トイレは分散してどこからも行きやすく、景観に配慮して配置 空き状況が分かるアプリの開発 ●回遊するからこそ、外国人にもわかりやすいサイン、インフォメーションを ●運営するための収益も必要 	<p>（参加したいと思える要素、活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●野菜ハウス・野菜工場で 手入れのアシスタント ●本を読む以外もできる図書館で 司書のアシスタント ●電気をつくる工場で 見学を通じた参加、電気を作る仕組みを説明する ●広場で 野菜を食べに来たい、並ぶのもワクワクする ロボットの恐竜 ●共通「楽しくなければ人は来ない」 <p>（「市民参画」のイメージ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業で施設運営、育てる・再生する・集客する活動を市民で参画する ・①安心、②楽しい、③癒し、④安価（ある程度の収益は必要） ●施設で（野菜工場（ハウス）や発電施設、色々なことができる図書館で）野菜もヒトも育てる ●広場で ～ヒトがヒトを呼び込む～ 食べて楽しむ 食べて応援 見て聴いて楽しむ 体をつかって楽しむ 一緒につくる ●遊歩道で 一緒につくる 自転車や自動運転車の試乗イベント ●水辺で 再生を体感する ●運営企画への参加 子どものボランティアグループ 子どもの発想でイベントを企画 場所貸しでの収益や売電 FM局の開設 マスコミを活用
<p>インフラ構築と空間整備（左から交通、防災、景観）</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ●周りのエリアと行き来しやすく（シェアサイクルなど） 入り口に駐車場 ●車はふ頭の中まで出入りしないように 自転車や徒歩中心 ●高齢者のためにぐるっと周れる乗り物を ●「環境にやさしく」は当然、エンタメ性も 	<ul style="list-style-type: none"> ●非常時に使用するオープンスペース 緑や芝生部分 ●建物の2階、3階に逃げられる場所を ●強風時の風の通り道を考えて吹き抜けなど 自家発電も ●新しい技術や設備の導入 リチウムイオン電池より安全性の高い蓄電池の導入（全固体電池など） 	<ul style="list-style-type: none"> ●建物は周辺の緑と調和し、緑の延長線にある見え方に ●夜景が水面に映る 海側からのライトアップ ●発電や浄化施設などのタンクは、景観を損ねないように地下に

⑦ 世代に分かれての議論

30代以下

- 景観的にNGと思うこと 治安の悪さ ギラギラ電飾 高い建物 等
- 積極的に取り入れてほしい シンボルとなるような建物 倉庫や建物、コンテナを残してリノベーション 等
- 横浜の好きな景観 横浜三塔 日本丸横のマリタイムミュージアム 等

40代

- 次世代にも残せる&横浜市の税収アップにもつながる
- サスティナブルにお金を生み出していく
(横浜市の役割) ゾーニング 近隣エリアとの連携 ブランドコントロール 等
(企業誘致) 企業進出のメリット 未来志向 企業の社会貢献 等

50代

- 健康 マラソン 散歩 ヨガ
大きな声を出す ダンス
- お金 75まで働かないといけない世代
税金を山下ふ頭に投入してどこまで回収可能か 収益が生まれる工夫 等

60代

- 『山下ふ頭、最近いいよね』と言えるようになるには? 横浜と言えば…みなとみらい? 望ましい人の多さ
余裕感 周りのエリアと違うコンセプト
夜景 幸せを感じられるモニュメント 行きやすい・巡りやすい 等

70代以上

- 横浜らしさ 歴史 名物 文化・芸術
- 全ての人にやさしいまち
わかりやすさ デジタルデバイド 移動
休憩スペース 等

(2) 山下ふ頭のまちづくりで 大切に/重視/実現したいこと

第5回の発表に加え、統括ファシリテーターが、各回の議論を通して把握した各意見や、その意見に込められた背景にある想いについても、該当する内容に紐づけてグループごとに整理しました。

表の見方

発表内容及び各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想い
第5回市民検討会の各グループの発表概要を記載しています。
各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想いについて記載しています。

A グループ

発表内容及び各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想い
<p>「未完成が完成」をコンセプトに、最初から完成させずに余白を残し、市民の声を反映して常に変化させ、森・海・景観を楽しめる横浜らしい空間づくりを進める。</p>
<p>いつ来ても同じではなく、「来るたびに形が変わる」楽しさを大切にしたいため、訪れるたびに変化し続ける、「未完成」が魅力となるまちを求めている。</p>
<p>山下公園や元町・山手などの周辺の緑や海辺がつながることで、都心臨海部全体のバランスがとれると考えたため、横浜らしい緑と海が一体となった景観を求めている。</p>
<p>市民が育てていく自然の大きなこんもりとした森を配置する。森には集客のための体験型アトラクションや外周リングを作り、ベイブリッジやみなとみらいの景観を楽しめるようにしたい。</p>
<p>市民が主体的にまちづくりに関わり続け、100年という長い時間をかけて育てるまちに対して誇りを持てることを考え、都市化が進む中でも、「自然と共存することが大事」と感じているため、自然の「森」をまちづくりの中心に据えた、都市と自然が共存する空間を求めている。</p>
<p>公園はあるが「森はない」現状の中で、より深い自然体験を求めているため、森のアトラクションや海の体験を通じた、心躍る賑わいを求めている。</p>
<p>景観を大事にしていきたいため、横浜らしいデザインや物語性のある、歩いて楽しい空間を求めている。</p>
<p>海辺には自然を感じられるハーバーや海中公園を設置し、商業エリアではガス灯や横浜ゆかりの文化を取り入れたい。</p>
<p>海の現状を知ること、環境意識や学びにつながると期待しているため、海に触れることのできる場を求めている。</p>
<p>「イトコドリ・ヨコハマ」というキーワードで、森・海・景色、色々なものを楽しめる場所を作れたらいいと思う。</p>
<p>-</p>
<p>-</p> <p>多様な場面で柔軟に活用できる場所も必要であると考えたため、平時はイベント広場、災害時は物資受入拠点となるような、オープンスペースを求めている。</p>

Bグループ

発表内容及び各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想い
<p>横浜は日本初が多く、貿易の拠点であり、横浜が国際化する拠点であったことをハイカラと捉え、山下ふ頭を「ハイカラ特区」として再生し、歴史・文化・国際性を活かした魅力ある拠点を目指す。</p> <p>横浜には豊かな歴史・文化が息づいているため、「歴史と文化を象徴するハイカラ特区」としての山下ふ頭の再生を求めている。</p>
<p>横浜はこれまで変化を受け止めた場所であり、単なる施設を集積するのではなく、多様な方が集まり、芸術が表現できる場があると良い。</p> <p>海に囲まれた広い土地という特性を活かし、自由度の高い表現の場にできると考えたため、横浜らしい古き良き文化・芸術・音楽が息づく賑わいの創出を求めている。</p> <p>幅広い方々が行きたいと思うきっかけが重要であると考えたため、シンボリックなアート作品や建築など、「行く理由」となる象徴の整備を求めている。</p>
<p>企業が投資したいと思わせるような仕掛けも必要であり、立地を生かした潮風を感じる景観とイベントでにぎわいを創出する。</p> <p>持続的な賑わいには、民間の投資意欲を高めるブランディングが必要だと認識しているため、民間企業が投資したくなる環境を求めている。</p>
<p>市民が憩い、健康増進を図れるよう、屋内外が一体となった空間がほしい。</p> <p>文化・芸術などさまざまな活動に日常的に触れることが、暮らしを豊かにすると考えたため、市民の憩いの場となり、健康増進にも寄与するような、緑地や屋内外が一体となった空間を求めている。</p>
<p>民間の知恵を取り入れながら、未来に向けた文化発信の場とし、市民の誇りとなるアイデンティティとなることを期待する。</p> <p>「山下埠頭」という場所自体の認知度が低く、十分に発信されていないと感じており、芸術・文化の発信力が他地域に比べ弱いという問題意識があるため、文化・芸術を軸とした横浜らしい魅力発信の強化を求めている。</p> <p>市民が働く・学ぶ・創造する場として、より深く関わることでシビックプライドを高めたいと感じているため、歴史・文化・技術を学べる教育的な場の醸成も求めている。</p>
<p>—</p> <p>周辺エリアとの回遊性が十分に確保されていないため、山下ふ頭から周辺へ回遊が広がる交通ネットワークと、水上交通の活用を求めている。</p>

Cグループ

発表内容及び各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想い
<p>市民として大事なものは財政面や公共インフラの整備などに寄与することではないかと考え、山下ふ頭を技術革新と自然共生の拠点としたい。</p>
<p>多額の税金が投入される以上、「横浜市にどう還元されるのか」を重視しているため、市財政や公共インフラに寄与する、持続性の高いまちづくりを求めている。</p>
<p>テクノロジーと自然の両方があることで、働く人の心身の健康、イノベーションの質の向上につながると考えたため、山下ふ頭を「YOKOHAMA ツインズ テックとネイチャー」として、「技術革新と自然共生」の拠点とし、エンジニア・エリアと水・森・憩いエリアを対に整備することを求めている。</p>
<p>横浜が港町として多文化・多国籍の歴史を持つことから、技術者・企業・市民・インバウンドが交わる国際的拠点がふさわしいと感じたため、多国籍の企業・技術者が集まるイノベーション拠点の形成を求めている。</p>
<p>研究開発と憩いの場を融合し、働く人がリフレッシュでき、若者が最先端の技術に触れあうことで、一過性ではなく持続的なものとして作り出せる空間づくりがよい。</p>
<p>「閉ざされたふ頭」ではなく、「誰にも開かれたふ頭」であってほしいという思いがあるため、技術者や市民がリフレッシュできる、開かれた森・水辺の憩い空間を求めている。</p>
<p>将来の産業を担う人材を育てることが不可欠であるため、こどもや若者が最先端技術に触れ、学べる環境の整備を求めている。</p>
<p>一時的なイベント性よりも、「新しい産業の育成」や雇用・税収など、長期的な効果を期待しているため、研究開発拠点や先端産業の集積の促進を求めている。</p>
<p>交通整備だけでは人は来ず、「行く価値」とセットで考える必要があると捉えているため、最先端技術や自然環境を活かした体験を求めている。</p>
<p>環境負荷の少ない次世代型都市づくりを推進するため、次世代エネルギーやエコな移動手段（トゥクトゥク号・ゴンドラ）など、グリーン技術の実装を求めている。</p>
<p>地盤や防災への懸念から、安全性と持続性を優先したいと考えたため、安心して長く使い続けられる空間を求めている。</p>

Dグループ

発表内容及び各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想い
これまでの議論を通じて、「誰もが気軽に訪れ、繋がりを感じられる空間」が重要と考えた。山下ふ頭の3本の指をイメージし、3つのテーマを掲げた。
①移動手段の楽しさと利便性を両立し、車・電車・水上交通を観光資源化。
初めて来る人でも迷わず、気軽に来られることが、賑わいの土台になると考えたため、誰もが気軽に訪れ、繋がりを感じられ、目的がなくても、散歩や“ふらっと来るだけ”で楽しめる空間を求めている。
移動手段を楽しめるようにすることで、山下ふ頭だけでなく横浜全体の魅力向上につながることを期待しているため、分かりやすく便利なアクセスに加えて移動手段そのものを楽しめる「移動のコンテンツ化」を求めている。
②市民から観光客まで、ふらっと来て参加できる多様な体験を提供。
山下ふ頭が「特別なイベントの時だけ行く場所」ではなく、「あそこに行けば何かやっていると思える場所」があることが、日常の楽しみや地域の活力につながると感じているため、日常的な賑わいの創出を求めている。
多様な世代・属性の人が集まることで、出会いや交流が生まれ、繋がりを感じやすくなると考えたため、子どもからシニア、観光客、海外の人まで、多様な人が楽しめるエリア構成を求めている。
③まち全体に統一感あるデザインを施し、歩くだけで楽しめる魅力を創出。
港町横浜らしい景観を埠頭全体で感じられることで、「ここならではの」の価値が生まれると感じているため、港町・横浜の街並みをテーマにした、一貫性のある情緒的な景観を求めている。
-
誰もが気軽にまちを回遊できる環境が経済に良い影響を与えると考えたため、周辺地域・観光地との連携による、横浜全体の活性化と経済循環の促進を求めている。

Eグループ

発表内容及び各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想い	
最も重視したのは「横浜市民のための場所」であること。	
現状の海沿い・観光地は「観光客向け」で、地元民はあまり行かないと感じているため、「横浜市民のための場所」になることを求めている。	
横浜市民の暮らしを豊かにする空間を求めているため、心が豊かになり、リラックス・リフレッシュできる広々とした憩いの場を求めている。	
横浜らしい景観はアイデンティティでもあるのでそれを大切にしたい場所にしてほしい。	
横浜らしい景観が「シビックプライド（誇り）」の源泉であり、それを守りたいため、アイデンティティ（山下公園やベイブリッジ等との調和など）を大切にすることを求めている。	
市民に利益を還元できる持続可能な仕組みを構築できるとよい。	
税収を最大化しコストをミニマムにすることで、市民への還元につながると考えたため、税収とコストのバランスが取れた持続可能な環境や、建物投資の民間主体化と税金の市の支出の縮減を求めている。	
持続可能にしていくために、安全性、防災・防犯、維持管理を考慮し、段階的な開発を行うことも考えられる。	
埋立地という立地から、地震・津波・液状化への不安が強く、安全性を最優先したいため、防災・防犯・維持管理を踏まえた再開発を求めている。	
大規模に一気につくるよりも、「徐々につくる、試しながらつくる」方がリスクを抑えられると考えたため、段階的な開発や「何も作らないトライアル」も含めた柔軟な進め方を求めている。	
コストと税収のバランスを図り、次世代に資産を残す現実的な再開発をしてほしい。	
税金が投入される以上、「税収>コスト」「ランニングコスト最小化」が前提と考えたため、バランスを図りながら、次の世代につながるまちづくりの実現を求めている。	
-	
企業やものづくりの力を活かすことで、横浜の産業基盤を強化し、企業を引き止める力にしたいと考えたため、企業が参画運営するパビリオンや文化施設、ものづくり・イノベーションを伝え学べる場を求めている。	

F グループ

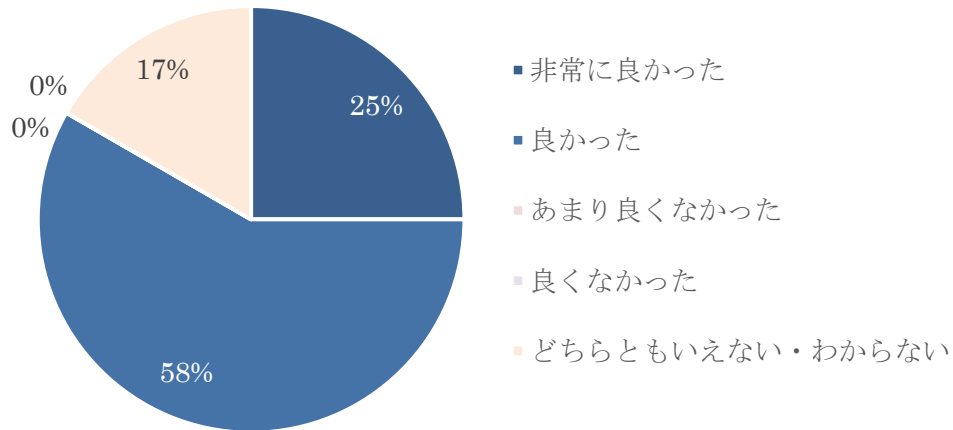
発表内容及び各回の議論を通じて把握した意見や、その背景にある想い
<p>「海と緑の再生とワクワク体験」「進化し続ける、終わらない進化」「ヨコハマブルーを目指して」に焦点を当てた。</p> <p>「楽しくなければ人は来ない」と考えたため、環境やエネルギーと結び付けながら、「海と緑の再生とワクワク体験」を両立した山下ふ頭を求めている。</p>
<p>海の浄化や稚魚放流など環境再生を推進し、こどもたちが体験できる場を創出する。</p> <p>横浜のイメージカラーである「青」にふさわしい、きれいな海を取り戻したいと願っているため、海の浄化、稚魚・稚貝放流など、環境再生が“見える・体験できる”場を求めている。</p> <p>こどもたちの遠足などをきっかけに、家族や多様な人が何度も訪れる場所にしたいと考えたため、大人も子どもも楽しく学び・参加できる、季節イベントや体験プログラムを求めている。</p>
<p>様々な方法を試し、新たな発電方法を産官学共同で進めることで進化を生み出していく。</p> <p>環境負荷の高い時代を経て、「今から作り変えるなら環境への配慮を」との思いが強いため、産官学で新たな発電方法に挑戦し、ゼロカーボンを先導するエネルギー拠点を求めている。</p>
<p>最先端技術を活用して生まれた野菜などは収益に変え、学校給食に活用することも考えられる。</p> <p>エネルギーを自前で賄うことが、平時の環境負荷軽減だけでなく、防災の観点からも重要だと考えたため、野菜ハウス・植物園・野菜工場などにおいて、食・エネルギーを結びつけた最先端技術の導入を求めている。</p> <p>「市民への還元」を実感しやすくしたいと考えたため、野菜工場の収益を施設管理や学校給食に還元する、地域に戻ってくる循環を求めている。</p>
<p>横浜のイメージカラーはブルーであり、海もきれいな青になってほしい。</p> <p>現地を見た「グレーのふ頭と海」を受け、「このままでは人が来たいと思えない」と感じたため、「ヨコハマブルー」の海と緑に包まれた場所への転換を求めている。</p>
<p>人が訪れたいくなる魅力を高めるため、裸足で寝転がれる芝生など、憩いの場としての緑やフレキシブルな空間を求めている。</p>

4 参加者の感想

市民検討会（全5回）の終了後、参加者36名全員を対象にアンケートを実施し、ご意見やご感想を伺いました。以下に、その結果を示します。

(1) 無作為抽出による抽出について

「市民検討会の参加者を無作為抽出（住民基本台帳から5,000人）により募集しましたが、この方法についてどのように思いますか？」という設問にてご意見をお伺いしたところ、グラフのとおり全体の約83%がよかったと回答しています。



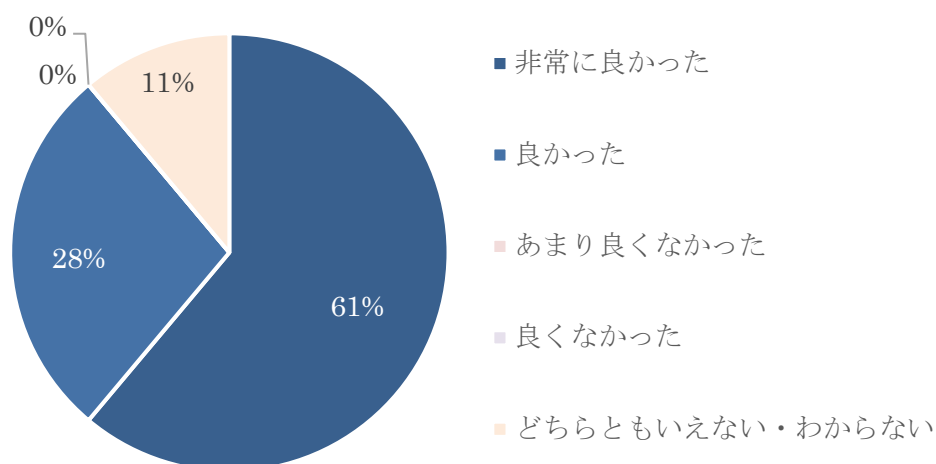
自由記述により、参加者に上記意見をお伺いしたところ、以下のような意見がありました。

<参加者の声>

- ・募集という形にしてしまうと山下ふ頭に強い関心を抱いている層しか集まらないため、意見の偏りが生じてしまうと思うから
- ・無作為抽出は平等と考えられます。色々なタイプの人に参加出来ます
- ・無作為の抽選により、知って興味を持つ機会が出来たため
- ・一般的市民の感覚が反映しやすい面があると思います
- ・無作為抽出によりバイアスのかからない母集団を形成できたこと。一方、問題意識・課題意識が希薄という課題もある

(2) 市民検討会の満足度について

「市民検討会に参加していかがでしたか？」という設問にてご意見をお伺いしたところ、グラフのとおり全体の約89%がよかったと回答しています。



自由記述により、参加者に上記意見をお伺いしたところ、以下のような意見がありました。

<参加者の声>

- ・年代層の違う色々な人達と一つの論点で意見交換ができ有意義な時間でした
- ・まちづくりや、横浜市の行政に興味を持つきっかけになりました
- ・市政に参画できた実感を覚えた
- ・自分の住む地域について考える良い機会だったと感じた
- ・様々な職、年代の方と話し合いをする機会に参加できて、いい刺激になりました
- ・横浜市民としての意識を持つきっかけになったと思います